

温知餘筆

卷之十二

寄贈 秋山文庫 (伊勢灣台風水入本) 昭36修理製本

桑名市立図書館

秋山文庫
2-185
7

溫知錄筆

卷之十一

温知餘筆卷之九 正誤

全	學談 一枚表 九行 (二人ヒ)	ハ	(一人モ)	全	十三枚表 二行 (血身)	ハ	(血身)
全	二枚表 七行 (學筋)	ハ	(學筋)	全	裏十四行 (實。實理)	ハ	(實理。實理)
全	三枚表 四行 (封爻)	ハ	(封爻)	全	十五枚裏 九行 (喫)	ハ	(喫)
全	表十四行 (筋)	ハ	(筋)	全	十七枚表 二行 (焉景)	ハ	(焉景)
全	八枚裏 三行 (ドデウモ)	ハ	(ドウデモ)	全	十八枚表 二行 (句讀氏)	ハ	(句讀師)
全	九枚裏 三行 (周公アト)	ハ	(周公ナド)	全	全 全 五行 (上京市)	ハ	(上京師)
全	全 全 六行 (死ッテ)	ハ	(死ッテ)	全	全 全 全 行 (已而聘)	ハ	(已而聘)
全	全 全 七行 (聖人ノ意)	ハ	(聖人ノ位)	全	學談附錄 二枚表 二行 (高妙)	ハ	(高妙)
全	十一枚裏 三行 (勿爲。爭)	ハ	(勿爲。闘。争)	全	全 全 四行 (高妙)	ハ	(高妙)
全	全 全 四行 (若有。)	ハ	(若有。闘。)	全	四枚裏 十一行 (藝。本。學。末)	ハ	(學。藝。本。末)
全	全 全 十一行 (爲。候也)	ハ	(爲。候也)	全	五枚表 四行 (サル知ラズ)	ハ	(サル知ラズ)
全	十二枚表 一行 (實)	ハ	(實)	附	錄 一枚裏 二、三行 (テ跡)	ハ	(テ跡)
全	全 裏 十行 (ソコナト)	ハ	(ソコナト)				

温知餘筆卷之十一

學談 十一

礫川遺書抄 奥平樓遲庵先生遺書

東聞錄抄 寛政三年辛亥所錄先生時年二十三

幸田翁曰 關齋ノ門何某ト云一老人アリソノモノニ直ニ聞タニ直方
 ヤ安正ガ學問出精シタト云フハ誠ニ凡チ越ヘタヌサマシキコトデ
 アツタ中々言語ノ及ブコトデナイ今ノハソレカラミレバホンノ眞
 似事ト云フモノナリ

○又云ソノカミ師匠 野田先生ノ前デ太極圖說ヲ講ズ師云中々承リ事
 決シテ及バヌト稱美セリ予ガ講說ヲ師聞書セラレタリ右ノ聞書近
 頃マデアリタ今讀ンデ見レバイカサマソノカミノ講解委シクスマ
 レタコトニテアリシ今ハアレ程ニハイカヌ

○又曰予ガ學問精出ス時分ヨホド精力ヲ用キタモフ死ヌカト思フ
 コトハ度々デアツタト



機謂本篇第一條及本條ヲ讀テ先輩ノ如何ニ斯學ニ精力ヲ盡サレ
シヲ思フベシ今ノハハカシノ眞似事トアルモソノ拔群ナル者ニ比
シテノ事ニテ中々吾人ノ用力ノ比ニハ非ルナリ吾人ノ用力既ニ
先輩ノ十ノ一ニ及バズ後人ノ用力又更ニ及バザル所アラシコト
ヲ恐ル用力至ラズシテ得ル所アルヲ望ム難シ其極得ル所アルヲ
望ムノ志ヲ并セテ之ヲ失ヒ利途ニ役々トシテ空シク生涯ヲ了シ
テ自ラ知ラザラントス恐ルベキノ甚シキナリ讀者草々看過スル
勿レ

○又云立身ノ望ガアルナレバ學問ハアガラヌコレハ學問ニ甚ダ敵
藥ナリト

○又云部康節伊川ヲ花見ニ誘ハレシ時伊川云願未嘗看花ト云ハレ
タレバ康節云何厭造化生々尤好看トヤラン云ハレテ伊川同道ニテ
花見ニ行レタコトアリ其意ヲ嘉先生ノ弟子高田未伯芳野ニテ詠シ
歌

諸人ノ袖ヲツラヌル木ノ下ニ花ノコトヲ知ル人ゾナキ
造化生々ソムマミヲ知ツタ人ガナイト云フ心也面白シト

○又云誠意ト云ハ必竟致知ヲ知ツタ通り意ニ發スルマデナリソコ
ニウヨリトスルソリヤイヤナ者ガ出ルガキニ切テ落テ誠意也

○又云養庵問嘉先生云今マサニ何ヲ書ヲカ讀マント翁答云訓門人
訓門人ト養庵ノ學問ハ訓門人デアガツタト

○稻葉默齋先生云學問ニハ見處ト云關所ガアルコレヲ越サネバ
ツマデモ田舎人ナリユノ關所ヲ越スニハ文字ト云路銀ガナケレバ
イカレズ路銀ガアツタモ傳來ノ旨訣ト云手形ガナケレバ關所ガ通
ラレヌ此手形ハ師匠カラ貰フテユクガヨシ

機謂普通ノ儒者デハコノ手形ヲ持タヌソレ故學者ハ師ヲ擇ブコ
トガ大切ナリユノ手形ヲ持タヌ師弟ハコノ關所ガ通ラレヌ故皆
脇ヘツレテ宅岐曲徑ヘ迷ヒ入りテ終身骨折テモ本道ヘ出ラレズ
○ニヌム斯學アルヲ知ラズ學術ノハキトナイ者ハ皆ソレナリ

○又云文會筆錄ヲ案内者トシ鞭策録ヲ杖ニツイテ行クナラバイカナル悪魔デモハラヒノケルデアラフ
○又云程門ノ遺風デ朱子ノ定説ヲ熟復スルガ吾黨闇齋以下諸先達ノ學問也

○又云佐藤翁云ヘル迂齋野田永井ユノ三人ハ心ニ近ヅキノ男シヤ後來頼母シイト果シテ三人ナガラ道統ニアツカレリ
○又云今ノ學者ハ公儀ノ役人道申テスル構ヲモ入先徒士カラ鎗挾箱合羽籠ト何モカモ揃フテリツバナリ殘ル所ナシ然ルニ道中デ馬士チキメタリ問屋場ヲ小言云タリシテ行ク西行ノ風呂敷包背負フテ富士ヲ見ル處ノ氣象風情ハホカラサイ
○又云小學ノ大切ト云ハ大學ノ土臺ナレバ也ユノ土臺ガナカレバ大學ノ普請ハナラヌ

○又云小學モ理デ合點スルユトナリサレバ格物ヅ
○又云周書抄畧程書抄畧朱書抄畧ハ闇齋先生自ラ撰バレタリ張書

抄略ハ佐藤先生へ仰付ラレテ直方ノ抄略也纔カ二十日ノ内ニ抄略モラレシ由嘉先生モ及バヌトテ感心セラレタ周程朱抄畧ハヨホト神道ガ手傳フツツカリト見ルト誤ル心得ベキユト也

○又云余ヲ以テ闇齋先生ヲ見レバ南軒東萊ニモマサル延平ノ如キ師ニ親炙アラバ朱子ノ如クナラルハ人ナラント
○又云昔年尙齋先生天木時中久米順利ノ輩ト野外へ出ラル折節雉ノ居ルヲ見尙齋ノ家僕聲ヲアゲテ雉ガオサマスト云テ何レモ返答チク行ルハ家僕又大音聲ニテアレバ雉ガ居マスト云時中顧テ叱シテ汝ハ形而下ノモノ計リニ目ヲツケルト云テ家僕ハ何ノ辨ヘモナク從ヒユクトニカク形而上ナルモノニ目ノツカヌハ氣ノ毒ナモノナリト

機謂豈只此僕ノミナランヤ後世形而下ノセンギハ色々スルガ形而上ニ目ヲツケル者ガナイ甚キハソノ形而上下ノ何者ナルヤモ并へ知ラヌソレテ道理ニ黒闇ナリ本條ヲ讀ンテ警ム所ヲ知ルベ

キナリ

○示默齋

一講習一日も怠慢すべからず奇説を貴て并ふ人を輕むあなごるべからず

一應事接物禮節を守るべし

一酒宴遊興佚遊并ふ朝寢無用之事火之元念を入るべし

右三條事尤卑近。而所繫甚重矣。汝項門一針也。

寶曆庚辰六月廿四日

迂齋老人識

○訂翁資稟豪邁傑出幼ヨリ事ヲ事トセズ長トナルニ及シテ放蕩青樓ニ遊シテ常ニ一長劍ヲ帶シ市井ヲ橫行シ激昂負氣翁ノ父母大ニ之ヲ憂ヒ語翁之伯母曰伯男某ハ謹厚更ニ掛念セズ季男順利放蕩予心ヲ安クヌル能ハズト翁聞之乍ナ悟リ大ニ悔ヒ泚然トシテ曰吾大不孝速ニ改メズンバアルベカラズト即日行テ改メ謹言異順由禮法時翁年翁ノ父母見之大ニ悅ベルヲ限リナシ

機謂人初ヨリ過ヲ能ハズ能改過ヲ貴シト爲ヌ而過ヲ改ム事亦難シ子路ノ百世ノ師ト稱セラル、モ其過ヲ改ムルニ勇ナルヲ以テナリ訂翁資稟豪邁此過アリト雖只其勇是ヲ以テ改過ニ勇ニシテ一朝改過遷善他日大儒ト爲ル實ニ此ニ基ス今過ヲ見テ速ニ決スル能ハズグツ／＼シテ居ル様ヲハ決シテ成學ヲ望ハナイ此條ヲ讀ムニ當リ大ニ猛省スベキ所ナリ

○訂翁云予十七歲粟田口ノ一長劍ヲ帶シ只一人七墓廻リニ出ヅ墓ハ京師物怪之地其夜深更アル深山ノ中ニ至ル林中ノクサムヲニ炎火アリ是ハアブナシト踏ケシテ歸リシガ今ニシテコレヲ思ハバアレハアブナイ火デハナカリシ陰火ニテアリシト

○訂翁云一目十行トモニ下ルコト方孝孺ニ讓ラズト云々
○訂翁尙齋先生ニ謂テ云小生德義ニ至リテハ中々先生ニ不及コト遠シ然ルニ伶俐ノ處ハ先生ト雖餘リマケハセヌト云ハレタレバ尙翁云ナル程然リト

○天木時中ノ死ナレタ時尙齋先生甚ダ歎息シテ道統ハモハヤ絶ル
トテ文章ヲ書キテ歎カレタソレヲ聞クト訂翁甚ダ立腹ニテ直グニ
カケツテ其文章ニ道統ヲツグ人ナシトハ扱々ヒカシキコトナ
リ破リ棄ラレヨト云ハレタレバ尤トテ尙齋先生カノ文章ヲヤブリ
棄ラル

○訂翁師事尙齋先生ノ時京師ニハ綱齋先生ヲ始トシテ闇齋先生ノ
高弟充滿ス然ルニ訂翁尙齋先生ノ外カツテ一人モマシヘズ一味
尙齋先生ヲ純信ス後訂翁教授諸生望ノカハル人ハ他ノ學者ニ接見
機謂ヨレハ甚ダ一コソノ事ノ様ニ見ユレドモ學者ガ其師ヲ純信
スルコトハヨレ程デナケレバ其師ノ學ヲ繼グニ足ラズ無常師ハ
聖人ノ事學者ハ師ヲ信ズルコト專一ヲナラハナラヌ後世ノ人
ドレモ皆師ト思フテ居ル者ガアルソレユヘ其學術ヲ言フベキ者
ガナ不此ノ處ニタラシク可考草々ニ看過スル勿レ

○訂翁ノ門人内海奎問テ云先生ニハイツノ頃ヨリ閑雜思慮ナキヤ
ト聞タレバイヤ四十コシチカラノコトシヤト云ハレタ板倉云イヤ
訂翁自己ニハサフイハルハナレドモ翁ハ生來閑雜思慮ノサキ人ナ
リ古ノ狂者ト云ガアノ様ナモノナラシ一言一行凡テ卓然脱俗マテ
ノナリソフナコトハ一ツモナイ誠ニヨツテモツカレヌコト計リ也
ト

○訂翁居家尤嚴治家雖細事皆有法一日内海奎訂翁ノ宅ニ夜直セリ
其夜成時前訂翁就寢翌旦寅刻過起ラレ峽帳ノ内デ靜坐デモシラ
ルハ様子ナリスデニ卯ノ刻前ニ至リ奎ヲ呼ル奎便ヲ起テ至ル翁云
手水ノ湯ヲワカサレニ奎便ヲ燒付ル翁又奎ヲ呼テ奎至ル翁曰行燈
ヲ掃除アルベシ皿ノ油ヲ盡ク油壺ヘ入タシ且紙ニテ臺ヲフキ覆ノ
紙袋ヲカケ押入ヘ入ラレニ奎便ヲシカス翁云湯スデニワカシ其火
ヲ茶ノ下ヘウツシ且湯ヲ汲來レ我手水ヲ遣フ子亦カノ湯ニテ手水
ヲツカヘ奎スナハナ湯ヲ見ル果シテ大ニワク便ヲ湯ヲクシ翁ニ奉
グ奎モ湯ヲ遣フ翁手水終リ奎ヲ呼テ云茶スデニワカ茶漬ヲクレ

ラレヨ子亦食へ空便テ茶ヲ見ル果シテ茶スデニワク便テ翁へ食事ヲ進メ其身モ飯ヲ喫シ終ル時ニ卯ノ中刻ニ至ラズ翁ノ家政三百六十日イツモ如此其齊整見ルベシ

○訂翁云二三子必ズ聖人ニハナラレヌコトト思フベカラズ予近頃略聖賢ノ氣象ヲミル只身未能至其境

○訂翁ガ晩年門人ニ咄サル、ニハオレガ死ンダアトデモ人ガ斷次ハドノヤウナ人ト聞タナラバ吝クモナシ奢リモセズ酒ガアレバ人ト飲ミヨロヨンデ機嫌ヨク咄シタ徳モ何モナカツタソフナト云テ下サレト

機謂此先生自ラ其實ヲ言テ其言謙セリ其徳亦自ラ此中ニ就テ見ルベシ

○訂翁ヲ溝口侯ヨリ格別ニ招待アリ禮幣尤至ル翁固辭シテ不出使者歸ル跡ニテ弘毅板倉兵ヲヨシ次郎兵ヲヨシ云コノ訂齋五萬石位ノ輔佐デモアルマイト云テ大ニ笑フ板倉子云先生ハ實ニ天下ヲ

○宇井訂翁ニ見ユ翁云貴丈ナド學問ヲ始メテ仕合セモシ不然レバコノ粟田口ニカヤツテ果ル男シヤト粟田口ハ訂翁重代ノ云先生ハイカント翁云オレモソレ刀ソレヲ願ミテ云小一直ニ

○訂翁謂板倉曰子亦豪氣也歸國後任官セバ必ズ禍ヲウケント板倉云今ニシテ訂翁ノ言思ホアタル役所へ出ル前思フニ今日コソ八分

ニ云ベシト其出ルニ及ンデハコラヘラレズツイ十一云テ歸ルト板倉ノ氣亦トスベシ機板倉翁號震齋越後新發田藩人

○幸田翁云諸生讀書ヲ久クシテ眠テ催シタ時ナゼホマイナド、考ヘルト眠益々甚クナルモノナリコレヲサマスノ方有一無他直ガニ立テウガイヲセヨ

○訂翁云世間ノ人ヨリワレヲ見タラバキツイ不仕合ナ人老テ子ナク且一生貧家ニ暮シタト云ベシ然ニワレハサフハ思ハヌ世ニハ人間ト生レテガラ人ノ道ヲモ不聞シテ終身利欲ノ域ニ奔走シテ自ラ悟ラズ犬馬ト共ニ老死スル者モアルニ予ハ幸ニシテ聖學ニ入り道

聞キ天命ヲ奉シテ死ス内ニ願ミテ不疚心ガカリ一ツモナシオレ
州下仕合ナモノハマダヌクヲカラント自身ニハ甚ダ悦ビニタヘズ
○葛西ノ里正左衛門吉幸翁默翁ヲ尊信ス年六十ニ近シ其宅幸翁ト隔
ルト三里然ルニ常ニ往來シテ道ヲ求ム又日原志水ノ二子ヲ厚ク信
シ常ニ往來シテ益ヲ求ム默翁嘗テ甚ダ之ヲ稱セリ
○吉云幸翁ハ甚ダシカリツケツキハナザル、又無可依據默翁ハ甚
ダシカラル、ト雖又跡カラハ懇ニク、メル様ニ能ク教ヘテ下サル
又云幸翁ハ父ノ如シ默翁ハ母ノ如シコレヲ思フニ幸翁ハ高大也
○曾テ幸翁默翁同船ニテ釣ニ出ツ吾亦在リ時ニ俄カニ大雨益ヲ傾
クルガ如シ水主赤裸ニナリ大ニ勸ク然ルニ雨ツヨクフリ船中水流
ル默翁水主ノスベラシクテ恐レテ彼ガ蹈ム處ノ舟板ニ鼻紙ヲ出シ
テシガル幸翁コレヲ見テ云彼自ラ用心ス何ゾ落ルトアラント自若
トシテ酒ヲ飲ム其ウチニ幸翁ノ從者一人俄カニ腹痛ムトテ船中ヲ
ハヒアルク默翁懷中ノ藥ヲ出シコレニ與ヘ甚ダ介抱ス幸翁顧テ云

汝腹痛ムカ追付直ルベレトマダノ願ミズ唯笑語怡々酒ヲ飲ムノミ
○幸翁知見高大常ニ人ヲ人トセズ然ルニ默翁ヲ稱シテ云嗚呼眞ノ
英才哉ト

○板倉子當時久米翁ニ京師ニ從學スルト五年勉強苦學未嘗夜就寢
看書毎夜到丑刻ソレヨリ机案ニヨリテ眠リ到卯時便テ起テ書ヲ看
ル常ニ如此

○内海奎訂翁晩年ニ京師ニ從學ス訂翁易筭ノ時喪事ヲダスク一ニ
其師ヲ純信ス訂翁克己ノ章三工夫ノ説諸君子ノ論不一然ルニ奎ヨ
レテ信シテ少シモ疑意ナシ自ラ云クノ味知ル人少シ

○訂翁奎ニ示シテ云ク二六時中リンノサマノトシテワツカリ
キヨロリトセヌ様ニ心ガクベシト

○佐藤翁謂迂齋曰人欲ノ卷頭アリ知ルヤ迂齋請問曰ワレテ是ト思
フコレ人欲ノ卷頭也ト河本氏

○永井隱求佐藤翁ニ學ブ始テ入門謁見スルノ日佐藤翁便テ半切百

校典ヘテコレヲツガシム

○隱求年ノ暮ニ先生ヘ謝禮其數不定或ハ半切紙百枚又ハ于魚二尾時トレテハ中金壹兩二兩ヲオクル我家計ノ有無ニ隨フ自ラ云師恩至テ厚シ一ツモコレヲ報ズル能ハズ只我分ニ隨テ誠ヲ盡スノミ

○某侯茶事ヲ利休ニ學ブ一日侯菓子一箱ヲ利休ニオクル利休スナハナ箱ヲ開キ箸ヲ以テカキマツシ見テ云某侯茶事上達スト蓋シ菓子箱下ホドヨイ菓子ガアリシト其實ニツク可見茶サヘ如此右三條

○幸田翁云朱子論曹操曰明利害ト一言ニシテ曹操ヲ盡ス

○訂翁門人何某仙臺資性遲鈍遊學教師市中常ニ色々ノ見セ物アリ或時ヘナノ見セ物ト云テ人ノ集ム何某即チ入テコレヲ見ルニ鍋一ツフセテアルノミナリ衆皆大笑ス何某其意ヲ了セズ歸リ同門宇井ニソノ咄ヲナシテ合點ユカズ云フ宇井大ニ笑フテ云ナベナフセテオクユヘナ也再三コレヲイヘドモ何某合點セズ二三日ヲ經テ後ニ成程先日ノ見セ物今ニシテ合點シタリト其遲鈍甚シト云ヘン又

何トカ云ヘル處ニ阿彌陀池ト云アリ其汀ニ立テ南無阿彌陀佛ト云ヘバ水底ヨリブク／＼ト泡出ツ昔ヨリ不思議ノコト云傳フ彼ノ何某其所ニ至リ池ニ臨ミテ念佛ヲ云テ見レバ果シテ泡ワキ出ツ暫ク按シテ云コレハ五音相應ノ理ニテコノ土地ナニヌホノ音相應スルナラント即チ何ニクト幾度モ唱ヘミルニ泡出ゾコレ何某始ノ遲鈍ニハ似ズ數百年來衆人ノ迷ヒナ一言ニシテ開ケリコレハ又頓悟ト云フベシ

○訂翁詩 生來豪氣質。不樂人口山。壯聞中正道。老脫名和關。讀書到白髮。杯酒日紅顏。生理身多事。誰憐心上閑。

殘暑責身百病生。或止飲食或昏睛。時思天祥獄中苦。正氣養來益清々。天地ニ塞ル吾氣ハツヨクレド身トムスビタルモノゾオトロソ

○世ヲ厭ヒ世ヲ營ムモコトハリヤ人ノ世ニヌム道ヲシラネバ訂翁和歌

○明道先生之詩 久厭塵籠萬慮昏。懇尋泉石暫清心。目勞足疲深山裏。

猶勝垂眉對俗人。

闇齋先生謂佐藤先生曰明道夫子之詩若于イツレノ詩カ最マサ
ルト佐藤翁舉此詩後又野田先生謂幸翁云明道ノ詩中イツレカ
最マサルト幸翁亦舉此詩以答暗ニ佐藤先生ト符合スト幸翁自
慢ナリ

○一學士某侯ニ仕ヘ近習ノ列タリ侯甚ダ放蕩コトニ乱舞ニ淫シ國
政ヲ治メス學士亦近習ノ列タレバ常ニ侯ト共ニ乱舞ヲナシ遊宴ス
然ルニ學士ノシカスル者ハ所志アレバナリ一日候ノ側ニ人ナシ學
士進テ云君公國政ヲ怠リ乱舞ニ淫ス甚ダヨロシキ處ニアラズト直
諫吐臆腸進ムルニ聖賢ノ道ヲ以テス侯ソノ至誠ニ感シ大ニ其言ヲ
用井即日亂舞放蕩盡クコレヲ絶テ道學ニ志シ國政大ニ改ル侯ハ酒
士ハ志子三〇今業志水三
九郎名義實迂齋先生門人
○東武疫病大ニ行ハル家々門柱ニ神符ヲ張ル仲嘉稱狂
次郎嘗テ不做俗
人々コレヲ進ム仲嘉スナハテ學友外絶討論ノ六字ヲ書シテコレヲ

書齋ノ入口ニ張ル云コレ予ガ神符ト默翁亦稱之

○默翁示狂生詩 萬事自有趣。道學最深長。休枉費心力。慰朝聞道望。
其二 觀海水自打。利劍排優拙。苟非遠識士。誰悟舊習劣。仲嘉

○齋藤俗稱文夜ニ入レバ甚クホムタガル學問始メテヨリ寒夜ロト
ヘ物一ツニナリ書サミル云コレデホムケガコト
機謂學者ハ是位ノイキゴミデナクテハ其癖ニ克テ學問ヲ仕上ル
コハナラヌ人々各其癖アリソノクセヲ知テ之ニ克テユクガ學問
ノ大事ナリ自ラ反省スベキトニコソ

○一日日原氏ヨリ歸リ路齋藤謂予曰聞ク度ニ珍ラシケレバ郭公イ
ツモ初音ノ心地ユソスレトハ日原ノ說話ノコナラント共ニ感歎ス

○日原以道稱小原太土年十五六ノ時ヨリ默齋先生ニ從テ學ブ每朝
ユイテ教ヲ求メ日暮ニ及ンテ歸ル歸レバ則テ獨リ書ヲ看義理ヲ推
窮シ丑ノ刻ニ至テ就寢外物ニ於テ一切嗜好ナシ自幼放蕩ノ行ナク

一味怡々學古人之書嘗テ朱子文集ヲ推窮ス毎日四十枚ツ、看義理ヲ研窮理會ス未幾終業

○默齋先生嘗云。後生如幸子榮日原以道。亦能會得道學旨訣。

總遊話錄抄

寛政癸丑正月九日啓行其夜下總登戸ニ宿レ翌十日未ノ刻上總福
俵邑北田慶年ガ宅ニ着ス慶年予ガ爲ニ饌ヲ饗ス乃飯ヲ喫シ沐浴
シ禮服ヲ整ヒ慶年ト共ニ孤松庵ヘ到ル○今按孤松庵ハ默齋先生
居ナリ○此錄寛政五年
癸丑ニ在リ先
時ニ年二十五

正月十日始テ先生ニ謁ス先生定時ガ上下ヲ見テ云サテ珍ラシイモ
ノヲ見テ慶年ヲ顧テ云ナント近所デ上下ヲ着タ者ノ來タテ見テ默
齋ハ死ンダカ葬禮シヤサフナト云テアテフサテ云幾日ホド逗留ノ
ツモリ定時云五十日計リノ積リ先生云親ノ膝下ヲ離レ百里モ隔テ
河本ノ方ヘ來テ居ルカラ見レ○今按是ヨリ先
先生江戶ニ在リ河本氏ノ塾ニ寓ス

河本氏ハ迂齋先生今度ハ誠ニ一トトビト云者ナレドモ然シ道ハ近
クテモ勤番サキデハナレテクルト云ハ百里隔テ、河本ヘキテ居ル
ヨリハアংশラレト○今按時ニ先生家君ニ隨テ江戶ニ在リ先
江戶ヨリ更ニ上總ヘ赴カレシナリ
二十日計リニシタガヨイソノカハリオレガ精ヲ出シ隨分ハカチヤ
ツテヤラフカフ口ガアケバマダシヨイ何レ今度ハ二十日デ歸リ又
四月時分デモキダガヨイ婢酒ヲアタ、メ出ス固ヨリ各盃ナリ先生
云キサマ酒ノムカ定時云少許ユレテ用ユ先生云スコシハヨイテ先
生定時及慶年各盃ニ盃ヲ引リ先生容貌尤雄壯ニシテ威嚴アリ然ル
ニ談笑怡々トシテ其和春風ノ如シ定時ニ謂テ云キツマ吝イカ定時
未ダ對ヘズ先生笑フテ云迂齋ナドドワカトイヘバシハイ方デアツ
タ學問ハ吝クナケレバナラヌアノ内ヘ、トタメルデナケレバ上
ガラヌ曾子ノ守約ガソコナリサテ先ヅ吾ダケヲ知ルガ大切ナトナ
リ人ヲ知ルヲ知トシ自ヲ知ルヲ明トスワガタケヲ知ラヌト折角骨
ヲ折テスル工夫ガマテガツテ居テ益ニナラヌ

機謂接遲庵先生ノ禮ヲ以テ其師ニ事ヘ默齋先生ノ親切ニ之ヲ教
誨スル此條ニ於テ之ヲ見ルベシ此師アリ此弟子アリ其學ヲ傳フ
ル所以ナリ學者明師ヲ擇シテ之ニ隨ハザル可ラザルナリ
○訂翁ガ若キ時議論ニマケルト千兩屋舖ヲ唯トラレル様ナ顔ヲシ
ラレタト彦明物語ナリコレモ任ズルカラノコナリ國ノ損毛誰モ苦
ニスルガ勝手方ノ者ハ格別ナリコレガオレガイツモ云精彩ゾアノ
任ズルカラ出ル精彩ゾ足輕ノ火ノ用心フレルナド精彩ハナイ
○メツタニ俗儒ノト云テ他宗ノ様ニ思フガサフシタコデハナイ鞭
策録ヲ講釋シテモ魂ヘ鞭策ト切込ダコナケレバ俗儒ナリ靖獻遺言
ヲ讀ンデモ忠臣デナケレバ靖獻遺言ノ訓誥ナリ來格說ヲ吟味シテ
モ祭りモセズコレ來格說ノ訓誥コレ俗儒ナリ楨七郎右衛門ガ直方
淺見兩先生ヘ貴公方學問ヲ精出スガ必ズ經學知リニナルナト云タカ
モナイ老輩デ有ツタガ右ノ一言ガイカフ兩先生ノ心得ニナツタ由
因テ笑フテ云ソノワルイ經學知リニモ大抵デナラル、コデナイオ

ヲ杯ガ經學知リシヤ
鬼神ハ太極ニカノアルノシヤ天即理也ハヒヤシテ云コトアノナテ
ギハ、ト云ハ鬼神ナリ
○孝行ト云ハ太極ト云様ナモノ孝子ト云ハ鬼神ナリ舜ヤ會子ヲ出
スガ功用
○性ハ道ノ實體デ學ノ淵源
○淺見先生ノハ浩然ノ章筆記傳五章ノ發明仁說物ノ說是レナリ三
宅先生ノハ來格說ナリ
○松浦侯ヤ土屋侯ガ折々迂齋ノ方ヘ見ヘテオレニアハウト云レタ
ガ始終アハズニシマツタ一度ハオレガ部屋ニ居ル時出雲様ガ見ヘ
テ又アハウト云レタケレドモ出ナシバ迂齋ガキテ何トゾ出ヨ
ト云タケレドモ出ナシダ其時櫻井清十郎ガ出雲様ガ御出デアハウ
ト仰セラル、ニナセ御出ナサレヌ其上迂齋先生ニモ出ヨト仰ラレ
ルニト云タ清十郎其時ノ貌ガヒドイ貌デアツタアレガ迂齋ニモト

云ヨリ出雲様ト云貌ガロドカツタ此時ノ貌ガ今アノ通り長崎ヘイ
ツテ居ル其時ニハ迂齋モナト不興デアツタ位ノコト兄ハ給仕ニ出
タサテ長島侯計リニハ出タソコデ長島侯モオレ計リニ默齋ガ出ル
ト思ハレタガシカシサフデハナイアレハ一向オレガ幼年ノ時分カ
ラ見ヘタ故兄ト兩人給仕ナシタモノ故ソレカラ始終出タ迂齋ノ不
快ノ節御不快ナラ又三郎ナト輕ク云テキタケレドモコレニハトシ
ト出處ナシニヂキニ代胍ト思フタイツタ朱子行狀チ一席カヨシダ
溝口侯ヘハオレガイク小一ガイク善太郎殿ガユク甚ダニギヤカデ
アツタソコデ松浦侯ヤ土屋侯ガ羨マシクテオレテ呼ビタガツタガ
呼ブ日ニハキツト迂齋ノ通りニアシラハネバナラヌ故用人ノ方ガ
ムツカシイ時勢ナリソコデ迂齋ノ方ヘキテオレニアウテ呼ビツケ
會デモ始メル存念ナレドモオレガ方ガ主デナク迂齋ノ方ヘ來テ呼
ビ出シテアハウトスルモノ故アハナシダ出テモワルクハナケレド
モ迂齋ト對坐ノ處ユヘ大名ヨリハ先ヅ迂齋ガ居ルデソコヘ出ルト

コナガ小僧ニナルソコデ出ヌ大名ニアハヌモ先ヅ出處ノアヤナリ
○直方先生ノ弟子ガ私昨日ナニノ用事デア席チ仕ラヌト云ヘ
バ直方云ア、コナノ損ナリイヒ譯ニハ及バヌト又私近來學問チ止
メマシタト云ヨリハ私近來畜生ニナリマシタト云ガヨイト此様チ
コトチ云者ハ直方ト目蓮ホカナイ
○直方云文義ガナガウト水チクレヨト云處ヘ枕チ持テユク様チコ
トガアル
○上繫辭傳ノ五章ハ聖學ノ總要ノ處ナリ子思ノ中庸孟子ノ性善周
子ノ太極皆アレカラ程子ノ動靜無端張子ノ言有無諸子之陋モ皆ア
レカラ出タモノ
○定時仲嘉ガ爲メニ先生ニ告シユトアリ因テ仲嘉ノ動靜チ委ク語
ル尙先生ノ心チ安ンゼント欲シテ云從學スル者次第ニ益ス春ニ至
ラバ其數計ルベカラズ其中甚ダ豪家アリト仲嘉ノ定時ニ語りシマ
、チ舉テ先生ニ告グ其翌日先生云昨日恭次郎ガ事ニツキ彼是云ハ

レシウナ一言甚ダアシキコトアリ定メテ吾子モ何心ナク云ヒツラ
ンガアノ恭次郎豪家アルノ一言ナリアノ豪家ガアルナド、云コト
甚以テワルキ文字ナリカリソメナ様ナコトデ恭次郎モ吾子へ何心
ナク云ツランガソコナバ得ト慮ルベキ所心術ガサフ云方へフリム
イテハ以ノ外ナコトナリト先生眉ヲ攢メテ云ヘリ

○信古堂命名ノ惡シキヲ論ズルニ因テ云溝口侯學校ヲ建テ名ヲツ
ケントテ相談アリソコデ道學堂トツケタ無器用ナ名ナレドモムリ
ニス、メテソレニシタアレデアノ學校ノアラン限リハ後々ニ至リ
テモ道學堂ト云額ノアリテ詩文章ヲ作ルコトハドウモナラヌ然レ
バ名ハ大切ナモノナリ

機謂凡ソ名ハ大事ナ者デウカトツケルユトデナイ學校ノ名ハ別
レテ大切ナモノ學術ヲ正シ人心ノ趨向ヲ定ムル所以ノ者ナリ

○徂徠ガ碁盤ノ目ヲミル如クトテ法デ計リキメル様ニ覺ヘテナル
ガサフデナイ仁義ノ良心カラ父々タリ子々タリト云様ニ目ヲモル

コトソコゾ小學ノ教ガ大切ナリ

○程書抄畧ハ闇齋先生微意アリ宋朝デ二程ヲ用イヌ故ツアレタ其
用井ラレヌカラ書ニナツタ論孟モソレ程書抄畧朱書抄畧ハ闇齋先
生ノ經濟ノ書ナリ

○尙翁ノ語ハ朱子ニ似佐藤先生ノ語ハ程子ニ似タ

○迂齋先生尙齋先生ニヨリ淺見先生へ見ユスナハナ尙翁ト共ニ淺
見先生ノ宅ニ至ル迂齋オモヘリ同門ナレバ朋友ナラント然ルニ淺
見先生尙翁ヲ見テ云尙齋オシヤツタカコレへ、尙齋ハツト云テ
アタマ下ゲラレタ誠ニ師弟ノ如キ様子ナリ儲尙翁ガ迂齋ノ淺見先
生ニ相見シタキ由其始末ヲ云レシカバ淺見先生云百三十里クル位
ナラ志ノアルノシヤ志ガアルナラ又ナヨツトキタガヨイ遠ク
モカイ佛者ナドハコンナ道ハナン共思ハヌト云ヘリ儲何ソ議論ガ
アツタト見ヘテ尙翁ガ此間江戸表カラ加様ナコトヲ申シ參リマン
タト云レタレバ淺見先生ガ五郎左衛門モ折節ムリヲ云テヤト云レ

タ是ヨリシテ後淺見先生ノ講席へ二十五席ホド出タガ迂齋ガフダ
シ淺見先生ノ説ヲ引タガトナソノ二十五席ノ中ナデ聞タノナリソ
ノ如ク僅カ二十五席ナレドモソレガ迂齋一生ノ受用ニナツタ
○佐藤先生ハ常羽二重デアツタ迂齋ナドガイカレルト團扇ヲ持テ
出テ十左コレヘドウシヤ不審ハナイカト因テ云迂齋云佐藤先生ガ
知リタクバ彦八殿今按先生ナリハ見ルガヨイイキウツシヤト彦八殿
ハセイノ高イ方デヒオツナモツタイノヨイ男ブリデアツタ佐藤元
來ドモリデ有リシヨシ然ルニ迂齋ナドモ其ドモリト云コトハ知ラ
ナンダ何ガ知惠雄辯デドモハ一向知レナンダヨシ然シ咄チシラル
、時下チタゞカレシ由ソコガトモノ所ト見ヘル彦八殿モ咄ノ時下
チタゞカレタコレハ佐藤先生ノガウツ、タノナリ迂齋ナドガ下チ
タゞク風采デハチカツタガ佐藤先生ノ語チ云時ニハ下チタゞイタ
○尙翁阿部侯チ去ラレシ後妖物屋舗ヘハイラレタソコデワルク云
タ者ガアリシ然シ尙翁ノハ物好キデイカレタデハナシアレハ直段

ガヤスカツタ故チラン
○渾然タルチ見ルハ牛シヤト見タノナリソレチ手前ヘ引付ケテ毛
チ一筋々々マデ見ルデチケレバ知ガハタラカヌ
○精采ノアルトナイトハ實心ノ有ル無イカラナリ病氣ノ時醫心メ
アル者ガトヤカク云ヨリ母親ガ枕元デアレガ夕々箇様デト咄ス方
ガ精彩ガアル可愛カラ出ル故ゾソコデ醫者ガソレカラシテ療治手
段出ルトモアル
○眼ガトゞイテ心法ガ嚴密デチケレバ道統トハイベヌ
○白賁堂講義
再有曰。夫子爲衛君乎。子貢曰。諾。吾將問之。
孔子衛國ニ居玉ヘン時御門人ノ再有ガ心ニ合點ノ行ヌ處ノアルニ
因テ門人同士話シ合テ申スニ我先生只今カクフ通り衛國ニ足チ止
メテ屠王フガ當主ス立ツテ君トナラレタチヨイト思召ツレニ荷擔

セラル、デアヲウカキサマハナント思フゾト云フ子貢答ヘテ申ス
 様不審セラル、處イカホマ尤至極シヤマア待玉ヘオレガヤガテ其
 事ヲ直ニ御伺申ス様ニ不マサフ
 爲。猶助也。衛君。出公輒也。靈公遂其世子蒯聵。公薨。而國人立蒯聵之子輒。
 於是晉納蒯聵。而輒拒之。時孔子居衛。衛人以蒯聵得罪于父。而輒嫡孫。當
 立故冉有疑而問之。諾。應辭也。爲ノ字去聲ニ讀テ其立ツノヲヨシト
 シテ荷擔セラル、心持カフ助ルキミニ見ルシヤ衛君ト云ハ出公輒
 シヤ出公ノ祖父靈公奧方南子ノ讒言ヲ信シ自分ノ太子蒯聵ヲ逐出
 ス靈公死ナレタ處ガ世嗣無キ故衛國中ノ人ガ蒯聵ノ子ノ輒ト云ヘ
 ルヲ立テ君トス兼テ家出セシ太子晉又國ニ身ヲ寄セテ居タリシサ
 是時ニ晉カラ世話ヲ致シテ父ノ死ナレタ跡ヘ入レテ君トセフトシ
 タ處ヲ輒ノ爲ニハ見在父ナガラ勸當ヲ受テ浪人セシ人故輒ハ父ト
 テモ用捨セス國ヘ入レシト軍ヲ起シテソレヲ拒グナリワシ孔子衛
 國ニ居合セラレタリ衛國中ノ人ノ了簡ニ蒯聵ハ罪ヲ父ニ得テ勸當

ヲ受テ人ナレバ今更歸テ其跡ヘ立ツ筋ハ無ソレダニ輒ハ靈公ノ
 爲ニ正シキ嫡孫ノトナレバ重キヲ承テ靈公ノ跡ヲ繼テ立ツベキ筈
 ダト思フテ居ル冉有モ其重キヲ承ルハサシ定リタル常法デアハアリ
 ソレニ孔子モ足テ留テ居玉フカタム、其立テ君トナルヲヨシトセ
 ラル、ニヤ乍去見在父ノ國ヘ歸リ入ラントスルヲヨセマイト云ハ
 天理ニ背イタ有ルマジキト疑フ處カラ不審ヲ立テソレヲ子貢ニ
 尋タモノ諾ハ應ヘル辭シヤ委細承知ト云様ナキミ自分モ疑フテハ
 ツキリセヌ處カラ答ガノロイシヤ
 扱モ合點ノ行ヌ當時衛國中ノ人ノ了見蒯聵ハ父ニ逐出サレタ人
 テ又歸リ立ツスガハナイハ聞ヘタガ輒ハ嫡孫デ當立トハ何ノ筋
 ヲ輒ハ父ガ別人ナラバ聞ヘタコトナレド蒯聵ガ父デハ異ナ物父
 ガ浪人シテ他國ニ在ナラ自分モ立退テ父ト一ツニアルベキ筈ツ
 レニ父ヲ見捨テ國ニ残り居ルノミカ承重テ君トナル筋ハナイマ
 シテ父ノ國ヘ入ラフトスルヲ入レマイト軍ヲ興シテ拒グコトハ

ア、ラ、フ、答、ハ、ナ、イ、衆、人、ノ、了、簡、ハ、嫡、孫、ト、云、ニ、バ、カ、リ、目、ガ、付、テ、父、ノ、穿、鑿、ハ、棚、へ、上、ゲ、テ、置、ク、モ、チ、カ、シ、イ、其、了、簡、違、ノ、本、ハ、靈、公、死、ナ、レ、テ、國、ニ、主、ナ、シ、此、時、社、稷、ガ、重、イ、ト、云、カ、ラ、出、タ、モ、シ、ヤ、尤、ラ、シ、イ、説、デ、大、抵、ノ、人、ハ、化、カ、サ、レ、ウ、ナ、レ、ト、相、手、ガ、父、子、ノ、天、倫、シ、ヤ、モ、ノ、土、地、人、民、ト、比、ベ、モ、ノ、ニ、ハ、決、シ、テ、ナ、ラ、ヌ、ト、云、テ、心、得、ヌ、カ、ラ、シ、ヤ、サ、ス、ガ、歴、々、ノ、御、弟、子、達、程、ア、ツ、テ、不、審、ガ、立、タ、シ、ヤ、註、ノ、疑、ノ、字、心、ヲ、付、テ、見、ル、ベ、シ、國、人、ノ、論、ヲ、尤、ト、思、フ、デ、ハ、ナ、ク、自、分、ノ、了、簡、ニ、違、ウ、テ、ソ、ウ、デ、ハ、ア、ル、マ、イ、ト、思、ヒ、ナ、ガ、ラ、夫、子、モ、足、ヲ、留、テ、御、出、ナ、サ、ル、處、カ、ラ、不、審、ハ、レ、ヤ、ラ、ズ、相、談、ニ、及、ビ、シ、コ、ト、コ、シ、ナ、處、ハ、今、日、學、者、修、行、ス、ル、上、デ、ハ、第、一、ニ、心、得、ル、キ、コ、ト、ナ、リ、

南合先生曰。眼孔大。故看得透紙背。

入曰。伯夷叔齊何人也。曰。古之賢人也。曰。怨乎。曰。求仁而得仁。又何怨。出曰。夫子不爲也。

サテ冉有二別レ子貢唯一人夫子ノ御出ナサル、處へ御見舞申シテ

衛國ノコトハ沙汰ナシニ昔ノ伯夷叔齊兄弟ノ人品ドレ程ノ人物ニヤ承リタシト申ス此ハ子貢ノ知見ノ明カニ格別ナ處デ衛國ノコトヲ申シテハ例ノ御厚イ思召デシカトシテ御答ハアルマイ此ハ一番掛リ合ノ無イ衛國ノコト、ウラハラナ古人ノコトヲ以テ伺フガヨイト心ノ中ニ案ジテ見タ處ガ是ハ伯夷叔齊ガ究竟シヤナゼト云ニ兄弟國ヲ讓リ合テ立退タ人達デ古人ノ中デモ各別ノ賢者只今ノ父子國争ヒトハウラハラナ仕方シカシ跡ハ甚ダ見事シヤガ心ノ中ガソレト一ツカドウデアラフ是ヲ伺ヘバ今日ノ不審モハレルワケト覺悟シテケ様ニ御伺申シタ物夫子ノ御答ニ此兩人ハ古昔ノスグレタ人ジヤト仰ラレタ處ガ子貢モソレ位ハ本ヨリ承知ナレド其心ノ中ガドフヤラ伺度ノ主意ニヘ又折返シテ御伺申上ルニ既ニ賢人ジヤト仰アレド其兩人國ヲ讓ル上ハ天理ノ正面ニシツクリト合テ人心ノ落着處ヘベツタリトツクノヲ求テ見込通リニソレヲ得タコトナレバ

其上ニ何ノ心残りガアヲウツダアラウ筈ハナイゾト仰ラレタニ付テ
子貢忽チ疑惑ノ念雲霧ノハレル様ニ解ケテ兄弟讓國テ立退タテケ
様ニ御稱シナサル上ハ父子ノ國争ヒハソレトウラハラナ不仁ノコ
トナレバヨイトハ決シテナサラヌト了簡シテ御前ヲ退出シテ申ス
様先生ハ當主ノ立ツノヲヨイトナサレテソレニ荷擔ハ決シテナサ
ラヌジヤ

伯夷叔齊。孤竹君之二子。其父將死。遺命立叔齊。父卒。叔齊遜伯夷。伯夷曰。
父命也。遂逃去。叔齊亦不立而逃之。國人立其中子。其後武王伐紂。夷齊扣
馬而諫。武王滅商。夷齊恥食周粟。去隱于首陽山。遂餓而死。伯夷叔齊ハ
孤竹ト云ヘル國ノ君ノ兩人ヲ御子達其父常カラ叔齊ガ氣ニ入テヤ
ガテ死ナフトセラレシ時遺言セラレテ此方ガ死ンダナラバ叔齊ヲ
立テ君トセヨト云置レタ父ガ死ナレテ叔齊ハ兄ヲ差置テ弟ノ立ツ
スザハナイト見込處カラ伯夷ハ總領ナレバ立テ君トナレヨト云
テ位ヲ讓ル其時伯夷ノ申サル、ニ弟ヲ立ヨトハ御遺命シヤ御遺命

ハ重イコトソレニ違背ハナラヌト云テソウ見込デ居ル處カラ本國
ヲ出奔シテシマハレ叔齊モソシナラバト云テ跡ニ立ハセズシテ是
モ國ヲ出奔セラレタ兩人ノ立退レタ處カラ國中ノ人々中子ノ一人
残り居シヲ立テ君トハセシナリ夷齊兩人浪人セラレテ北方ノ海邊
ニ隱レ住ミタリシガ文王者ヲ養
フ評判ヲウケケラレヌ其後武王ガ紂ヲ征伐ノ爲ニ御出馬アリシ時
兩人御馬ノ口ヲ扣ヘテ征伐ノ不可ナルコトヲ諫ラレタナレド取上
ラレズ武王商ヲ亡ボサレ天下周ノ世トナリシカバ兩人周ノ土地ニ
生ル米ヲ食フヲ恥ニ思ハレ立退テ首陽ト云山ニ隱レ住ミ薇ヲ采テ
食フテ居ルシガ食物ニ事ヲ欠ク處カラシテ落命ニ及バレタ夷齊
ノ生涯此様ナコトデアツタ

此ノ註ハ立其中子ト云ギリデ跡ハ書クニ及バヌト云程ナコトソ
レナ其後以下ノ本文ニ入用ノナイコト迄載ラレタハ深イワケノ
有ルデハナイ夷齊ノ始末ヲ載タノト見ルシヤソウ見ヌト程子ノ
説ト同ジコトニナツテ跡ハ蓋以下求仁而得仁ヲトク處トクヒ違

フシヤ心得ヲ見ホハ大キナ間違ガデキル○中子ガ無クハ夷齊ハ
 イカセヲト門人ノ不審ニ答ヘラレテ中子ガナクハ一族中ノ賢
 者ヲ立ルデアラフトモ語類ニ見ヘタガソレハソウデアラフトモ
 夷齊ノ了簡ハ仁ヲ求ルニ急テ國ノ世嗣ノ有無頓ト心ニナイ國モ
 本ヨリ先祖ノ天子カラ拜領シテ土地人民ヲ撫育セヨト厚イ御旨
 ナ受テ代々傳ヘタモノサレド父ノ命ヲ尊イノヤ天倫ノ重イノニ
 比ベモノニナラヌト平生カラノ見込ヨ、ラモ目ノ翰ガハヅレヌ
 ト頓ダ心得違ガデキル頓ト衛輶トウラハラデヨクモ子貢ガ急ニ
 思付テ御尋申シタモノジヤ一ト通リヤ二タ通リノ了簡デハサソ
 クニ案ジガ付クモノガ○此怨乎ト云二度目ノ尋テ語類ニ審一審
 ト云テアリ跡ニ就テ見ルト夷齊ノ讓ハ立派ナレド心ノ底ハ見拔
 レヌカラモシ心ノ上ガ十分デナケレバ其秤デ掛合セルト承重ノ
 常法社稷ガ重イト云テ父子國爭ノ罪モ末減セラレヤフカト思フ
 カラノ尋夷齊ノユトハ言イニ極ツタユトナガラモ一ツ心ノ底ヲ

(南透々)

念ヲ入レテ承リタイト云様ナコトソコヲ審一審ト申シタノジヤ
 怨猶悔也 怨ノ字ハ悔ノ字ノギミ心ノ底ニ一點ノ残りガアルヲ云
 ジヤ
 或問ニ激發不中之行感慨不平之心ト見ヘタリ激發ハ心カラハ出
 ズセフコトナシニソフセズバナルマイト云コトナレハ總領立ツ
 ハアタリマヘソレダニ弟ヲ愛シテ遺言セラレタ上ハ是非ガナイ
 カラ弟ヲ立ル様ニセズバナルマイアイトソ立退テシマヘト云
 ヒ遺言ハ上カラ跡ニ立ツハ知レタコトナガラ兄ヲ越ルコトモナ
 ルマイイカラ兄ニ讓ラズバナルマイアイトソ立退テシマヘト云
 ガ激發ト云モノ過中ハ讓ラズトモヨイニ讓ル兄ナレバ子細ナシ
 ニ立ツベキヲイラヌ義理立テテ遺言ヲ立テ弟ニ讓リ弟ハ遺
 言ハ上カラ是モ子細ナシニ立テバヨイニ義理立テテ弟ハ遺
 言ニ立テテ讓ルガ過中ト云モノ一ツハ道理ニ合ヌ上カラ過中ト
 不立一ツハ心ノ勉強ガラ出ルテ激發ト云テ見ルト何レモ感慨

不平ハ心ヲスルコト故後來是非ヨセバヨカツカ物ヲ今更仕カガ
 ナイ云心残りハ後悔ガ出テクルハツ只今夷齊ノ上ヲ申スニ天
 理ノ正ニ合ヘバ過中テハナク人心ノ安ニツケバ激發デハナイガ
 子貢ガ最初ニ夷齊ヲアゲテ伺ツタノモ天下後世伯夷ノ賢ヲ知ラ
 ヌモノハナイ故自分モ本ヨリ賢人トハ伺ハズトモ合點ナレドソ
 レハ跡ニ付テ論ズルノテ萬一兩人ノ上モ激發過中ノ行ニ出デ後
 來心残りノアル様ノコトナラ只今衛君ノ父子國争モワルヒハ知
 レタコトナガラ罪ヲ天理ニ得ルノ最上トモ云兼ル處モアツテ少
 シハ勸辨ノナル道モアツト思フカタル賢人ト仰ラレタノデ
 タンノフセズ折返シテ怨乎ノ問ヲ中上タモノトユロガ求仁而得
 仁又何怨トノ仰ニテ左様ヲ譯デハナイコトヲ明白ニ合點ガユキ
 シユヘ衛君ノ罪ヲ天ニ得テ聖人ニ絶レルハシレタコトト思フテ
 夫子不爲ト申セシナリ

君子居是邦不非其大夫。况其君乎。故子貢不斥衛君而以夷齊爲問。夫子

告之如此。則其不爲衛君可知矣。サテ君子タル人ハ其土地ニヌメバ
 其大夫ヲ非議セヌトアリマシテ其君ノユトテ彼此非議セテ答ハナ
 イコトツツレ故子貢衛國ノユトテアカラサマニサシテ普ノ夷
 齊兩人ヲ以テカクソ如ク御伺ヒ申シタモノ夫子ツツレ御告テサル
 、本文ノ通りニアツテミレバ其衛君ノ立ツノチヨシトセラレヌハ
 分ツタコトシヤ

蓋伯夷以父命爲尊。叔齊以天倫爲重。其遜國也。皆求所以合乎天理之正
 而卽乎人心之安。既而各得其志焉。則視棄其國猶敝屣爾。尙怨之有。若衛
 輒之據國拒父而惟恐失之。其不可同年而語明矣。サテ夫子ノケ様ニ
 御答ナサレタワケヲ尋ルニ常カラ伯夷ハ父ノ仰テ此上モナク尊ヒ
 トシ叔齊ハ兄弟ノ天倫ヲ此上モナク重イトシテ居ル故兩人國ヲ讓
 ル時ニナツテモ其通り兩人見込テ向キカハレドモソレハカハル
 筈兩人ノ居場所ガカハルユハカハライデナラマツカハツタ處ガ
 ドレモミシナ天理自然ノ正面ニシツクリテ合ヌテオノレソ心ノ是

デコソト落付處へハツタリ下ツキヤウチ求ム物去程ニ銘々自分
々々ノ見込ヲ通スコトヲナル目ニハ己レノ國ヲ棄ルノヲオノガ心
ニ視ルコトハヤブレタ草履ノ様ニズルバカリア、惜イコトデアツ
タト思フ心微塵程モナクシテ何ソ心残りガアラフゾアラフ筈ハチ
イ衛輶ノ己レノ國ニ取籠ツテ父ノ入ルノヲ入レマイト拒ミテ折角
己レノ手ニ入タ君位ヲナクサウカトキヅカインテバカリ居ル様ナ
人間トハ月ト鼈其事ノ年ヲ同ジフシテ咄ガレンハ明白ニワカツタ
コトジヤ 求ノ字耽上心得テ見ホバオラヌ求ムルト云カラシテ常
人ノ眼カラ見ルト餘程手間ノ入ル様ニ思フナレドソユガ古ノ賢
人ト孔子ノ仰ラレタ位ノ人故是非仁ニ合フ様ニソレニ外レテハ
生キ甲斐ハナイソレニ合フ様ニスルニハカウスルガヨイカア、
スルガヨイカドンナ都合ニシタラヨカラフ杯ト種々様々玉面玉
夫ニ智慧ヲ費シテエイヤラツト思通りニ仁ガ手ニ入タト云様
ナコトデアハナイ兩人共ニ向キハカハレド天理ハカウト見スエタ

眼カラ見ル故兄ハ弟ガ立テト云テモソレデハ天理ニ外レルカラ
遺言通り弟ニタテト云弟ハ遺言デアラフトモ兄ヲ乘越テハ天理
ニ外レルカラ常法通り兄ニ立テト云ヒ譲リ合フ往復ニ些ト手間
ハトレテモ了簡本カヨスハツテ居ルカラ只今ツリヤト云テ急
細王ノ間ニ合ハセテハオイ故何モ骨ハ折レヌヨチ孔子ハ仰ラ
レタ抑父ノ命ガ重イ天倫ガ重イ見ルヨレハ夷齊平生ノ見識國
ヲ讓ル時ニ當テ始テソフ云氣ガ付タノデハナイヨ、カスガニ天
理ノ正ヲ人心ノ安モ此ニズルカラ何デモ其通ニセフト云ガ注ノ
合ト云ヒ即ト云者注ノ合ヲ即チ求ルト云デ本文ノ求ノ字ヲ解
タモノ天理之正人心之安モレガ仁ノ字ノ解必竟兩人ワルイ時節
ニ出合サレテ折角常カラノ覺悟ガ變ニ逢テ間ニ合ヌ様ニナツテ
來タ故ソレデハオラント邪魔ニナル物ヲ推除ケテ常カラノ見込
通リニセフトモラレタ處ヲ求ムルニ心得チバナラシヤ語類ニ
胡家ハ夷齊ハハハ處ヲ性命ノ理ヲ全フスルハシヤト説クハハ大

善義理云ハレタ、云外載テアルモヤハリ此ハ沙汰夷齊ノ地位
性命ノ理ヲ全クセホク濟シノト穿鑿ナインソレユヘ其條ニ殺
身成仁ハ義シヤガソレモ仁ヲナサフトテ身ヲ殺スホナイト
シツカト釘サザイテ置レタ総然夷齊ノ地位ヲハ玉面工夫ハナ
マア申シテ見ヤツニ天理ダカラト云ハバハヤソレニ心ガアル
ザルニ天理ヤラ何ヤラシヲホドモ此ハコウシタモノト我レラズ
ニ生レ付ノ覺悟デイヒタシソレト云モ心ガ天理ノ儘ニアルカラ
外ニ餘念ノチオト◎全體求仁而得仁ノ一句ハ夷齊ノ上カライヘ
ハ平生ノ見込通リヲ外スマイト國ヲ讓リ合テイカヌ日ニハ逃テ
シマハシタ處ユヘサシテ難イトハモヌナレド孔子カラ仰ラル、
日ニハイカニ絶大ナ事ヲ兩人致サレタト云ヘ求仁而得仁ト云
カアル語デ仰ラレタト見ル注モソレヲ解ク注ナレバ初ニマツ夫
子告之以此則其不爲衛君可知矣ト本文ヲサツト解テシマイサテ
其求仁而得仁ト仰ラレタソレデ不爲衛君ト云ワケヲ推源スル爲

ニ蓋トオキ蓋字明矣兩人平生ノ見込ヲナラベ言テ其遜國ノ時ニ
チツテ求所以合乎天理之正而即人心之安ト云デ求仁ノ二字ヲ解
キ既而各得其志焉則視棄其國猶敝屣ト説テ得仁ノ二字ヲ解レタ
箇様ニ説レタ主意ヲ吞込ホバユレバケシカラヌ求仁而得仁ト一
句デ孔子ノ一日ニ仰ラレタノチナンシヤ鯛カモヲメデハアルマ
イシ半身ハオロシテ刺身ニ作り半身ハ切目ニシテ吸物ニセラレ
タト云様ナト而ノ字デ續ケラレタ骨ヲ取除テ求ト得ト蝶ツガイ
ガ離レタト不ハウ處ガソシテ不都合ノアラフ筈ハナイ絶大難做
ノ事ト見ルユヘ平生ノ見込カラ説テサテ變ニ逢レタ時ソレニ違
ヘヤイト讓合レタト初ニ述ベサテ言ヲ改メテ見込通リ立タズ
シテ逃テ苟モセラレヌトテ既而ト言出シテ説レタモノ孔子ノ容
易ニ仰ラレタヲ注テ腑分チシテ殊更面倒ニ説タノデハナイ孔子
ノ御言ガハヤ求仁而得仁ト求ルト云モ得ルト云乙甲ニ仰ラレタ
トウデナケレバ仁者トカ仁人トカデスムハツノトソコヲ注テ

ハ能ク心得ヲ求ルト云ハカヤウ得ルト云ハカヤウト屹トキサチ
立テイハレタ物コウ此チ了簡シテ見ネバドウシテモスレヌ
程子曰。伯夷叔齊遜國而逃。諫伐而餓。遂無怨悔。夫子以爲賢。故知其不與
輒也。程子ノ申サル、ニ伯夷叔齊ノ兩人其國ヲ讓テ出奔シ又武
王ノ紂ヲ伐玉フヲ諫争シテタベルモノモナイ處カラ首陽ニ飢ラレ
タガ其見込ガスハツテアル處カラ箇様ナ大變ナ場ニ出合サレテモ
ヨセバヨカツタト昔戀シク思フ様ナ心残りハナカツタ夫子ガソレ
ヲ言立テスグレタ人シヤトナサレタモノ故子貢モ夫子ノ衛國ニ今
居玉フトテ輒ニハ荷擔セラレヌト云フガ合點ユイテ得道シタシヤ
夷齊ノ心夷險一視トヤラニテ樂ナ世界ニ出合テモ苦ナ世界ニ出
合テモ天理ヨリ外ニ餘念ハナイトソツ生レ付タ御方故ジヤ
ト云生概ノ始末迄コメテ程子ハ説レタ末期ノ水ノ場ニナツテモ
昔ノ大名ヲ思出サズ心ノ底ニ粕モトマラン扱々難有イ御方
語類必大ノ録ニ諫伐而飢。固非此章本意。亦是伯夷不怨底事。故程子

同引來說ト見ユ事變之極ニアフテ心ノ動カヌヲ云

恰如麻姑搔痒處。語々破的。蓋義理爛熟。故說得至于此。敬服々々

琦僭評

嘉永三年庚戌冬起草。尋失其稿。越五年壬子秋八月探得舊稿於故紙中。
更加潤色。鳴拜稿

余初解求仁之求不做用力字。意謂在夷齊地位。豈藉用力耶。斷然不復置
疑於其間。及下解於集註。乖戾幾乎不通矣。蓋集註之意。分明別求得二字。
如特重難其事者也。疑惑之間。強以初說行之。乞正之日。始得其解。蓋在夷
齊則固易々矣。然是絕大難做之事。故夫子稱之以求仁而得仁。其曰求曰
得。意可見矣。文公發其意於集註。別求與得以悉其曲折。然後當日夷齊之
心。夫子之言。與文公集註之意。有並行而不悖者焉。歡喜之餘。速改記其說。
其他或問夷齊之賢子貢蓋知之。及圈外程子之說。亦皆罔管不到處。今一
々改竄。於是乎。此章之旨稍詳明。亦唯先生之賜耳。念五日鳴又識。
此章精言所收吳因之王觀濤呂晚村李岱雲及管見所云。發蘊露奧最盡。

講義多用其說。今也再檢。又補其未瑩者。甲寅初夏第三日。

○子曰飯疏食飲水。曲肱而枕之。樂亦在其中矣。不義而富且貴。於我如浮雲。○機謂此章ト次ノ賢哉回也ノ章ノ講義トハ通貫シテ見ルベシ
 聖人ノ御心ハシタイ天理ノマヽニアルユヘ仰ラルヽニ此方平日搗
 シラゲタ米ヲ燒テタベルトモナク黒米ヲタイテ飯ヲタベ湯ヲワカ
 ストモナク水ヲ吞デ間ヲ合セ枕ト云モ別ニナク自身ノ肱ヲ曲テソ
 レニ枕シテ居ル處ガ常々樂ムトゴロガヤツバリソシナウナニモ自
 然ト在テ替ヲヌトシヤアノ世間ニイクラモアル得マジキ筋デ思ノ
 外身代モヨクマタ身分モ高クアルノハ此方ノ上カラハフハノト
 浮タ雲ノ出タカト見レバ暫時ニ消テドコヘイツタヤラ跡方モナク
 ナルト同様ニ思フ天理デ固マタ御カラダ故身外ノ事ノ筋ニ外レテ
 大キナ顔ヲシテ居ルノヲ御覽ナサレテモナツトモ御心ノ移ルト云
 ハナイヲ持テ居テ說クト亦ノ字ガヨクツカル
 飯。食之也。疏食。麩飯也。聖人之心。渾然天理。雖處困極。而樂亦無不在焉。其

視不義之富貴。如浮雲之無有。漠然無所動於其中也。飯ハ食物ヲタベ
 ルトシヤ疏食ハ黒米ヲ燒タイカウ麩末ヲ飯ジヤ聖人ノ御心ハ丸デ
 天理ニアル故本文ノ様ナル難澁至極ナ場ニ御出ナサレテモ平生ノ
 御樂ミガヤハリソコニナイト云ハナイサアルモノ故御自身カラ
 シテ世間ノ得マジキ筋デ手ニ入タ處ノ思ノ外身代モヨク身分モ高
 タアルノヲ御覽ナサルヽトガ空ニフハノト浮イタ雲ノ出テソコニ
 アルカト見レバ暫時ニ消失テドコヘイツタヤラ影モ形モナクナル
 ト同様ニ思召御心ノ中ガユツソリトシテ其爲ニ御自分ノ御心ニ動
 クトゴロガ有テ羨シイノコノマシイノト云コトハナイシヤ
 程子曰。非樂疏食飲水也。雖疏食飲水。不能改其樂也。不義之富貴。視之輕
 如浮雲然。又曰。須知所樂者何事。程子ノ申サルヽニ此章ニ申ス所黒
 米ヲ燒タ飯ヲタベ水ヲ吞ムノヲ樂ムト申スノデハナイシヤ黒米ヲ
 タベ水ヲ吞ム難儀至極ナ場デモ御自分平生ノ御樂ヲソレガ爲ニカ
 ヘルトハデキンシヤ世間ノ得マジキ筋デ手ニ入タ處ノ身代ノヨイ

ノヤ身分ノ高イソレヲ御覽ササル、ニ輕イコガ空ニフハ、浮タ雲
ト同様ニ有テサツトモ御心ガ移リハセシム。○此說ハ本文一ト通リ讀
テモ樂ガアルトイヒ不義ノ富貴ハ浮雲ノ様ジヤト云テ富貴ヨリ貧
賤ガラシムト云様ニ聞ユル故ソフデバナイト云分テレタモノジ
ヤ顔子ノ算、陋巷ヲ樂ム(南)此ノ處恐ラクハ說キタラズ。○此說ハ聖
人貧賤ヲ場ニ樂シテ御出ナサルノハ富貴ハ貧賤ニシカヌカラソコ
デ外ノ富貴ヲ願ハレヌト云心得違ヒガ出來ル故ソウデハナイト云
コトヲ云分ラレタルモノ必竟貧賤ノ方ハ樂亦在其中ト云富貴ノ方
ハ不義而ト銘ヲ切テアツテツシナ間違ハナイ筈ナレト學ノ明カナ
ラヌ處カラ聖人ノ上ハドノ様ヲ物ト云合點ナク欲心滿々タル我心
カラモイノビシテモノヅカレヌヲ分ツタフリテシテ說チナスカラ
文義ノ上テ睨ト不心得トシタ氣取違ガデキヌモノソレハ矮人觀場
トユロデハナイ目クヲノ垣ノヅキモ同シコト云テ此說ヲ舉ラレタ
蟲イ處デ釘ヲサシタモノ替ツタデ此處デハ蟲イコガ親切ナトニ
ナル甲寅四月朔
四改爲說

ソノ上程子ノ申サレニ本文聖人ノ樂ニ云テアルガ聖人ノ御樂
チサル、處ノコトドフ云事シテト申サ合點セヨト文義ノ上計リテ
棚へ上ゲテハナラヌゾト學者ニ氣ヲ付ラレタモノジヤ總體此様ナ
聖人ノ上杯ハ常人ハ迎モ及ビモナイト自棄スル故及バズナガウ心
得ヤツトハ思ハズ學問心掛クナイ者ハ仕方ガナイガ學者ノ身デハ
ドコ迄モ聖ヲ學ブ子簡デガクテハナラヌカラ及ビモナイト棚へ上
ゲテハスマンカラロ、ヲモ文義一ト通りニ心得ル譯デハナイニ依
テ箇様ニ申シテアル說チアテラレタ此ニモ限ラズ修行ノ上ハ聖賢
ノ高イ上トテ逃スコトデオイト心得ルガヨシ
○子曰。賢哉回也。一簞食。一瓢飲。在陋巷。人不堪其憂。回也不改其樂。賢哉
回也。
夫子仰タル、ニサテモスゾレタコトアルゾ顔回ハオセト申スニ
平生ノ上ガ一ツツ竹デ編ンダイレモツ、飯モ少ソラクニイレタ

飲物住居ハト申セ、裏廬ノ狭イ小路ニ暮シテ居ル是等何一ツ世間
並ニモユカヌヲテ他人ナラバ此様ナ難澁ナ暮シテハ扱モコマツタ
物ダト其クツタクニ堪ヌヲデアラフニ顔回ニ於テハ一向苦ニモナ
ラヌヲヤラカ、ル難澁ナ中デ暮シテモ元來自分ノ樂ヲ難澁ノ爲ニ
累ハサレテ仕替ルト云ハセヌ扱モスグレタヲデアアルゾ顔回ハ
簞。竹器。食。飯也。瓢。瓠也。顔子之貧如此。而處之泰然。不以害其樂。故夫子再
言賢哉回也。以深歎美之。 簞ハ竹デ編ンダ入レ物食ハ飯ジヤ瓢ハ
瓠トテヨナヲデ云フクベシヤ顔子平生ノ暮シノ難澁ナヲガ本文ニ
云通リソレダニ其中ニ暮シテ居ルトモロイカニモユツノトシテ
箇様ナ難澁デ元來ノ樂ヲイタマテサハリニナル様ナハ無地ナイ
ソレ故夫子先ヘモ跡ヘモヌグレタヲデアアルゾ顔回ハト仰ラレラソ
レデアト通リチラズ顔回ヲ御稱美ナサレタ
程子曰。顔子之樂。非樂簞瓢陋巷也。不以貧窶累其心而改其所樂也。故夫
子稱其賢。 程子ノ申サル、ニ顔子ノ樂ト云ハ簞瓢陋巷ノイカニ

モ難澁ナノヲ樂ムノデハナイシヤ難澁ニアルノデ自分ノ心ヲ累ハ
シテソレガ爲ニ自分ノ樂ム處ヲ仕替ヌノジヤソレ故夫子其スグレ
タ處ヲ御稱美ナサレタ○此說ハ今日學者ガマア本文ノ上チサツト
見渡シタ處ガ此様ナ難澁ノ暮シテモ顔子ハナントモ思ハズ其樂ヲ
改メヌト申セバナマシ仕ヘテ富貴ニアルヨリ貧イ方ガラクデヨイ
ト見ヘル故第一番ニソユカ分ラシメハ大間違ユヘ載ラレタ物シヤ
又タ申サル、ニ簞瓢陋巷ハ難澁ナヲデ聖賢トテ何モソレナ樂マレ
ルト云デハナイ顔子ノ樂ト云ノハドウ云ワケナレバ此難澁ナ中デ
モ別ニ自分元來ノ樂ガアルト云バガリ其ト云字學者カラハ玩味ス
ベキ筈ノト自然ト一通リナラヌ意味ガアル (南)第二條ハ簞瓢陋巷
ハ聖人トテモホツヨリ心オモシロク思召サル、モノデナイト云
カケタルモノカ○又曰其字是自個有底ノ意思ソレチ孔子ノ仰マ
レタルナリ

又曰。昔受學於周茂叔。每令尋仲尼顏子樂處所樂何事。又申サル、ニ此方以前學問ノ教ヲ濂溪先生ニ親ブタリ受タ時分度々仲尼顏子ノ樂マレル場所其樂ンデゴザル所ノトハ何事デアルト申スヲ尋サセラレタ是ハ及ビモナイトハセズ學問スル上カラハ聖賢ガ目當ダカラ其聖賢ノ上カラ分ラシメバスマヌカラ御樂ミナサル處モ何ダト心得テ居ルコトジヤ

愚按。程子之言。引而不發。蓋欲學者深思而自得之。今亦不敢妄爲之說。學者但當從事於博文約禮之誨。以至於欲罷不能而竭其才。則庶乎有以得之矣。此方ノ考ヘルニ程子ノ申サレタ言葉何レモアノ射ヲ教ル者ガ弟子ニ引滿ル處迄ハ教ヘテ放ツコトハ教ヘヌコトダガソレト同様ヲ樂ト云ハカフゾト云ハズニ置レタ其譯ハ今日修行サスル學者一ト通リナラズ思ヒ考ヘテオノゾトソレサ手ニ入ル様ニトノ思召シヤ咄シテ聞セルハ安イコトナガラソレデハ一場ノ話説ト成テ學者修行ノ上ニ益ガナイカラシヤ程子ノ思召右様ニヘ此方ノ上只今モヤ

ハリ其趣意ヲ受繼デオシテ妄リニ其イリクケテ學者ニ説テ示サヌ年去サウバカリ云テ置テハ學者ノ手ノ付様モナイ様ニ思フテモソレモモクナイ故其手ヲ下シテコトカラ修行シテユケバ分ル様ニナル仕方ヲ申サウニ外ニ仕方ノアルコトデハナイ學者ノ修行ニ打ハマリ詰リ顏子ノ樂ト云モ味ヘテ見度思フ者ハ但シ博文約禮ノ御教昔顏子ノ手ヲ下シテ修行セラレタ處ニ付テソレサ仕事トナシソレデ始終實ガ入り面白クナツテ最早能イ加減ニシテ止メ様ト思フテモ止メルコトガ出來ンデ自分丈ノ器量十分ヤリ通ス場合迄漕付ル時分ニハソレデ此樂ガ手ニ入ルコトノアル様ニナルハソシヤナンデモ博約ノ修行カラ行ケト昔顏子ノ修行セラレタ處デ學者ニ示サレタハ誠ニ間違ノコトイ求メ様ヲ教ヘラレタコト道中記見ナガラ道中スルト云物何ガサテ修行次第ノコトナレバ學者ノ本氣ニ成テヤリヌイテカヌ先キノ咄ガ肝心今書物ノ上デ樂ト云ハドノ様ニアルノダト考ヘヌ處ガ捉風求影ト云様デ文公先生ノ兼々御嫌ナサル處シヤト合點

スルガヨイ
カフ云處へ以テ來テ吾輩ノ了簡デ孔顔ノ樂ヲ想像スルハ及ビモナ
イテ語類ニモ見ヘル通り就實處爲工夫ト叱ラレル譯サレド知命ヲ
三ツ四ツ乗越タ處カラ不及ナガラ一身ノ覺悟迄ニ申シテ見マセウ
ニ孔顔ノ樂處ト申シテサシテ六カシイ譯モゴザラヌマツ集註ヲ見
渡シタ處ガ聖人之心。渾然天理。雖處困極。而樂亦無不在焉。ユレデワカ
ツタフシヤジタイ聖人ノ御心ハ丸デ天理ソレ故困極ニ御出ナサレ
タトテ元來ノ御樂ガチイト云フハナク元來ノ御樂ト申スガ渾然天
理ノ處シヤ扱ソシチオバ丸デ御心ガ天理ダトテドフ平生ニ御樂ナ
サレルツト云ニ衆人ハ氣拘物蔽ト云邪魔物ガアレバユソ道理モ暗
ク身ノ欲ガ蔓ツテ理ヲ曲テ非ヲ立テ公ヲ棚へ上ダテ私ヲ表へ出ッ
フト云物ユヘ差支メラテ苦ナ世界ト思フジヤガ心ガ丸デ天理ニ
在テ世間へ對シテ耻カシイト云フハ微塵モナイソレ故御心ガイッ
モくウキくシテ樂シクアルジヤ猶又樂ト云ハドノ様ナトト申サフ

カラ孟子ノ其生色也。睥然見於面。盡於背。施乎四體。四體不言而喻。ト云
ガ樂ノ字入註解ト古人モ云置タリヨフ云處ニテ心得ベシ聖人ノ樂
ト云ハ酒スキガ酒吞デ樂ムト云様ナト朝ハヨイガ晩ハヨイガ晝ハ
晝中夜ハ夜中オモ酒氣ノ絶ルト云フハオノ遊山ニ出ルニモ殺生ニ
出ルニモ其差別チソレ瓢箪ヨ水筒ヨトソレ足シデ杉ノ葉ガ下
ツテ居ルヲ見ルトヤタラキ這入ル是ハヒライト云様ナトシカシモ
ツト煎シツマルト聖人ノ樂ハソレ處デハチネチゼト云ニ酒好ハ酒
ト云外物チカリル聖人ハ外物チカリルニ及バズ御自分ノ胸ノ中ガ
相手ユヘ外物チカリテ樂ムトハ雲泥ノ相違ジヤ夫故或問ニ云テア
ル聖人之心無時不樂。如元氣流行天地之間。無一處之不到。無一時之或
息也。ト云テアルヤハリカソ純亦不已トコロジヤシテ見ルト譬テイ
ハラ様モナイ○顔子之樂ト申スモソレト同シト必竟心ガ天理ノマ
シモアレヌコソ自ツト樂シクアルシヤソレ故語類ニ顔子見得既盡。
行之又順。便有樂底滋味。ト見ヘ又人之所以不樂者。有私意耳。克己之私

則樂矣。トモ見ヘタリ是顔子丈ノ樂ニテ樂ム的ハ聖人ト替リナシ但
顔子ハ不改ト云聖人ハ亦在其中ト云ダケ段ガ違フ語類ニソコナ分
ツテ雖同此樂。然顔子未免有意。到聖人則自然。ト見ヘ又不改字上。恐與
聖人畧不相似。亦只爭些子。聖人自然是樂。顔子僅能不改。如云得與不失。
得是得了。若說不失。亦只是得。但說不失。則僅能不失耳。終不似得字是得
々穩。又一處アリ譬之病人方得無病。比之從來安樂者。便自不同。コレモ
ナ樂處ハ同シヨデ只深淺アルヲ申スノヲ孔顔ノ樂ノ違ヒ目ガ判然
トヨク分ルジヤ扱又コ、ニ一ツ心得ベキコガアル聖人ハ蠶食飲水
樂亦在其中ト御自身ノ口上ニ仰セラレタガ顔子ノ箪瓢陋巷不改其
樂ト云ハ聖人ガ御稱譽オサレテ仰ラレタモノ顔子ガオレハ貧シイ
中デモ改メテ扱ト云心ハナイソレ故語類ニ顔子之至樂自默存於心。
人見顔子之不改其樂。而顔子不自知也。ト見ユ扱モ妙ニ説置レタリ詰
リ顔子ハ樂シイトコソ思ヘ貧窶ノ中デモ元來ノ樂ヲ改メテ扱トノ
氣ハ付ヌツヨコ脇目カラ御覽オサレテ不改ト御詞ガ下ツタ物ジヤ

ナント面白イコデハアルマイカ (南)論辨明白尋常學者ノ見到ル所
ニアラズ但シ聖人ノ樂ニ今少シ素人ニワカルヤウニ説方アルベ
キカト存候所謂責備ノ論ナリ

俗腸ノ洗濯 與絲賀善卿
此世ニ居テ俗流ニ陷溺セヌト云ハモトヨリ士ノ本分ナリ然ニ今人
能ク如此者果シテ幾人カアル蓋此事亦容易ナラズ輕視ス可ラザル
ナリ夫レ士ノ能ク俗流ニ陷溺セザル者ハ他ナシ義理心中ニ明カニ
磨キ上リテヨラバ切ラント云者ガアルレデ應事接物何事モコナ
カラ切捌イテユクユヘ俗塵ハ些下モヨセ付ルコトナイソレ故我一
身義理上ニ確立シテ一步モタダロガズ俗流ヲ眼下ニ睥睨シテ居ル
ゾ彼ノ俗流ニ陷溺スルト云ハ他ナシダモ不コサガ俗腸故同氣相隨
ラテ知ラズ俗流ニ陷溺スルノゾ扱後世ノ人ハギヤツト生レ出ル
カラシテ俗流ノ中ニ生長スルニ知ラズ幾分カ俗腸ガアルソレ
デドフシテモ俗流ヘ近イ處ガアルソレユヘイツカ知ラズソレ俗流
ヘ陷溺スルナリソコデ學者ハ俗腸ノ洗濯カラシテカ、ラネバナラ
ヌ扱メノ俗腸ノ洗濯ハドラスルコト云ヘハ先ヅ第一致知格物ニ

學談附錄 十一

俗腸ノ洗濯 與絲賀善卿

此世ニ居テ俗流ニ陷溺セヌト云ハモトヨリ士ノ本分ナリ然ニ今人
能ク如此者果シテ幾人カアル蓋此事亦容易ナラズ輕視ス可ラザル
ナリ夫レ士ノ能ク俗流ニ陷溺セザル者ハ他ナシ義理心中ニ明カニ
磨キ上リテヨラバ切ラント云者ガアルレデ應事接物何事モコナ
カラ切捌イテユクユヘ俗塵ハ些下モヨセ付ルコトナイソレ故我一
身義理上ニ確立シテ一步モタダロガズ俗流ヲ眼下ニ睥睨シテ居ル
ゾ彼ノ俗流ニ陷溺スルト云ハ他ナシダモ不コサガ俗腸故同氣相隨
ラテ知ラズ俗流ニ陷溺スルノゾ扱後世ノ人ハギヤツト生レ出ル
カラシテ俗流ノ中ニ生長スルニ知ラズ幾分カ俗腸ガアルソレ
デドフシテモ俗流ヘ近イ處ガアルソレユヘイツカ知ラズソレ俗流
ヘ陷溺スルナリソコデ學者ハ俗腸ノ洗濯カラシテカ、ラネバナラ
ヌ扱メノ俗腸ノ洗濯ハドラスルコト云ヘハ先ヅ第一致知格物ニ

力ヲ用非テ知ヲ明カニスルヲ知又明カニナツテクルニツレテ俗
腸ノ垢ガ見ヘテクルソコヲ克己ノ功ヲ用非テソノ俗腸ヲ洗濯スル
ソコデ俗腸ガ漸々洗ハレテ次第ニキレイニナルソノ殘ル處ノ渣
滓ヲ益々知テ照シテ些トモ見遺サヌ様ニ精察シ見付テ處ヲ些トモ
用捨セズニ益々克己ノ力デ切り勝テシテユクソコデ俗腸ノ洗濯
ガナルゾ於是乎遮蔽去テ根本立ツ方ニ義理ナリニ俗流ノ表ニ特立
シ一意第一等ニ向フテ進ムヲ得ベシイクラヤラフト云志ガ有テモ
俗腸ノ洗濯ノチラヌ内ハ終ニ俗流ヲ脱却スルコトガチラヌ故ヨイト
思フテスルコトグルミ皆俗シミテ與ニ聖人ノ道ニ入ル可ラズ故ニ
今日ノ學者ハ俗腸ノ洗濯ト云コトガ差當リテノ大事ゾヨク着目シ
テ心力ヲ盡スベシソシテハ云迄ナイド丸吞シテ丈デハ中々俗流
ヲ脱却スルコトハチラヌ又俗腸ノ洗濯ガ出來テト思フテモ工夫
ガ間斷スルト其マ、復々俗シミテクルソコデ工夫ニ間斷ナク常々
省察シテ警戒スルガ大事ナリカフアレバ俗腸ノ渣滓モトマラズ微

塵モ生ゼズシテ全ク義理ナリノ心ニナルゾ但學此ニ至ルハ容易ナ
コトデハナイゾ此ヲ常ニ忘レズニ力ヲ用フベシ用力ノ久キ必ズ此ニ
至ル筈ナリ學能ク此ニ至ラバ何ゾ其成ヲザルヲ憂ヘン

明治三十五年十一月絲賀善卿修學旅行ノ途次路ヲ迂シテ我篤好
書屋ニ訪到ル談話暫時ニシテ相別ル時間限り有テ意ヲ盡ス能ハ
ズ其京ニ歸ル此ヲ草シテ之ヲ贈ル

贈中山仲誠

講學鞭策錄跋曰。學者志不先立焉。則千言萬語皆無用之贅也耳。尙何學
之可議哉。故又冠立志一節於卷首。以備乎觀省儆戒之資焉。嗚呼立志ハ
實ニ爲學ノ根本ナル哉。抑此立志ト云コトニ就テハ毎々論ズル所ナル
ガ今更ニ一言セザル可ラザル者アルヲ覺フ因テ之ヲ此ニ述ブ蓋人
學ニ志無ンバ已シ既ニ學ニ志スト云カクハソノ志ノ吟味ガ肝心ノ
事ナリ學者往々好シテ立志ヲ説ク勿論ソレガヨルイコトデハナイガ
ソレガ屹度アテニハチラヌ頼母シワキイ處ガアルソレハドウシタ

トシヤト云ニアノ一旦奮然ト振ヒ起ツタ様ナ處ガドフモ氣カラク
ルガ多ネゾソノ氣カラキタヤツハ一時ハスサマシイ勢ヲシテモ時
々目バタキチスルゾソレデソノ志ヲドコ迄モヤリヌクト云フガナ
ラヌソレデハ本マノ立志トハ云レヌゾソレガ本マニ義理上カラ立
ツタ志ナレバドコ迄モ決シテタヂロガヌガ氣カラ來タノデハドフ
デモイツカ飢ルコガアル筈ナリソレデ何ゾト云ト立志々々トスツ
バヌキチヤルガ談何ゾ容易ナル立志豈容易ナラシヤソコデ學者ハ
先ツ志ノ字ヲ眞裸ニシテ見テ志トハカフシタ者ト云フテ合點スル
ガヨイ志氣之帥也トアリ又志之所至氣必至焉トアル見ルベシ志ハ
氣カラクル者デハナイ志ハ氣ノ將帥ヲ采配取テ氣ヲ引廻シ氣ハ志
ノ卒徒デドコ迄モ志ニ從フテユク者ゾサルヲ兎角衆人ノ志ト云ハ
皆氣カラクルアレダガラ一ト廉志ヲ立テタ積リテモ跡カラツクナ
ツテクルソレユヘ氣ノマシツタ志デハイカヌ氣之帥タル志デナク
テハナラヌゲタイ志ト云ガドフ云者カ分ラヌ様ナコデハ立志ノ話

ハナラヌ筈ナリヨクク吟味スヘキトニコソ夫レ學ヲ爲スハ斯身ニ
シテ斯身ノ主タル者ハ心ナリ無心テ學ハナラヌ筈其一身ノ主タ
ル心ノ向フ所ガ志ニテソノ志ガ一時ノ氣分丈デ根ヲシカト立タヌ
様ナコデハ聖賢ノ學ニ進マフ様ガナイサレバ立志ハ爲學ノ大本デ
ソノ志ガハキトナラフテハ志ヲ立フ様ハサレバ初學ニ在テハイザ
ト思込ム所ニ氣ノマシリモアラフナレドモ其上ヲ功夫ヲ用非理ヲ
窮メシテ之ヲ明カニシ理ヲ主ニ推立テテ氣ニ勝テシテユクガ
學者ノ大事ナリ此功夫ヲ積ミシテユクソノ志ガ益々理ナリニ
立ツテ氣ヲ引廻ハシ氣ガ志ニ從ツテハタラサレテ其志ス所へ行タ
至ルゾ備今ノ時ニ當リ斯學ニ志有ル者ハ先ツ得難イソノ中ニタ
マシク志ヲ有ル下云ハ備モ重疊ナリユレモ亦豪傑之主徒ナリ以
ド其上ニ今一ツ難儀ナリガアルソレハ外デハナク世ニ明師ナリ
方是ナリ志ガ有ラモ明師ガナイト指導ノ目アテニ爲學ノ方ヲ
知ラヌハムダナ路草計リシテ居ルハ達スル所ハ得達セヌ以又

假令明師が有テモコナニ志ガナケレバイダモ明師デモ志無キ人
如何トモスルヲ能ハズ此二者必不相待テ後ニ其學ヲ成スヲ得ベキ
ナリ學者既ニ志立ツテ又幸ニ明師ニ從フヲ得バソレヨリ鬼ニ鐵棒
ニテ其志ス所ニ至ルヲ得ベシ學者先ヅ其志ヲ立ツベシ又明師ニ
從フテ專ラ勉學スベシ仲誠兄斯學ニ志有リテ其入門ヲ誤ラズ今ヤ
東上ノ途途ヲ迂シテ我茅廬ヲ訪フ余其志ニ報フベキモ不ナシ聊所
見ヲ話シ又之ガ説ヲ書シテ贈ト爲ス幸ニ之ヲ思ヘ

内外之辨

人ノ生ルニ必ズ父母ニ本ヅイテ二アル事ナシ故ニ人ニ親疎ノ等
リ人ノ世ニ在ル亦必ズ其國有テ二アル事ナシ故ニ國ニ内外ノ辨
アリ親疎之等内外之辨是皆自然ノ理即チ天下ノ公義ニシテ一毫モ私
スル所アルニ非ルナリ故ニ均ク人ニシテ親疎之等自ラ存シ萬國羅
列シテ内外之辨嚴ニ立ツ是皆所謂一本ノ義也人苟モ此ニ於テ明
カナラザレバ子ニ在テハ不孝ト爲リ臣ニ在テハ不忠ト爲ルカモ免レ

ザルナリ人々明白ニ辨ズベキ所ナリ今ヤ萬國相交リ有無相通ズ輒
ク抑揚スベキニ非ズ然リト雖國各其國ニ成シ人各其國ヲ國トス内
外之辨一本之義之ヲ言フヲ待ズシテ固ヨリ既ニ存ス國民タル者此
ヲ明辨シテ確守セザル可クザルナリ然ニ殊ニ怪ム近者或ハ本邦ヲ
稱スル他國ト辨ナク他國ヲ言フ本邦ト別ナキガ如キ者往々ニシテ
在リ抑其意ヲ原メレバ豈果シテ如此ナラシヤ貞世俗ニ徇セ自ラ深
ク察テ此ニ加ヘズシテ然ル者ナルベシ然リト雖此大義名分ノ關ス
ル所一事ノ微一言ノ細ノミト言テ之ヲ忽諸ニ附シテ可ナクシヤ我
懼ル早ク此ニ於テ嚴ニ辨明セザレバ因循苟且日又一日遂ニ内外之
辨一本之義ヲ遺却シテ所謂親其兄之子若親其鄰之赤子ニシテ其本
ヲ忘ルニスルニ至リ知ラズ罪ヲ國家ニ獲テ不忠ノ譏ヲ免レザル
ニ至ラシマテ夫レ國民タル者誰カ忠君愛國ノ心無ラズ所謂内外之
辨一本之義ハ忠君愛國ノ士ノ尤明辨シテ確守スル所ニ非ズヤ感テ
書シテ以テ自ラ警メ又以テ同志ノ人ニ告グ

又論志

近思錄曰。言學便以道爲志。言人便以聖爲志。夫今學者。聖人ニ於ル
大ツフ段ヲ違フタリソレニ直キニ一足飛ニカウ云ハ如何哉。ルヲ以
ト云ニソレハ成程差當リ段ハ大キニ違フタリソレニ一足飛ニカウ云ハ如何哉。ルヲ以
也予何人也。モテ其本ヲ語レバ同ク性善ナル者。初ヨリ少異アル
ニ非ルナリ。故曰。火皆可以爲堯舜。ト此ノ如ク。人ハ性善ト云良種子
ヲ具ヘテナル。故學シ。聖人ニ至ラシル。箒ヲリテ。目下學者ノ聖
人トハ實ニ大ツフ段ヲ違フタリソレニ一足飛ニカウ云ハ如何哉。ルヲ以
踏セズ是非ニアソコ迄ト思込デフシヨムガ此志ヲ持サレバ。口ツ言
學便以道爲志。言人便以聖爲志。モテ學者ハ。第一等ノ志ヌデ
ナワテハ。サラヌ箒ツ學問ノ功夫ハ。段々順序ヲ辨コテ。卑キヨリ高キ
ニ進ム。箒ヲレトモ志ハ最初カラ直キニ第一等ノ聖人トシテ志ヌコト
ソレテ些トモ一足飛ノコトハ。此最初ノ志ヲ始終固ク守テモヤ
リヌクガ學者ノ任ニテ實ニ志アル者ハ。常ニ腕焉トシテ。志ヲ守ルコトヲ

聖人ハ我師也ト信シテ天上ノ人ノ様ニハ思ハズ第一等ヘト目掛テ
天之不可階而升トハ思ハズ眞直ク第一等ノ聖人ヲ目當トシテ進
ム其志實ニ頼母トイ者處カ志ノ無イ者ハ聖人ハ別段ナ方我々ガイ
カニセイノビシテモ速モ及ビナイコト跡ジサリシテ我ト自棄ノ仲
間入テスル跡シサリスルユヘ善ヲ爲スハ難ク自棄スル故惡ヲ爲ス
ハ易ク日ニ汗下ニ淪ンデシマフ君子上達小人下達ト云モ本ヲ推セ
バ他ナシ志ノ有無然ルナリ後人學マザルニ非ズ必シモ善ヲ爲サザ
ルニ非ズ唯其志無シ是ヲ以テ其タマク善ヲ爲スモ汎々然トシテ毫
モ精采ナク其學只冊子上面行墨ノ間ヲ逐フノミニ自家心身上ニ
切ニスルヲ知ラズ空シク昏睡シテ進取ノ氣象ナク惟日不足ノ感ナ
クシテ常ニ前途百年ノ壽アルガ如ク優游緩散酒ニ酔ヒ烟ニ迷フテ
日月ヲ徒消シ自ラ其頭髮ノ己ニ白キヲ知ラザルニ至ルモ亦只志無
キノ然ラシムル所ナリ如此輩ハ假令終身讀書スルモ卒ニ得ル所無
クニ終ル豈悲ム可キニ非ズヤ志ノ關タル所其大ナル如此學者何ゾ

深ク此ニ察シテ其志ヲ確立セザル人何ゾ其瞑眩ノ藥ヲ服セザル

小學ヲ讀ムニ因テ感テ書ス

小學ノ序ニ曰。讀者往々直以古今異宜而莫之行。殊不知其無古今之異者固未始不可行也。世ニ小學ヲ讀ムノ人ハアマリ無カラフガ兎角ウカクト讀過シテ居ル者ガ多イ故此様ナ大事ナ處ニ氣ガツカヌ所謂直以古今異宜而莫之行ト云ハ古今ノ通弊ニシテ今時特ニ甚シトス其無古今之異者固未始不可行ト云ガ萬古不易ノ定論デ天地ノ有ン限り人類ノ絶ヘザル限りハ必ズカフツサルヲ殊不知ゾコノ殊不知ノ三字ハ文公殊ニ歎息シテ丁寧ノ意ヲ致サレタ者ゾ讀者ヨク々警省スベキ處ゾサルヲソシテコトニハ氣ガツカズウカクシテ通ル故道理ノ萬古易ヲヌオチ知ラズ古ノ教ハ丸デ今日ノ用ニハ立ヌ様ニ心得テ只技藝ヲ事トシ利害ヲ先ニシテ口デハ道德ノ道義ノト云テモ其實ガナイソレユヘ人情日ニ偷ク風俗月ニ流レテ枝葉ノ美アルモ根本ノ養ナシ是デハ國家ノ元氣ヲ養フコトガナラヌ古人

言ヘルアリ曰ク凡學者所以學爲忠與孝也ト手近イ處テ先ツ忠孝ノ吟味カラシテカ、ルガヨイ人此ニ志ヲ向ケタナラ稍ク根本ノ養ヲ得ルニ近ク万ニ以テ稍ク學ヲ語ルベシ此風稍ク起ラバ國家ノ元氣亦隨テ養ハル、ヲ得ルニ庶幾カラシ人々須ク首ヲ此ニ回ラシテ熟思スベシ

溫知餘筆附錄八

勢海一滴 八

餼羊篇

肅啓

羽林公下執事

臣廣瀨 典頓首拜上

伏惟星躔流行。天示文章之運。仁壽躋域。人醉姚姒之俗。化原既立。治功益臻。恭惟 羽林公下執事。不世宏材。百代異質。早預天下洪均。退保東藩茅土。那擁股肱。教兼文武。觀周文之多士。夙夜勞懷。慕魯頌之采芹。結構興學。四阿之堂。鳳翼高搏而欲翔。連棟之廬。星拱歸向以環列。雲楣崢嶸。畫梁璀璨。擊刺爭雄。巧窮白猿之奇術。翰墨成林。飽讀汗牛之緗帙。隣國賴楚材之波及。梗杵豫章罔乏。士習祛齊竿之濫吹。宮商角徵必調。臣典自抱短羽。幸借長風。登白杏之詞壇。先綠衿之生徒。鉛刀希割。疲鷲求遠。出深青於藍草。生良玉乎石叢。依倣蟲吟。準擬雀躍。敢致愚款。冒觸 尊嚴。俯垂監采。典臨啓恐懼不知所言。須至賀啓者。

右具賀啓

享和元年十月六日

肅啓

臣廣田憲令頓首拜上

羽林公下執事

伏以德崇業廣。必由講學之明。材成俗美。固生設教之備。王道所本。善政所先。恭惟羽林公下執事。命世鴻才。灑朝重望。深究風化之所由。益思愷澤之所涵。豐麗博敞。再開進善之門。崑崙危巍。更新立教之館。積石崇墉。大成璀璨之象。旋室暗壁。殆盡輪奐之美。講藝之舍。駱驛以曜。勇武栖士之寮。瀟灑而育英才。橋勢騰驥。蜿蟺以跨半壁。廊中結構。羅列以分數局。制之也備。設之也廣。將遂盛於三代。又比樂於魯泮。其勉於人。磨揉以使趨善。其入於人。漸漬以使歸化。禮義廉恥。大見士風之行。冠昏喪祭。共成禮俗之厚。子孝斯出。臣忠斯生。實爲邦家之基。永作四方之法。臣憲令承乏學職。叨長生員。忱切傾葵。懼同雀躍。肅布芹私。伏冀海涵。不勝戰越。須至賀啓者。

右具賀啓

享和元年十月六日

肅啓

臣松平定緝頓首拜上

羽林公下執事

伏以德化深遠。風俗淳厚。導之以仁。糾之以義。濟々之政。出而有廉耻之行。蒸々之心。入而盡孝愛之道。文詞藻葩。儒效洽俗。名譽崇尙。實才滿朝。恭惟羽林公下執事。文武兼備。威風遠揚。禮樂並興。刑政盡平。仰思剖符之重。俯考安民之道。建立學校。連環堂廡。爰以良吏之勤。乃展善工之力。蓬堂長廊。彩色接雲。綉戶雕梁。光輝映日。文筵有局。武場有次。孝悌爲本。材能爲末。興起善端。涵養德性。游泳文藝之圃。厭飫詩書之門。絃歌以和心情。蹈舞以養身體。社稷之幸。國家之慶。臣定緝不才謏劣。幸遇文明之時。親浴仁風之澤。下愚難變。善教徒仰。敢述拙辭。愈增戰汗。須至賀啓者。

右具賀啓

享和元年十月六日

肅啓

橫溝 恒頓首再拜

羽林公下執事

恭惟君侯心融萬類。勳炳兩間。朗々出塵之想。享々凌漢之標。宵旰爲懷。黎元在念。浮文詭行。儒效將踈。禮樂既修。遍浴雍々之化。綸衣甘食。武烈將弛。弓矢斯張。轉增赫々之光。文起六藝之衰。道救萬姓之溺。貞天下於一。同海內之歸。茲舍學館之陋隘。乃循泮宮之法故。師生有舍。門堂有次。良工展力。不促而速。庶民歡趨。不督而成。厥土爽垲。其位面陽。昇建崢嶸。既極規模之大。雄勢嚴正。尤盡輪奐之美。秩々斯干。治波湛而文鱗躍。殖々其庭。彫宇峻而彩燕翔。芸編在架。綺繡紛錯。飭聞絃誦之盛。俊艾在堂。日月刮磨。何須夏楚之煩。恒僻在草莽。少長蓬蒿之下。質居謏劣。叨荷卯翼之遇。岿嶮長戴乎高天。感衷倍切于中夜。虔抒鄙調。肅侑清歡。薄效華封之祝。尤慙巴里之詠。仰祈丙鑿。無任寅恭。

賦得大廈成而燕雀相賀奉祝立教館落成

松平定緝頓首拜上

巽宮窮壯麗。泮水曲如弓。爲作三冬業。即營不日功。燕來忻大廈。雀至集綺櫺。上下歌喉急。差池飛翼同。詩書儒效正。禮樂德容隆。竊祝時康世。仰見千古風。

同

井上政矩頓首敬具

結搆開高館。歡聲燕雀旋。雙飛入蘭室。相賀近經筵。幸得巢居穩。更欣飲啄全。誓期逐鴻鵠。他日上雲天。

同

不破直方頓首再拜

芹宮新就幾千秋。一帶祥雲泮水流。燕雀朝來喜相賀。將雛鳴噪盡梁頭。

同

成田行明頓首敬具

堂閣新成對綵城。繞階燕雀報光榮。差池羽擬容儀態。下上音應佔畢聲。砌廣飛來將數子。簷高不駭馴群生。即今恩遇及禽鳥。况復年年樂育英。

同

宮本光壽 拜草

頰宮功就映青天。魯頌采芻萬世傳。雀躍成群粉壁外。燕飛語賀畫梁前。城頭旭日籠佳氣。枝上輕風和管絃。誰道更無張老賦。揮毫謾作白雲篇。

同

鳥革臨雲表。巋然欽國光。風烟開喜色。燕雀賀朝陽。飲啄庭間集。聯翩牆上翔。硯池瀕水淺。菊徑得泥香。方免設羅災。何辭綢繡忙。銜書飛畫棟。聞講憩彫梁。微翼慚鴻鵠。文翎希鳳凰。時遊華屋角。暮宿泮林傍。已脫烏衣故。俱欣白日長。誰圖雌伏者。鎮沐德輝滂。

橫溝 恒頓首再拜

奉祝立教館落成

奧平貞應頓首拜上

突兀新開講習筵。綠衿才子正翩跹。周旋無限恩光裡。唱出青莪第幾篇。

同

吉村宣猷頓首拜上

突兀泮宮起。嵯峨開講筵。論經尊至聖。誦史懷群賢。堂上繙書帙。階前奏管絃。偏思渥恩普。萬歲德長傳。

同

酒井朝修頓首拜上

魏々魯泮聳青冥。今日芳辰開講聲。秩々階前鸚鵡入。振々明德幾季情。

同

久德高陳頓首拜上

鳥革古堂就。魏々瑞氣中。文翁化蜀事。自此傳無窮。

同

大關景文再拜謹具

濯宮經重葺。門闕肅嚴然。盛事從今遇。淳風將始全。巍基平白日。充棟積青編。師授成群器。淵源溯往年。迴廊閃彩壁。泮水淡漪漣。橋訝橫虹氣。魚堪泛釣船。翠簾垂繡柱。麗旭擁彫椽。神祇由中座。聖賢在兩邊。周文方郁々。堯德不懸々。祖考孝長享。丕承功繼錫。思危勸講武。養士一加鞭。赴々干城固。桓々弓矢堅。捐生甘執義。說命却歸天。稽古宣禮樂。正心游筆研。渥恩如父母。感戴比坤乾。燕翼孫謀迥。庇蔭此地徧。誓茲鼓鳶劣。庶幾報招延。微志欽芹曝。敢期道化傳。

同

秋山勝恕稽首拜上

初冬立教館初成。今日滿堂絲管聲。鄒魯從來風俗美。青衿况又遇文明。

同

岡本朋如頓首欽具

泮宮高聳彩雲隈。燕雀翩跹華屋開。共道恩光長若此。比將日月照崔嵬。

同

中山直諒頓首欽具

巍々畫棟轟層天。氣勢雄々生紫煙。舞袖高飄泮水上。讀書遠聽講堂筵。頻

披緗帙千秋業。長拂瑤琴五箇絃。日夕德門作群集。俱蒙恩澤聖明年。

同

篠宮正亮再拜敬具

始造雕梁日。所欽齊古庠。周世推二代。漢制因三綱。仁里移風習。伴宮崇俊良。武庫富雄才。文昌流清光。恩德及穿屋。歡心坐頡頏。雀喜捧下調。綠葵仰青陽。

同

福井正直頓首拜上

突兀芹宮起。祥雲畫棟連。講筵開館上。泮水映庭前。詩筆發金石。樓臺奏管絃。誦經尊往聖。道德萬年傳。

同

鈴田親久再拜敬具

玉堂雲外起。佳氣靄沈沈。日麗珠簾色。風和絲竹音。雄文群彩筆。壯志惜分陰。共在恩光裏。真知雨露深。

同

秋山勝政稽首拜上

庶民聚如子。經始遂期成。高館推儒術。群邦慕美名。滿堂咕嗶響。集野鳳凰鳴。恩澤亦何極。千秋長仰榮。

同

宮澤泮叔再拜敬具

泮宮始造立。四海久蒙韃。春雨池頭過。五雲風外翻。讀書究日力。挾策逐朝噉。燕雀倚巢意。啁啾總主恩。

同

中村直方頓首欽具

祥雲畫棟滿。泮水送波光。玉鎖聞絲管。芳辰升講堂。論經尊聖德。揮筆和文章。朝暮趨階上。恩風吹袂長。

同

林成章拜上

魯國崇文教。泮宮復此成。上傳溱泗道。下繼洛閩名。燕帶祥光賀。雀含喜氣鳴。踟蹰舞棟宇。頡頏歌檐楹。玉樹階前起。芝蘭檻外生。俯思姬旦德。日月欲齊明。

同

包蒙塾生稻毛大啓頓首再拜

初日照彤棟。亭然大厦雄。游鱗淨泮水。喜雀遶華宮。俱見晴光度。遙瞻淑氣通。祥雲橫紫翠。奉賀一盃中。

跋

白河之建學前後三。其始也屬乎創立。其終也構乎災後。唯其中作者。爲規模最大而制度尤備。此賀啓祝詩。即當年之遺文也。亦足以窺其文之盛矣。因謂其文詩不特此諸篇也。而今之所存則但此耳。嗚呼往事已逝矣。此特告朔之餼羊耳。然今而不錄焉。則後來又將不可識其髣髴矣。豈可不愛哉。因繕寫以名之以傳之。余於是俯仰于今古。更有感慨不能自己者。嗚呼斯衷其誰知之。其誰識之。姑書以待知者。明治三十五年五月秋山勝機書

附記

右篇中橫溝恒トアルハ備後國鞆浦民家ノ子ニシテ恒三郎ト稱ス幼ニシテ俊童ノ聞ヘアリ寛政ノ末白河ノ僧白雲中國ヨリ歸リ來リシ時此事ヲ申上シニ守國公之ヲ聞玉ヒ志有リテモ都會ニ遊學スルコト難クハ先ツ白河ヘ呼寄セ修行ヲサシムベシトアリテ路費ヲ賜ハリケレバ其父母大ニ悦ビ速ニ白河ヘ送レリ衣服簞硯

等悉ク賜ハリ專ラ學バシメタル天性ノ文材ニテ經史ニ通シ辭文ヲ善クス十六歳ニシテ來リ留學三年ニシテ親ノ病ニ因テ歸郷セリ獨リ藩中封内ノ人ノミニ限ラズ他方ノ人ト雖其材器ヲ愛シ之ヲ成育シ玉フコト此類ナリ又稻毛大啓ハ正之助ト稱ス蒙齋先生ノ包蒙塾ニ來リ學ブ者何所ノ人ナルヤ未詳

○我桑名町ノ西郊ニ愛宕山アリ愛宕祠アリ近古土豪ノ砦墟ニ在リ傍ニ吞景樓アリ近地ノ勝タリ舊藩ノ時森縱堂翁ノ名ヅクル所ニシテ記文アリ扁シテ楯間ニ掲グルコト久シ然ルニ近歳ニ及ンデ復タ之ヲ見ズ知ル者少シ今春余花ヲ觀ルニ因テ高島士成ト共ニ此ニ至ル櫻花正ニ盛ナリ逐ニ吞景樓ニ上ル士成杯酒ヲ呼ビ余ニ勤ム乃坐シテ且斟ニ且賞ス談偶々記文ノコトニ及ブ士成起テ之ヲ主人ニ質ス主人曰有リ暫クシテ一卷ヲ携ヘ來リテ云久ク之ヲ掲ゲシモ稍ク損スル所アルヲ以テ其大破ニ至ランコトヲ恐レ因テ之ヲ卷ニシテ

藏ムト因テ記文ノ大略ヲ聽カシトテ求ム余乃讀ム一過其大意ヲ
語リ且ツ後日之ヲ寫サンコトヲ約シテ歸ル頃日士成往テ之ヲ寫シ
歸リテ余ニ示ス余時ニ此餘筆ヲ草ス乃謂テ曰此一篇記文ノ大關
係アルニ非ズ然ト雖鄉人常ニ此ニ遊ビ徒ニ其景ヲ賞シ杯酒ニ醉ワ
テ此間此先輩文字有ルヲ知ラズ此文蓋此樓ト共ニ終始スベキ者之
ヲ空シク筐底ニ藏ム亦惜ムベシ今之ヲ此餘筆ノ末ニ附シ讀ム者ヲ
シテ之ヲ知ラシム亦可ナラズヤ士成曰善遂ニ此ニ附記ス

吞景樓記

森 樞 堂

自郭步望西岡。屹然架於竹樹茂林之間者。所謂吞景樓也。樓面於東。而北
顧南瞻皆宜。縱也。而山起於欄之左。遠山鬱乎秀於其背者。不知其數。自加
越及信飛。皆可指而辨也。喻之如坐屏牆之下。望其外。下瞰之。田野陸刻。草
莽微茫。其際峰巒彌競益出。如奔波。如頹瀾。勢極於東而漸弛漫。終及諸島。
超海而又起。始於志摩。終勢南。其間二百餘里。其潮水者乃自樓之下浸灌
一碧萬頃。征帆與鷗鷺翱翔出沒。皆莫逃於此樓焉。是非所謂吞景者。出

主道僧起此數楹。欲以使城市之人樂者有故也。曾名之。求其記已久。而記
未成。一日余語僧曰。此樓之遊也。公侯乃不可樂也。公侯行則高車大馬旌
旄干戈。前呵後擁而從者塞途。座則侍者馳突。供奉之人執其器而食膳方
丈。陟降拜起。此其所以不可樂也。士人商旅乃不然。行乃野服短笻。座乃山
藪冷炙。起臥恣其所欲。醒醉任其所思。是其所以人士而樂也。况於詩賦琴
碁管絃歌唱助之乎。余於是有感矣。天氣清朗之時。萬象呈露。景光明媚。神
暢心怡。於是萬感皆集矣。乃追思往昔。懷其同遊其人。或已亡矣。但吾與樓
俱存。於是悲喜交至。况於連雨不晴。山海暗黑。雲霧滿樓。猿鳥哀鳴之時。其
所樂者於何處而施哉。然則逢積霖之日。乃不能樂也。遇晴明之時。亦不能
也。然則晴雨皆不可樂耶。曰不然也。其所以樂者固有焉。離市塵。坐煙雲。山
藪冷炙。從其所有。起臥醉醒任其所欲。勢利寵辱共皆忘。而不問世之聞達。
不言人之善惡。趁此景。消萬慮。引耳目之怡。是吾之所以樂也。以其所以樂
之者。登此樓。樂公侯之所不可樂。又同衆人之所樂。以此樂之。雖積霖之可
厭。而又何避。况於晴明之時乎。是道僧之所以起此樓也。余遂以吞景名之。

藏ムト因テ記文ノ大略ヲ聽カンコトヲ求ム余乃讀ク一過其大意ヲ
語リ且ツ後日之ヲ寫サンコトヲ約シテ歸ル頃日士成往テ之ヲ寫シ
歸リテ余ニ示ス余時ニ此餘筆ヲ草ヌ乃謂テ曰此一篇記文ノ大關
係アルニ非ズ然ト雖郷人常ニ此ニ遊ビ徒ニ其景ヲ賞シ杯酒ニ酔フ
テ此間此先輩文字有ルヲ知ラズ此文蓋此樓ト共ニ終始スベキ者之
ヲ空シク筐底ニ藏ム亦惜ムベシ今之ヲ此餘筆ノ末ニ附シ讀ム者ヲ
シテ之ヲ知ラシム亦可ナラズヤ士成曰善遂ニ此ニ附記ス

吞景樓記

森 樞 堂

自郭步望西岡屹然架於竹樹茂林之間者所謂吞景樓也樓面於東而北
顧南瞻皆宜縱也而山起於欄之左遠山鬱乎秀於其背者不知其數自加
越及信飛皆可指而辨也喻之如坐屏牆之下望其外下瞰之田野隆刻草
莽微茫其際峰巒彌競益出如奔波如頽瀾勢極於東而漸弛漫終及諸島
超海而又起始於志摩終勢南其間二百餘里其潮水者乃自樓之下浸灌
一碧萬頃征帆與鷗鷺翱翔出沒皆莫逃於此樓焉是非所謂吞景者歟山

主道僧起此數楹欲以使城市之人樂者有故也曾名之求其記已久
未成一日余語僧曰此樓之遊也公侯乃不可樂也公侯行則高車大馬旌
旄干戈前呵後擁而從者塞途座則侍者馳突供奉之人執其器而食膳方
丈陟降拜起此其所以不可樂也士人商旅乃不然行乃野服短筇座乃山
菽冷炙起臥恣其所欲醒醉任其所思是其所以人士而樂也況於詩賦琴
碁管絃歌唱助之乎余於是有所感矣天氣清朗之時萬象呈露景光明媚神
暢心怡於是萬感皆集矣乃追思往昔懷其同遊其人或已亡矣但吾與樓
俱存於是悲喜交至況於連雨不晴山海暗黑雲霧滿樓猿鳥哀鳴之時其
所樂者於何處而施哉然則逢積霖之日乃不能樂也遇清明之時亦不能
也然則晴雨皆不可樂耶曰不然也其所以樂者固有焉離市塵坐煙雲山
菽冷炙從其所有起臥醉醒任其所欲勢利寵辱共皆忘而不問世之聞達
不言人之善惡趁此景消萬慮引耳目之怡是吾之所以樂也以其所以樂
之者登此樓樂公侯之所不可樂又同衆人之所樂以此樂之雖積霖之可
厭而又何避況於清明之時乎是道僧之所以起此樓也余遂以吞景名之

又屬之以記。

嘉永六癸丑年十二月上浣日爲院主人之囑

溫知餘筆卷之十一

溫知會第八回席上秋山先生談話 明治三十五年十一月六日
 今日御話申事此頃或書ヲ讀メテ見當リタルコトニ付キ少シ思
 口付キシコトガアリマシタ其ノ話ヲ致シマセウ古人ノ申シマシタ言
 ニ歴史ヲ見ルニハ見様ガアルソレハ他デカイ先ヅ第一ニ勝ケ方ト
 負ケ方トヲ見分ケナケレバ其實ト云フモノハワカヌト成ル程コ
 レハ尤モノ話シデアリマス又古人ガ例ヲ引テ言ヒマシタ申ニ陸秀
 夫ト云フ人ハ南宋ノ末路ニ當リ國ヲ盡ク元ニ奪ハレ船ニ乘リテ海
 上ニ漂フガ如キ頼ミナキ時デアリナガヲ舟中ニテ大學章句ヲ手ヅ
 ガラ書キテ幼少ノ天子ニ毎日ソレヲ進講シタトイフコトアリソレヲ
 隨分世間ニ譏ルモノガアリマス又細川幽齋公ハ田邊籠城中ニ古今
 集ヲ講ゼラレタコトガアリマスコレハ美談トシテ譏ルモノガ一人モ
 ナイソレハドフシタコト云ニ陸秀夫ハ負ケ方ナレバカ、ル危急ノ
 場ニ迂濶ノコトヲシタト云テ之ヲ譏ルシ細川ハ勝ケ方ナレバ籠城中
 ニモ從容トシテ古今集ヲ講ゼシトテ人々之ヲ褒メル若シ其勝負ガ

轉倒シテ居タナレバ世間ノ人之ヲ何トイウデアリマセウ其評論モ
隨フテ顛倒スルデアラフソレニモ限ラズ古今ノ歴史ヲ見レバイク
ラモ其例ガアル勝テバ善ク言ヒ負ケレバ悪ク言フノハ古今ノ通弊
デアリマス其ノ甚ダシキニ至リテハ彼ノ足利ノ如キ逆賊モ勝ケタ
ル故一時將軍トアガメラレタ是等ハ實ニ奇怪ナリデアリマス故ニ
其ノ負ケ方勝ケ方ト云テ見分ケテ考ヘネバ大ニ誤リヲ生ズルコト
デアリマス是ハ前ニモ云通り或書ヲ見シニ付テノ話ナルガ既ニ近
思錄ノ中ニモ歴史ヲ讀ムヲ論シテ其間多有幸而成不幸而敗今人
只見其成者便以爲是敗者便以爲非不知成者慙有不是敗者慙有是底
トアリ是即ケ勝方負方ノ心得ナリ然レモ其間ハ格別稱
シテ毫モ己ヲ挫ケズ正道ヲ履ムデ居ル者ハ格別稱
リテ毫モ己ヲ挫ケズ正道ヲ履ムデ居ル者ハ格別稱
讚セズ又格別省ミルコトモセズ是モ現今ノ負ケ方ナレバ人ガ之ヲ卑
ムノデアリマス先ヅコトイフモノデ是即ケ眼前ノ勝ケ方負ケ方ナ
リソレモ一槩ニモ云ハレズ見識アルモノハ別ナレバ兎角勢アルモ
ノヲ尊ビ勢ナキモノヲ卑ムハ先ヅ世間ノ風習ナリ儲サウナルノハ
如何ナル譯ゾト考フレバ蓋其ノ人自ラ信シテ疑ハヌトイフ見識ナ
ク自ラ守リテ動かズトイフ節操ナク唯時ニ同シクシ世ニ合ハセ目
前ノ利ヲ已レニ収メヤフトスルカラ徒ニ勝ケ方ヲ尊ビ負ケ方ヲ賤
シム様ニナルノデアリマス儲ソフイフ風ガ若シ世間ニ增長シタナ

ルハ大ニヨシモシ信ズ可ラザルコトヲ信ズルトソレガ根トナリテ已
レノ生涯ヲ誤ルコトナル論語ニ篤ク信ジテ學ヲ好ムトアリマス篤
ク信ズルト云フコトハ勿論ヨキコトナリ然レモ學ヲ好ムトイフコトガナ
ケレバドシナ方外ノコトヲ好ムカ知レヌ故ニ篤ク信ズルト學ヲ好ム
トノ二ツ相待タザル可ラズ學ヲ好ミ其ノ信ズベキ所ヲ篤ク信スル
デナフテハイカヌ故ニ人ハ自ラ信ズルト云ガ大事ニテ其信スベキ
ト信ス可ラザルトハ學ニヨラザレバ辨ズルアタハザルコトハ明ラ
カデアリマス
ソコデ今一ツ論ゼネバナリマセヌコトハ今云通り學ト云フコトガ大切
ニテガヒナイガ其ノ學トイフハトウイフ學ツモテハナリテハツ吟味
セシデハナリマセン毎度云フ通り後世學ト云フモノツカ多岐ニ涉リ
種々様々ノ學ガアリマスソレ故一口ニ言フコトナリ
ヲ要スルニ其ノ數多ノ學ト云フハツマル所カノ弁
ノ學ニ過ギヌソレハ今我言テ所ノ學トハ別物デアリ

所ノ學トハトウイフ學ツト尋ヌバ他ナシ古來聖賢ノ言ハシ
人倫ヲ明カニスルノ學ニシテレガ即謂フ所ノ道也外ヲ言フモノ
デアリマスコレコソハ實ニ人生ノ備スベキ所ノ學也其ノ色
々ノ事ハアリマセウトモ其レハ其レ根本ノ學問ト云ハス道學ニ止
マルコトナレバ先ヅ人倫ノ道ニ大眼目ヲ着ケ己ノ心ヲ斯學ニ一
筋ニ向ケテ自ラ信ジテ疑ハズ力メテ己マザレバ我ニトリマモル所
ガ益々堅クナリテ已レノ眼中只義ト云フモノガアルバカリニナリ
テ其ノ義ナリニシテユケバ富貴ニ涎ヲ垂レテ貧賤ヲ厭ヒ忌ムト云
フコトナド何カアラソソコトハモフ論スル場合デアリマセンコウ
イフ風ガ稍ク行ハレルト自然人ノ節操ガ堅ク廉恥モ自然ト立テテ
來テ人情風俗ガ次第ニ厚クナリテ此ノ世ノ中ガトント一新スル場
合ニ至ルデアロフト思ハルデアリマス
儲其通り自分ニ自ラ信ズルコトガ篤ク自ラ守ルコトガ堅イト我レガ常
ニ主トナリテ居テ物ガ常ニ客トナリテ居ルソレデアルカラシテ我

カラ事物ヲサバイテユクモ難カラズトコロガツレニ反シテ自ラ
信ズル所ト自ラ守ル所トガナケレバ物が主トナリ我レガ客トナリ
テシマイマススルト物が常ニ我ヲ制シマス一たび物ニ制セラレル
様ニナルト富貴ニ涎ヲ垂レ貧賤ヲ厭ヒ忌ムトイフニナルコトハ必定
デアリマス論語巍々乎舜禹之有天下也而不與焉トアル萬乘ノ富貴
ヲ御自身ノ樂ト爲サレヌ又顔子ハ簞瓢陋巷不改其樂貧窶ヲ以テ其
心ヲ累ハメ其樂ヲ改メラレルトガナイコレハ勿論聖賢ノコトアル
カラ言フ迄モナイコトデモトヨリ遽カニ及ブベキコトデハナイガ聖賢
ガ斯クノ如キトイフモ即亦只道學ノ極ノミ學者ハソノ道學ヲ學ビ
第一等ニ志シテ居ル者也能ク其ノ信ズル所ヲ信シ守ル所ヲ守リテ
イツテ徒ニ富貴貧賤ノ奴隸トナルコトヲ要スベシ是即テ聖賢ヲ
學ブ所以ナリ然ルニ今日徒ニ自ラ信ズル所ヲク
々トシテ富貴貧賤ノ中ニ狼狽シテ果ツルハ實
リマスカラ今申シマスル通ルニ能ク已レノ信

守ル所ヲ守リテサヘイケハ己ガ主トナル物
ク富貴ニ溺レズ貧賤ニ屈セズ已レノ分限ダケニ道
ガナイヤウニナル是ガ即テ青天白日ノ氣象トイ
人果シテ青天白日ノ氣象ヲ得バ
本領立ツ天下何事カ爲スベカラザラン若シ自ラ信ズルコトナク自ラ
守ルコトナクシテ只眼前ノ勝テ方負ケ方ニ迷惑シ身ヲ立得ズシテ一
生ヲ空了スルハ返ス口惜キ次第ナラズヤソレ故必ズ志ヲ斯學ノ
上ニ立テ篤ク信シ堅ク守リ疑ハズ惑ハズ屈セズ撓マズ一意力學是
今日人世必要ノコトニシテ萬事ノ大根本ナリ聊カ勝テ方負ケ方ノ談
ニツキテ思ヒツキタルコトヲ申シ述ベテ諸子ノ熟考ニ供シマス

筆記者 早川貞藏君
中田健次郎君

溫知會

葉かへせぬ松の操を思ひ知れまはりの花の色を慕ひそ

溫知會第九回席上秋山先生談話

明治三十六年十月六日

今日ハ先ヅ教トイフコトニツイテ御話ヲシマス元來「イコト」ハドウイフ所カラ生シテ來タカトイフニ凡テ人トモ「フモ」ノハ皆本性善ナル所ノモノデアリマシテ其段ハ普通ノ人間トテ聖賢トテ同ジコトデアアルケレドモ其多クノ人性ハ一ツデモ氣質ハ皆違ヒマスソコデ人々氣ノ稟ケ方が多少偏ツテナルコトヲ免レヌソレニ隨ヒダシク人欲ガ付イテ出ルソレデアルカラ本來ノ性善ヲ完クスルコトガ出來ヌソレノミナラズ遂ニ惡ニ陷ルニ立至ルソレ故トモ人間ハ捨育テニスルコトハ出來マセヌソコデ教トイフコトガヤムヲ得ズシテ來ルモノデ多クノ人間ヲ治メテ教フルトイフコトガ上ニ立ツ人ノ職分デコレガトントノ大事ナコトニナツテアルサテ其治メテ教ヘルニハドウイフニシテ行クツトイフニ治ムルニモ斯道ヲ以テシ教フルニモ斯道ヲ以テスルソレデアルカラ治教ノ二ツハ本來一理ナルモノデ決シテ二ツノ旨ハナイ上ノ教ヘラル、所ガソ

ノ通りデアアルカラソレヲ受ケテ學ブモノモ矢張り其通り其道ヲ我
ニ學ビ其學ビ得タ所ヲ行フノデアアルソコデ其學ブモ行フモ一理デ
二ツノ旨ハアリマセヌソウイフ具合デアアルガ畢竟教ガ本ニナツテ
治トイフコトモ教カラ出ルモノデトント教ガ治ヲナス大根本デア
ルカウイフモノデアアルカラ教ニヨリテ或ハ治ヲナシ或ハ治ヲナス
能ハザルモノデア教ノ義ハ實ニ大ナルモノデアアル
本來カウイフワケデアアル所ガ後世ニ至リテ治教ガ一理一致ニ行カ
ズ分レテ治ハ自ラ治教ハ自ラ教トナツテ治ノ方ハ朝廷ノ事デ役人
ノスル仕事教ノ方ハ學校ノ事デ學者ノスル仕事トナツタノデアアル
ソレデアアルカラ本ハ一致ノモノデア治ハ教カラ出テ教ハ治ヲ出スモ
ノデアアツタノガカク分レテ來タカラ實際ニ至ルト教ガトント治ト
離レテ別ニ一種ノ仕事ノ様ニナツタノデアアルカクノフニ成ツタカ
ラ勢教ハホシノ文具タルヲ免レヌガ後世ノ有様デアマス扱サウ
ナルト實事止不都合サモ、デア學者カラハ役人ヲ俗吏ト罵リ役人カ

ラハ何ノアノ學者ガト度外ニスルソコデ治教ガ連リテユカンカラ
教トイフモノガ政ト相關セヌ様ニナツタソノ通り、來ハ治教一
理デアツタガ後世ハ分レテ相關セヌノデア實ニ後世ノ弊害デアリヌ
ス
扱邇ツテ既往ヲ考フレバ時ニ盛ナルト衰フルトガアツタ久シキ中
ニハイロ、ニナツテ來マスカラ一概ニイフコトハ出來ヌケレド
先ヅ大體ナイヘバ前ノ様デアアルソレモ時ノ勢デ已ムヲ得ヌ様デア
ルケレド教ヲナス所ノ者ハ實ニ斯道ヲ以テ教ヘ學ブ者モ實ニ此ノ
道ヲ以テ學ブトイフヤウニアレバ治教一致トイフ時ノヤウニユカ
ヌマデモマダ、道ハ其間ニ存シテナルカラシテ志アル人ガ出レ
バ斯道ヲ學ビテ斯道ヲ以テ教ヘテ斯道ヲ以テ治メテユクコトハ猶
爲スコトヲ得ルノデアアルソコデ教カ善クアレバ先ヅ學ブ所ノ者ノ
上ニ及ボシテ漸々天下ノ治ヲナス上ニモ及ボスコトガ出來ルシ若
シ其教ガ惡イト其レガ先ヅ學ブ者ノ上ニ及ンデ漸々天下ヲ乱スニ

イタルカラシテ此教ノ關係スハ實ニ大ナルモノデア
サテ教トイフモノ、重キコトハソノ通りテ容易ノコト
デアリソコ
デ其教ノ根本ヲツタマヘンデハ教ガ立タヌ教ノ本ハ何
ゾトイフト
其教ヲナス人ニアルノデ古人モ言フタ通り身ヲ以テ
教フルモノハ
從ヒ言ヲ以テ教フルモノハ訟フモノデアアルカラ千
百言ヲ費シ口ヲ
酸クシテ教フルヨリ教ヲナス人ノ其身ノ修リテ正
シキ所ガ眞ノ教
デアアルサウナルニハ何ウシテスルト云トソレハ教
フル人ノ自分ノ
學ニアルノデ自分ノ學ガヨク届キテ我身ガ修マレ
バ教ハナル筈デ
ソレカラ段々學ブ者ヲ善クシ次第ニ多クノ人ノ心
ヲ正シクシ世ノ
風俗ヲ善クスルニ立至ルツマリ此教ニヨリ治ヲナ
スヤウニナルノ
デアアルソレ故教ハ大事ヲモノデ其本ハ教フル人
ノ學ニアルノデア
ル先ヅカウイフ順序デ教ノ大切ナルハイブマデモ
ナイ話デ教フル
人ノ學ガ又其根本デアアル
今ノ時ニ當リ教育トイフ事ハ天下ノ共ニ重ンズル
所トナリテ隨ツ

テ其教ノ方モ大ニ備ツタト申スコトデアアル果シテ
ソコヘ行キヤネ
レバ前ニイフタ通り其教ガ學ブ者ノ上ニ及ビ人心
ヲ正シクシ風俗ヲ
モヨクシテマヅルノニ十分足りテモク譯デアアル
處ガ物ノ算用通り
ニユガヌハ今ニ始メヌ事古今ノ免レヌ所デア
願ミテ一方ヨリ見レバ
人心ガ果シテ正シクナツタカ世ノ風俗ガ果シテ
ヨクナツタカ此處
ヲトクト詰メテ見ネバナラヌ所ガマダ大ニ其著
シキ功ヲ見ルニ至
ラズ却リテ動モスレバ人心ハ次第ニ輕薄ニ流
シ風俗益壞ル、ノ
感ナキ能ハズ獨世俗ノ然アルノミナラス近時ニ
至リテハ利ヲ貪ル
ノ惡風ガ大ニ增長シテ教育ヲ以テ自ラ任ズル
モノ其風ヲ免レズ
シテ大ニ醜キ狀ヲ暴露スルニ立至ツテサル斯
ウイフ始末デア人心
ヲ正シクシ風俗ヲ善クスルコトノ出來ヌハ實ニ
宜也、イハザルヲ
得ヌ場合デア實ニ是人ノ共ニ嘆シテ己マザル
所デアアラウト思ハレ
ル處ガ又頭ヲ同シテ願ミレバ此ノ如キ有様ニ
至レルモ強テ怪ムニ
足ラザル所デアアルヌハ如何ニシテ隨分諸般ノ
學術ハ進ミテ居

ソラモ大道ノ學ハ實ニ退縮シテ今日殆ク其極頭ニ達シタル場合
デアルソレ故人情兎角唯利ヲ視ルヲ主トシテ義如何ヲ顧ミズ我身
ノ時ニ合フ道ヲ求メテ此大道ヲ求ムルソ功ヲ用非ヌガ世ノ大勢
デアルサウデアアルカラ義ヲ去テ利ニ逐フテ遂ニ醜キ狀ヲ暴露
シテ自ラ知ラザルニ立至ルソデアアル斯ウイフ始末デハドウシテ
其效ヲ以テ人心ヲ正シ風俗ヲ善クシ天下ノ治平ヲ望ムコトハ覺束
ナイ
儲物ハ極マレバ反ルトイフガ自然ノ理勢デアル今ノ如キ場合デ今
日ハ人心風俗興起セズ實ニ其極ニ至リテタルソデアアルカラコト
人々反省シテ一ツ引戻スベキ機會デアアル其レニツキ聊此ニ一言シ
テ其端ヲ發セント思フソデアアル凡テ物ニハ本ト末トアリ其順序ハ
本アリテ後ニ末アルニ定マレリ今草木ノ如キモ先根アリテ然ル後
枝葉アリテ花アリ實アリコト即チ本末デアアルソコト善ク草木ヲ養
フ者ハ先其根ニ培フ其根本ノ培養ガ届ケバ自然ト枝葉延ビ繁リ花

モサキ實モガリテ一々觀ルベキ所ガアルニ至ル又水ノ流ノ如キモ
其通りテ先ツ源アリテ然ル後流アルモノテ源ガ澄ムハ流モ自ラ澄
ム源ヲ塞ギテ水ノ流レンコトヲ望ムハ決シテ此理ヲキコトデアアル
此ノ他萬事根本アリテ後其末生シ觀ルベキモノアルソデアアルソ
テ學術ノ上ニ渡リテ論ズレバ此道學ハ本デ諸般ノ學ハ末デアアルソ
レ故先ツ根本タル此道學ヲ修メテソレデ己ノ一身ヲ修メソレヨリ
シテ人ニモ及ボスコトテ先ツ其根本ヲ確トスエテガレバ其スル
事爲ス事皆活動シテ實用ヲナス譯テ教モヨカテ出ル時ニハ其功
大ナルコトガ根本タル道學ヲソツテノガニシテ末ノ道學ニハ
只形ノミテ其理ガ立タヌカラ大ニ教ノ用ヲナスコトガ出來ヌソレ
故今日望ム所ハ此道學ヲソツテケニモズシテ其根本ヲ樹立スル
事第一トシ是ヨリ做將去レバ其教モ大ニ活キテ己テ修メテ人ニ及
ボシ漸々人心ヲ正シ風俗ヲ善クシテ天下ノ治平ヲ望ムコトガ出來
ル斯ク思フガソレニ付キ今人々各其身ノ居ル所當ル所アルガヨリ

概ニハ言ハレヌ所ガアレド必竟ハ人々其分ニ隨セテ已ソ當爲コト
ナカムニ外ナラズ其當爲コトナカムルトイフニハツマリ此道學ヲ
骨ニシテ之ヲ以テ萬事ヲ行フト云覽悟ガアリタト思フツヨク今
日人々ガ志ナソコニ立テ、學ニ志サバ己ノ一身ヲ修ムルハ勿論之
ヲ本トシテ之ヲ以テ人ヲ教フレバ自然教モ善ク行届キテ夫ノ人ノ
子ヲ賊ヲ讎ヲ免レテ大ニ爲スアルコトガ出來ルト思フ前ニ言フ通
リ治教ハ一理一致ニテ先教ガ出來テ然ル後ニ治マレテヤ非ルモ
テ又其教ハ人々ノ學ニ本ツクモノデアブルツヨク治マレテ欲スルモ
先ツ教ヲ立テザルベカラズ其教ヲヨクセシト欲スルモノハ先學ヲ
講ゼザルベカラズ其學ヲナスニハ先學術ヲ擇ブ事トガ大事ヲ
ルカラ必ズコノ道學ヲ根本トシテ斯學ニ據リテ已テ治メ斯學モ
リテ人ヲ教ヘ漸ク人心ヲ正クシ風俗ヲ善クシ其十分ニ治メ斯學モ
下治平ニ至ル處ヲ學教治ハ三段一貫デアアル其系圖ノ貫イテ所ナク
シテ單ニ一ツノ教法語ルコトハ出來ヌ故ス、ノトテテヨク知ツ

テ其理ヲ考究シテ其實ヲ得ベキコトデアアル
以上テ大體話ハ濟ンダケレト猶一言シテ置クコトハ何時モ余ガ言
フ話ハ他ヨリ見レバ話ガ大キイ乙甲ダ人ハ善ナシテ惡ナセズバ
ソレデヨイ何モソシナニ六ヶ敷事ナイハズトモヨイト思フ人ガア
ルカモ知レヌガ果シテソレ丈ノコトナラバ何モ六ヶ敷事ハナイ元
ヨリ學問モ必要ガナイト言ハンケラナラヌ然レモ物ノ道理ハサウ
簡單ニユクモノデハナク先ツ學ンテ斯道理ヲ窮メテソレテ實事ニ
行フテ始メテ善ヲ爲シテ惡ヲ爲サルトモ出キルソレナシニサウ
容易ニスム者デハナイ又氣分アル者ハ氣ガ張ツテ居ルカラ隨分リ
キミテ居ルコトガ出來ルガ氣トイフモソハアテマナルモノデナイ
ソレハ人間ノ氣バカリデハナク天地ノ氣モソノ通りテ夏ノ暑イ氣
モ止ム時アリ冬ノ寒イ氣モ時ガ來レバヤムモノデ極熱極寒永クツ
ツクモノデナイ人間ノ氣モソレト同シコトデアリデユクトイ
ツカ飢ルコトガ生ズル斯ウイフモノデアリハ頼ミニナラヌ一時ノモ

ノデアアルソレダカラ何デモ理ヨリ出デザルベカラズ今日學ビテ其
理ヲ明ニシ理ノ此ノ如クナラザル可ラザルヲ認メテ其レヲ我物ト
セバ生涯飢ウルコトハ無キ筈デアアルソレダカラシテ氣ノミヲ頼ム
コトハ出來ヌナンデモ此學上ヨリセナケレバナラヌ其學ハ所謂訓
詰詞章功名ノ學技藝ノ學ナドデハユカヌツマリ道學ニ依ラナケレ
バナラヌソレダカラ余ノ論ズル所常ニ主意ヲ此道學ニ歸着スルノ
デ何モコトサラニムツカシイ事ヲ云フデハナイ

辻市治郎君

筆記者金子權太君

上原銳男君

溫知會

花紅葉色香をめつる友ならぬけふの圓居を誰か知るへき

明治三十六年九月十八日印刷
同 年九月二十五日發行

非賣品

三重縣伊勢國桑名郡桑名町大字内堀六十番屋敷

編纂兼 發行 者 佐 治 爲 善

同 大字矢田横六十三番屋敷

同 石 山 七 郎

同 大字三崎通八十七番屋敷

同 印刷者 松尾民治郎

同 印刷所

同 印刷所 清光本舍

溫

知

錄

筆

二十一卷

温知餘筆卷之十二

學談 十二

礫川遺書抄二

再遊話錄抄 寛政癸丑季秋望行ヲ發ス其夜檢見川ニ宿ス翌十六

日申刻清名幸谷ニ着シ里正鶴澤氏ノ家ニ立寄り衣服ヲ改メソ
レヨリ直ニ孤松庵ニ到ル

先生毎日早旦ニ庭ヲ洒掃ス定時内テ書ヲ看ル着後ノ二日先生亦洒
掃ス定時宅中ニ安坐甚ダ安ンズル能ハズ因テ庭へ出テ其勞ニ代ラ
ン事ヲ請フ先生云キノフモナヨイト云々通りカマハズニ書ヲ看ル
ベシ因テ笑フテ云是デ心ヲ安ンゼヌト云ハ親ヲ下ヘ寐セラ二階デ
寐ル親ノアタマノ上ヘ居ル是デハ安ンゼヌト云様ナモノゾヤハリ
上ヘ寐ルガ安心ノコトデ親ノ爲ニモヨイ

○先生淺草海苔ヲ名付ケテ南郭ト呼ブ言ハ江戸ノ絶品デサテナ
イデモ事ノカケヌモソ

○宗伯明石 迂齋ノ喪中ニ靈前へ供へタ餘リノアツキ粥ニ砂糖ヲ入レテシタカ食ツタオレハ干大根汁デ飯ヲクツタレバ宗伯ガ飯クフハ非禮シヤト云故今ソナガ粥ヲ多ク食フガ非禮シヤト云へバ居喪ニ食粥ヲバ道ニ當ルト云タコレ形デ覺へタ羊棗ノ筋ハヒビカヌシカシ宗伯ノ吾身ニ勉ムル處ハ感心ニタヘズ從弟迄ノ喪ヲ家禮ノ通りニ心喪ヲキツト勉メタ彼ガ古禮ヲ主張スル虛言デハナイコレ及ビモナイコトナリ

○迂齋ガ學舎佐竹壹岐守殿ガ昨日芝居見物ニ參リタト云レタレバ野澤弘篤ガ直ヅニスツト鼻ヲス、ツテ臂ヲ張りロドイ顔色デ御家老ガ芝居家中ノ則ニナルマイトイへバ舍人殿從容トシテ云オレガキノフ芝居ヲ見ヌト此暮レ家中ノ者ガ餅モ得ツカレヌキノフ此舍人ガ芝居見タ計リデ家中ノ者暮レニ餅ヲツクト野澤聞イテハテナト云タレバイヤ浪人儒者ノ知ラヌコトシヤテト輕クアシラハレタ

○此間幸田ノ語録ヲ見ルガヨイワイドフモ大ブリシヤ因テ云或人が朱子ノ老子ヲ勞擾シ了ルト云レタヲ問タレバ幸田云作り馬鹿ヲスル様ナモノ

○江戸デ會ノ時トカクヤカマシイソフダソレハ互ニ益ヲ求ルデナク我説ヲ立テヤウトスルノゾソレデハ朋友講習益ニナラヌ會ノ筋知レヌ字ヲ彙デ引クヤウナ心持デヤツタガヨイソフスルト益ニナル

○定時云孟子云莫非命ト善惡分レ萬事出ヅノ萬事ヲウケコンデ云「是レ氣數ノ自然イカントモス可ラサル者ナリ只君子天ノ正命ニ順ヒ受ルノミ先生云莫非命ノ見處ガ立ツトヤハリハナシニナルソコデ其正キニ順ヒ受クナリカノ有性不言命ガソレナリ命ヲ知レバサワグコトハナイ是ヲ知ラヌトサワガシイソコデ不知命以テ君子トスルコトナシナリ定時云老子ハ莫非命ノ一段ヲ見テソレナリニ任セテ順受其正ノ一着ナシ先生云然リ

○因テ云誠ト知恵ガトドカネバナニモナラヌト

○上總書生ノ筆記ノ間違ヒテ直スニ因テ云講釋ヲ問書シテソレヲ書ナガヘル様ナコデハ學問ノ上ルコトハナイ程子ノ子厚ノ筆力ナシト云ハアリヤ文章ノコトナリ迂齋ノ講釋ヲオレヤ行藏ナド筆記シタ間違ヒハナイ學話ナド迂齋ハ見タコトモナイソレニオレハ講釋レテ其上筆記マデ直シテヤル此様ナコトハ昔カラナイコト

○靜カニ書ヲ讀ムガヨイ今ノ江戸ナドノ學友ノ出合ハ互ニ客氣デ已レガ説ヲ主張スル計リ一ツモ益ニナラヌソレヨリ我内デキツト課程ヲ立テ書ヲヨミスマヌ處ハ書留ユレハ學友デ質スコレハ默齋ニヨユスト云様ニシタガヨイ兎角書物ヲ看ルニハカマユカヌト學問ノ上ルコトハナイ

○有徳院様ノ命デ鳩巢ノ五倫五常ノ歌ヲヨマレシト聞キ傳フ但其辭ガアマリ優美ダオレガヨミテサヘ合點ユカヌ仁ノ歌ヲラバ涙ノ露ガコロコロトナドヤレバヨイヨスギテ一向スマヌ計リナリ漢文

デハ庸俗ノ耳ニ入ラヌ故ソレヲ日本ノ歌ニ直シテ天下ノ爲ニレヨ

ウト思召ス上ノ御卓見デアラフガ鳩巢ハヨスギルデ通ジニクイ

○幼少ノ時分夢ヲ見テオビヘル様ナコト度々アツタ十一二歳ノ時

少ヒサキ人形先キニアルク其跡カラ蛇ノツイテユクヲ見テフルヘ

テ目ガサメタレバ汗ヲ流シタ因テ翌朝其事ヲカイタ予昨夜夢如泥

壘人之妖其妖窘步蛇蝎亦隨之予見之吾心蘊結焉吾夢以爲是必狐狸

ナラント是レ五十年前ノコト韞藏錄編輯二十一ノ時デアツタ

○物ハカハリタモノ一ツヤブレルト安心スルモノ河豚ハアタルト

云テ食ハヌガヒヨツト一度クツテアヌヌト食ウ氣ニナルモノ

機謂コノ話至極親切ナ戒ナリスベテ世ノ不善ヲ爲ス者モ最初カ

ラ安心シテスル者デハナイ最初ハ必心地アレイヤラスルデアラ

フ處ガ一度ソレナスルト二度目カラハ早ヤソレ程ニ思ハンソレ

ナシナレシナレスルト段々タヤスクナツテキテイツカモフ我知

ラズニ安心シテシマツテ最初ノ心地アレイヤ氣味ニトナクナ

リテ眞ノ惡人トナルステバテノ盜賊モコレナリテクツテ死ス
モソレナリナンドモ最初ノ一ツガ最警戒スベキ所ナリ

○宗伯十一歳ノ時親父が迂齋ノ方ヘツレテキタ馬ノモヤウノ振袖
キテ居タ十一ナレドモズントナイサイ方デアツタ時ニ迂齋ノ定日
近思錄ナリマダ講釋ヲキイテモ合點ユクマイカラ先ヅ素讀ニ計リ
キタガヨイト云タレバ親父モ其ツモリナリ處ガ宗伯小僧ナレドモ
合點セヌトテモ合點ハ參リマスマイナレドモ何卒御講席ヘ出タイ
ト云タツテ云故迂齋モソレナレバトテ出ルニナツタ其時分迂齋ノ
講席ハ大勢ナリ老輩モアリ歴々モアリタ誰デモ始テ出テハナトオ
メル位ノコトデアツタ宗伯幼年ナレドモ少レモオクスル氣色ハナ
カツタ玄關カラ要人デゴザリマスト云テ障子チアケテサテ集會ノ
輩ヘ一々アイサツチシ近ヅキニナツタ扱迂齋ノ講釋チ五六席モ聞
クト私講釋ガシテ見タイト云出シタソコデ巧言令色ノ章チヨシダ
ガ中々ヨクシタ先日御講釋ノ脩辭立誠ト申スノト此巧言令色ハ似

テ大キニチガフダコトデゴザルト辨別シタ皆ガイカフ感心シタ其
時分宗伯ノ勢ヒ誰モボツツカレサフニナカツタ

○河北山ガ洪範チ大學ト合ウト云タ是ガヨイ様デ俗儒也聖賢ノ書
ニ大學ニ合ハヌハナイ大學ニ合ハヌナレバソレハ掃キダメニステ
ルモノナリソレチ大學ニ合ウナド珍ラシソフニ云處ガ俗儒ナリ大
學ガ聖學ノ規矩ドコデモハツレヌコトチ知ラヌ故ナリ因テ云論語
ガ大學ニ合ウト云ハヨシ出マカセノ咄ガ合ウ故ナリ大學ガ論語ニ
合ウト云ハ目ガナイ

○オレガワルイコトチ教ヘテヤラフ何デモ人ニ勝チタカラウカフ
云タラ又イヤ私爲己ノ學チ致ス中々勝氣ハゴザラヌト云ハフガソ
レハ虚一ツ議論チスルノデモ知レテ居ル小一ナドガ勝ハ好マヌ學
ハ爲己議論チスルノモ爲己ニ窮格スルノシヤト云タガソレデ貌チ
見ルトサテ勝チタイ貌デアツタ勝チタクバ勝チガヨイシカシ實ニ
勝チフト思フナラソフ云ヘタチ議論メシヤウデハイカヌ誰ゾガ偏

説ヲ云出ストマダ云シマフヤ云シマハヌニ早ヤツツカカルソレデ
ハイカヌ偏説ト思フナラ向ノ者ニ飽迄云ハシテオロテ扱ハヤ面白
イ御説デゴザルガ私愚鈍デキト合點ノユカヌ處ガゴザルガユコハ
ドフココハイカガトキヒサイ不審サキヨコキヨクトツクト元來偏
説故其キヨコキヨコノ鎗デ必ズウロタヘテツマラヌコトヲ云ソコ
デソレハ始メノトキト御詞ガキガヘマスガイカガナドトヤルトモ
フキヨトツイテ愈々ウロタヘルソコデ一本ノ大鎗ヲ出スコトゾコ
レデコソ議論ニ勝テシ始メハ處女ノ如ク後ハ脱兎ノ如シシヤ向ノ
説ヲ聞クヤ聞カヌニ此方カラ躁ガシクツツカカル様ナコトデハ公
事ナドニハ勝テヌ勝チタクバカフシタガヨイ扱イヨイヨ爲己ノ學
サスル氣ナレバ又今ノデハキト議論ガ多イテノモソツトヤカマシ
ク云ハズニスミノフナ者シヤガ

○因テ云アイラガ毀譽シタトテソレガナシシヤソシナトデ喜怒ヲ
ナス様ナ甲斐ナイコトデハイカヌアレラガ云丁ガナンニナルモノ

シヤオラナド徂徠サヘ取ルニ足ラヌト思フテ居ルチニアイラガ
機謂爲己ノ志ガシカト立ツテソコデ他人ノ毀譽ナト齒牙ニカケ
ルコトデナイ一分デモ人ニ求メル心ガアルト早ヤ毀譽ガ苦ニチ
ル毀譽チ心ニカケルウチハグヅグヅシテ居テ踏込シテ爲ス所有
ルコトガ出來ヌ學問ノ上ラフ様ハナイゾ

○十月九日ノ夜茶會アリ既ニ終リ先生云オレガ茶ノ湯チスルノチ
ヨイト思フカワルイト思フカワルクナイト思フダテフソフ思フガ
ヒイキ目ダ氣上ヘツイタ論ダ三十日逗留ノウチニ默齋トシテ馬鹿
ナコトヲシタト此茶ノ湯デ默齋ヲ見限ルト云デナケレバホンノコ
トデナイ貴様ハ山口剛三郎ガ彌太郎ト詩會ノ咄シタトテソレチハ
輕視スルデハナイカ茶モソレト同シ筈サテ山口ヤ御牧ガ城取ジヤ
トテ砂ノ上ヘナラベタテルナド卑クイコトト云ヒ視サゲルジヤナ
イカソレガ默齋ガ茶ノ湯ハヨイト思フガ氣ノ上ノコトヒイキト云
モノドフダ默齋ガ此馬鹿チスルガヨイカサア見限ルカサアドフジ

ヤ定時笑フテ云堯夫好シテ大字ノ書ヲ作ル明道朱子佳山水ヲ愛スル是分外ノ意甚ダ面白シ先生茶ノ湯少シモアシキト思ハズシカレ御弟子トナリ私モ始メヨフトハカツテ思ハズ山口ナド軍學ノコトナド云何モワルイコトデハナケレドモアレヲガソフ云處ノ一体ノ心ユキガ甚ダ卑クイサテキミノワルイ者ガアル然ルニトカク氣上ヘツキヒイキノ筋出ルハ甚ダ慮ルベキコトナリ先生云學友議論上計リデナクオレハトカクアレガヨイト云様ナ吾寺タウトシノ筋何ヘモカヘモ出ル者ナリ經濟ノ上ナドニ出テハ大サワギコレハ大切ノコトナリオレハアノヒイキト云コトキツイキヲヒ云々因テ云今デモドコゾノ學者ガキテ此釜ヲ見テ物ヲ玩ビ志ヲ喪フスマヌト云トオレハザキニオノレ馬鹿者入ラザルコトト其マ々逐ヒ出ス又是チヨイコトト褒ル一ツモ氣ニ入ラヌ

○蠱算ノ上ニモ聖人ノ易ト俗易ガアルセフカスマイカト云ハホシノ易クルカコヌカハ俗ノ易

○石原先生ノ予チ心元チイ處ガアルト思ハレタカ度々學而チヨメヨメト云レタ榎並正固ナド見處ノ高ヒモノガ迂齋先生オドガ不斷學而學而ト云レタ扱オレガ未生以前ノコトデアツタガ或儒者ガ迂齋ノ方ヘ來テ何カスサマジイ論シタレバ迂齋ガ御手前ニハ學而ノ御吟味ハスンダカト云タレバ彼是ト學而ノ篇ノ六ツカシイコトヲ舉テ論別シタレバ迂齋ガイヤオレガスンダカト云ノハ其事デハナイト云タ其後四五日タツト彼ノ男ガアヤマリニキタ扱々是迄ハ大キニ心得違チ致シタト大キニ愧タ様子ナリコレヲヨク聞タノナリ迂齋ナドノ學而ノ吟味スンダカト云ハ入道之門積德之基トソコチ本ニレテ工夫シタモノヲ云

○學者ガ尤ナコトヲ云テモ人ガ服セヌト云ハ尤ナコトヲ云テモ我ニナイコトヲ云故ソノ尤ナコトヲ人ガ尤ニセヌ

○論語ノ眞ツ始メニ學ノ字ヲ出シタコレデ人間ノ建立チスルコトト心得タガヨイ

○學ト云時ハマダニツモノ習フト云テ一ツニナル子供ノ手習後ニハ師匠ト一ツニナル
○學問ノ咄ヲスル時トカク道體ト云ホバナラシ是レガ朱子ノ流儀シヤノ宋朝ノクセト云コトヲナクカフナクテハ叶ハヌコトナリアノ學而ノ處ニモ人性本善ト云註ガナイト孔子ノ何故學而ト云レタカ根ガスマヌ
○直方云得一兩句而喜ブガ顔子ノワカバヘ
○大學ハ制札論語ハ曉諭
○不亦說乎ヨツボド力ガアル學者ニ喜ブ意ヲ知ラヌガアリ又ソレホド學力ガナクテモアツト喜ブ者ガアルヒラケテキテ手ニ入ルト夜ノ明ケ方ガアルモノソコデ喜ブ意ナリ此喜ブ意ノ出キヌウチハ灸オスヘル様ナモノ喜ブト云場ニナルト今迄シロラレタ學問ガ面白クナツテクルソフナイデ學問ガ上ルト云コトハナイ是カテ跡願レバソフアル筈ナリモト吾病氣ヲ直シテ本分ノナリニナルコト故

○有朋自遠方來トハ存シモヨラヌコトガ出來タノナリ孟子ニ好爲人師トアルアレハ魔ノサシタノ予ノ學問デ樂シク思フハ吾サヨイト思フ人欲ツ石原先生ナゾ不亦樂乎ノ様子ガアツタワルクスルト弟子ノ多イヲ說ブ様ナ人欲ニナルゾ樂ト云フ處ノ品格ドフ云處ト云味ヒ吾心デキヌト不亦君子乎ト云モスヌ釋氏ナドハ樂マヌソコガ高いケレドモ人倫ヲ絶ツナリ不亦樂乎ト云ガアノ新民ト一ツトナリ不亦說乎ハ驗デ云タモノ不亦樂乎ハ驗ト云デハナイ本望ナト云位ナコトコレハコレハト機嫌ノヨイコトガアルソコナリ
○今日ノ學者ノ學問ノ上ラヌト云ハ吾サヨイト思フカラナリソレガスマヌ文字ヲスンダト云デモナイガ何が少シ說ブノ味ヲナメテソコヘ腰ヲカケル故ナリ
○子貢ガ來タチ孔子ガキゲンノヨイナド向ノウケガヨイ故ナリ以善及人ヲ向ノウケガヨイト樂ムワルイト樂マヌ
○因テ云成德ノ君子ヲ語ルコト故心廣體胖カ動容周旋中禮カ何ソ

結構ナモノヲ出シソフナ處ヲ人不知而不愠ガ面白イ迂齋ノココサ
講釋スル時衣錦尙綱ト云コトヲ云タガ面白イツマリ心術ノコト人
ヲ相手ニスルコトハナイ金持ノ金ヲタメルハ爲己ユヘ私當年千兩
モフケタ見物ニ御出トハイハヌ扱大學ノ至善デモ學者ガ至善ニ止
ラヌトテ申譯ハ云ハヌ論語デ君子デゴザラヌト云タトテ叱ラレル
ト云デモナイガ何ニモ君子ト云フヲ遠方ヘオクコトシヤナイヤハ
リ不愠ト云カラシテ君子ヲ手本ニシヨクコトナリ至善ヤ君子ト云
テ遠々シク朝鮮人參ノ様ニ思フコトジヤナイ若林ガ花生ヲ床ノ上
ヘヨク置クソコガ至善ト云タ手近ニアルコトソ學而時ニ習フト云
執行最中其學習ト云内へ人不知而不愠ト入レテ今夜カラ工夫スル
コト君子至善ハ當分ナラヌコトトセズ今カラシテ執行スルガ
文字訓詁ノ學トテガウコト何モカモスミキツテカラ不愠ヲ心掛ル
様デハ一生手ニ入ラヌ

○孟子ノ首章義利ノ辨ノ名ノツク章ソコガ出處ノ義此義利ノ辨ト

近思出處ノ篇ガ一ツコト孟子戰國ニ居テ出處ガ大事ナリ出處ト云
ガ大學新民ニアヅカルコト孔子ハ丸ニ孟子ニハ角ガアルソコガ學
者ノ手本ニナル出處ノ篇ノマケガハヌト云封ヲ切テ見ルト義利ノ
辨義利ノ辨ガ明白ナレバ出處ノ分ガ正シイ太平ノ世戰國ノ時出處
ノ分義利ノ辨ニナガモハナイココニテアマ口ナコトガアレバヤク
ニ立タヌ學者ノ諸侯ヲ見ルモ此孟子ヲキメヨコト

○大史公書ヲ廢テテ歎ズ知リソモナイ司馬遷ガ知ツタコレガ史記
ヲ作ツタ男故事實ノ上カラ合點シタモノ司馬遷ガ扱々利ハヨサソ
フナコトト見物シテ居ルトソノ利ガイツモイツモ害ニナル處ヲ歷
代ノ事實デツクツクト見テ誠ニ利ハサリトハヨクナイ者ト知テ居
ル故サテモサテモト此デ歎シタ東坡ガ殺人コトヲ甘ンゼザルヲ事
實デ云ト同一揆也

○コレ程佛法盛シナレドモ佛ニナリサフナ佛者スクナイ又程朱ノ
學盛シナレドモ聖賢ニナリサフナ學者モスクナイハ何ヤラ大根ノ

處ニヌケガアルト見ヘルソシナユトヲ考ヘテ見ルト此敬齋箴ニ心
ガツカヌト見ヘル

○漢唐ノ絶學ヲ程子ノ繼レタナ何ゾト云ニ敬ナリ朱子ノ二程ノア
トヲ繼レタハ小學ノ作ナリ小學ガ敬ノ事實ナリ異學ノ徒ガ三代ニ
敬ハナイト云ハナイ筈小學校ガアルモノ近思存養ヲ出サレタ大學
ニナイコトヲ入レタガ朱子ノ手柄

○祭ニ涙ト云コトハナイユトアツト感ズルコトハアツテモ涙ニハ
ナラヌコト泣テモカクス位ナコト祭ニハ敬ヲ致スジヤ涙ハ喪ノ折
ノコトナリ多田ノ涙モ必竟人々涙ガ拂底故ホレルコトノ何モアア
シタコトデハナイ宗伯ガ迂齋ノ祭ノ時來テ何カ久シク神主ノソバ
ニツイテ居テモンデアゲマセウカト云様ヲ貌ナシテ居タオレガソ
ゾロテアイツ馬鹿ジヤト見テ取タ

○後世人情輕薄浪人共大名ノ前へ出ルヲミメナユトノ様ニ心得ル
ハイハイナイコト向カラ卑禮厚幣デサキノ志が見ヘユクニ義ガ

アルコヘユク會津侯ガ山崎先生ヲ呼レタガメツタニユク様ヲ先生
デハナイガ會津侯ガ卑禮厚幣デドウモシカタガヨイ故アノ先生モ
ユカレタモノ

○行宮便殿奏割ヲ山崎先生ガ一卷ノ書トシラレタノバドヲシテモ
經濟ノ意下見ヘル天子諸侯へ申上ルコトフデナケレバ手クロニナル
トナリ

○因テ笑フテ云行宮便殿奏割ニモレ面白イ發明アラバソレハ獻上
ノ綱ニ吸日ヲ付ケテ出ス様ナモノ

○佛學ヲセネバ佛ガ辨ゼラレヌト心得ルハワルイ町奉行衆ツヒニ
惡所へ往タユトハナケレドモ惡所ノユトガサバケル此方ノ道ガ明
ラカナレバサキニナンデモサバケル

○聖人ハウレシイニモ涙ノ出ルニモ太極ト寸法ガ合ウ發シテ中節
ガソコナリ

○心ハ一ツナモノ俗ニ云心ハ二ツ身ハ一ツト云ガアレハイキタイ

ト思フトサムイト思フトガ二ツノ様ナレドモイキダイト思フ時ハ
ソレ計リ又跡カライヤニナルガ其イヤト云時ハイヤ計リナリ何レ
ニモ一ツナリ只其一ツガ色々ト向キチカヘル計リ命物而不命於物
者ナリアルカフト思フデ足ガユク手デコフト思フデ手ガ出ル舞フ
ト思フカラカラダガ舞フナリ足ガユクカラ心ガツイテユクカラダ
ガ舞フカラ心モツイテマフト云コトハナイ

○イツモ云徂徠ハ日用不知ト云モノ心ノ妙用ヲ知ラヌ故ナリ佛者
ハ心ヲ知り過ギタ仕損セナリ聖人ノハ心ヲ見様ガユツタリ故工夫
モユツタリナリ佛者ハ切而迫故工夫モサワガシイ

○先生片紙ニ筆シ定時ニ訓シテ云

朋友講習。不必要。至當。獨取。日日格致之功。不空而已。久々而至當。自我而
出。

又恭節ニ訓シテ云

學者學道體。乃周流不滯。佐藤子示味池氏云。覺大活流。是直好之功。爲命
木氏

論之以勸
其心云

○又定時ト恭節トニ訓シテ云

師友之言。忽遽之頃。不容己心。姑閣之。不必迫切尋討。此處却無隱無犯之
氣象

○何デモウルサガルト云ハ心ノ充タヌノナリ直方先生云客ノ長咄
スル程次第ニゲンキニナルデチケレバ浩然之氣ト云レヌ客ノクル
ノモクル筈デクルコナノ逢フノモ義ノナリナリ何モウルサガルト
ハナイソユガ廓然大公物來順應凡天地ノ間ニアル者ヲ皆相手ニス
ルソレニエリキラヒガアルハヤ佛ノ弟子筋

○迂齋先生云聖賢ノ書ニ文字デスム語ハ一ツモナイ先生云オレガ
此坐舖ヲ或者ガ見テ大工ノシタコトハ一ツモナイト云タ

○先輩ノ説ニメツタニ間違ハナイガタマタマ本文ノ正意トナガツ
タノガ有ツテモソリヤチガツタダケニ譯ガアル尙訂ノ三工夫ノ説
ナドソレナリアレハ又アレデ至極面白味ヒノアルト机バナレノ

セヌ學者ハ本文ノ正意トナガツタ説ト云トモレフノケラシマフ

○弟子ガ信ズルカラツヒ弟子ニワルク思ハレヌ様ニトスル様ニナルソコデ巧言令色ガ出ルソリヤ弟子ヲ畏レテ天ヲ畏レヌニナルドコマデモ天ヲ指サシ相手ニスルコトゾソコデ終日當對於在天トアル

○因テ云貴様ガオレヲ稱スルノチ文治ニ委細聞イタガアマリホメ過ギダホメラレタトテウレシクモナイ默齋マダソレ程デハナイ貴様ナド信ズル處ガ篤ヒカラヨク見過ギルソレデハマダ格物ガアマ口ト云モノダゾ扱オレガヨイ處ヲ云ハフナラ令度貴様ガ三十日逗留ノ内少シモ物ヲツツマヌオレガワルイコトヲ皆咄シタ是モ君子不重則不威カラ見レバツマリヨイコトデハナイガオラ位ナ儒者ハコレガヨイ

○因テ云人ガ我ヲ信仰シ尊ブトイツトナク我ヲヨイト思フ様ニナルソコデ端的ガ警戒ノヌケテ魔ノサシタト云モノゾ仁齋ナドハ人

ガ甚信シ尊シダ故イツトナク高ブリガキヲ我ヲ聖人ノ如クニ思フタト直方云リ亂心ノ筋ナリ

○十三日寅下刻將ニ行テヒラカントス先生云貴様今ノ仕方デ何モ不孝ト云デハナイガ日ヲ愛ムノ誠ト云處ニナト届カヌ處ガアルデハナイカ御老父ノソバヲ離レタタヒ遠アルキヲスルガ親父様ノ御丈夫故ナト貴様ニ油斷ガアル様シヤ今度三十日逗留ノ内何事モナクヨカツタガ若シ貴様ノ留守ニ少々御不快デモアツテ呼ニキテ歸ツテハ是レ貴様ノ手ヌケト云モノニナルイツ何ン時ドノ様ナコトガアラフモレヌ又餘リ此様ニ云フト若イ親ノソバデモ離レラレヌ様ジヤガソコヲハ又別ガアル何程御丈夫デカラガ七十ト云ナレバ又若イ者ト同様デハナイ然レバ何ン時ドンナコトガアルモシレヌ今度三十日何事モナカツタノハ仕合ト云モノ今日天氣ヨクナツタト同シコト今日ニモ何ゾアラフモ知レヌ様ナモノゾソフ考ヘテ見ルト暫クモ親ヲ離レテハ不安心ト云ニナルソコデ親ヘ事ヘ

ル上ベ一日ノ日モ大切ニナルソコガ日ヲ愛ムノ誠少シモ油斷ナ
ラヌコトナリ此事ヲ先達ヲカラ云ハフト思フタガ是ヲ早ク云ト貴
様ガ案ジ出ス故今夜咄ス拜シテ別ル先生云尙又委細ハ書中テ訓門
人ヨリ節要ガヨイ

機謂此末條前卷ニ載スル所ノ總遊話錄第一條ト參看スベシ默齋
先生人ヲ教ルノ切ニシテ實ナルヲ窺フベシ孝子愛日ノ誠コレガ
シカドナクテハ學問モウイタコトニナリテ爲己ノ學ニ非ルナリ
此二條ヲ讀ムニ就キテモ二先生ノ學ノ切實ナルコト深ク仰ギ思
フベク又後世學者ノ尤吾身ニ切ニスベキ所ナルヲ思フベシ蓋明
師ヲ求メテ之ニ從フハモトヨリ學者ノ急ニスル所ナリ而シテ父
母在不遠遊ノ明戒ハ又人子ノ尤心ヲ用フベキ所ナリ定省既ニ曠
クヌ可ラズシテ從學ノ時又不可失者アリ學者此ニ於テ善ク之ヲ
處スル所以ヲ求メテ他日ノ悔ヲ遺サザルヲ要スベキナリ而シテ
此事豫ニ概論シ難キ者アリ人人ソノ遇フ所ニ隨ヒテ其宜キヲ處

スルノ道ヲ講求スベキナリ

右話錄二卷。定時總遊之日所聞之者也。時先生之話。一言半句上妙旨
存焉。而話中獨爲予所訓戒者亦甚切矣。予恐其久之或忘。因更錄記臆
胸次者。置諸几上。朝夕玩味省察勉勵云。

寬政五癸丑仲冬上浣

奧平定時謹識

機按棲遲庵先生年譜ニ寬政五年癸丑。二十五歲。從家君在江戶。春
正月。始適上總。親受學于默齋稻葉先生之門。踰月而還。編總遊話錄。
秋九月再如上總。踰月而還。編再遊話錄。ト見ヘタリソノ註ニ云先
生嘗自言。某當年自在江戶之日。得默齋先生之書於日原清水。素目
濡耳染既知大意。故初見之日。如舊從遊矣。蓋於其活論妙義。都渙然
不逆於心矣。ト見エ此遊前後ヲ合セテ僅々五十日ニ過ギズ然ル
ニ先生學ノ素有ル能ク勉ムル能ク其教ヲ體シ其學大ニ進ムコト
ヨリ尋常書生遊學ノ比ニ非ルナリ此錄ヲ讀ム者ノ反省シテ力學
スベキ所ナリ年譜又曰。九年丁巳。二十九歲。春二月。從見默齋先生

于上總。三月。默翁應館林侯之聘如江戸。踰月歸。先生從往返焉。夏六月歸。錄予已所聞。トアリ註ニ云先生親依默翁者。前後通半年許。其餘則書牘往復而已。先生嘗曰。雖則半年之功。然爲終身之地矣。默翁之恩實昊天罔極。ト見エタリ其從遊ノ日少クシテ其得ル所多シ默齋先生ノ善ク教ルト先生ノ善ク學フト讀ム者深ク察スベキナリ學者明師ヲ得テ從遊スル易カラズ幸ニシテ從遊ヲ得バ虚心以テ教ニ循ヒ受ル所是極メテ以テ終身ノ地ヲ爲スベキナリ

○白賁堂講義

子曰。不仁者不可以久處約。不可以長處樂。仁者安仁。知者利仁。
夫子ノ仰ニ人ト生レタ者ハ心ニ天理ヲ具ヘテ居ル筈ナレド氣ニ付タ生レ付キトカラダニ付タ勝手ヅクノ了簡ニ邪魔セラレテ天理ヲ具ヘタ本來ノ心ヲ取失フタ人ハ其取失フ處カラソレデ久シイ年月萬ヅ不自由勝ニ差支ダラケナ場ニ居オフセルコトガナラヌソレデ長ノ年月思フ儘ニ自由ガ足デ面白イ場ニ居オフセルコトガナラヌ一旦ハ二ツトモ辛抱モナラフナレド長久ナ年月ノ間ニハ續キ兼テヤガテ尻尾ヲ出ス様ニナルハ必定ソレト云モ身勝手ト云ガアルカラノコトデ天理ノ儘ニナルデナクテハ行届カヌカラ多クノ人ノ中デ本カラ心ガ天理ノ儘ニアル人ハスルコトナスコト丸デ天理ニ思ハズシラズ出テイツテ是ハドフシヤト小首傾ルコトハツイゾナクスラスラト出來テユキ此上モナク道理ニ目ノ明イタ人ハ心ガ天理ノマヽニナクテハナラヌト覺悟ノ透リ切タ處カラ丸デ天理ノマヽニアルテ

好マシク町人ガ金ヲホシガルト同様アル上ニモ又澤山手ニ入レタ
イト心掛ル此二様ノ人ハモツナイ場デアラフガ結構ナ場デアラフ
ガ場所ニ毛頭去リ嫌ハナイカラ年中デアラフガ都合次第ソレデ
一生果テモ一日ノ様ニ替リハナイシテ見ルト身勝手ノ了簡ヲ打捨
テ天理ニ叶フ様ニ人間ノ覺悟ガ第一シヤツ

此章ハ不自由勝ニ差支ダラケナ場ヤ思フマ、ニ自由ガ足テ面白
イ場ハ天理ノマ、ニアル人デ長ク辛抱ガ續クコトヲ仰フレテ人ハ
心ヲ天理ノマ、ニアル様ニトノ御趣意ト見ル

約。窮困也。利。猶貪也。蓋深知篤好而必欲得之也。約ノ字ハ萬ツ不自
由勝デ差支ルコトシヤ利ノ字ハ欲ガ深クテ不自由ナク持テ居テモマ
ダホシガツテタクシユマフトスルキミジヤカフ利ノ字ヲトク譯ハ
一通リナラズ人ノ心ハ天理ノマニマニアルベキ筈ト云テ合點シタ
キソフ合點シタ處カラ一重ナラズ結構ナトスイテ是非ソレテ手ニ
入ル様ト心掛ルノシヤシテ見ルト商人ノ利ヲ第一ニスルト替リハ

チイカラソヨク貪テ學ヲ去ルマ、ニアル様ニトノ御趣意ト見ル
不仁之人。失其本心。及約必濫。久樂必淺。惟仁者則安其位。而無適不
然。知者則利於仁。而不易所守。蓋雖深淺之不同。然非外物所能奪矣。
欲ハカキテ天理ヲ去ルマ、ニアル様ニトノ御趣意ト見ル
ヲ取失フカキテ天理ヲ去ルマ、ニアル様ニトノ御趣意ト見ル
イザシクカキテ天理ヲ去ルマ、ニアル様ニトノ御趣意ト見ル
義理ナ有間布コトモスルシ久シイ年月思フ儘ニ自由ガ足テ面白イト
富貴ノ爲ニヨイ氣ニナルモノ故辛抱ガ届カシテ是非富貴ニハマツ
テ人ヲ見下ル方ヘシミ込様ニナル獨天理ノマ、ニアル人ハ自分ニ
持テ居ル天理ノマ、ニ何事モスラズトデキテ約樂ハ勿論トコヘ
イツテモ天理ヲ去ルマ、ニアル様ニトノ御趣意ト見ル
アルデナクテ下此止マナイ目ノ轄ノ外レタ人ハ天理ホド結構ナ
物ハチイソレテ自分ノ手ニ入レデハスマヌ是非是非手ニ入レ様ト
其方ニ欲ガシコトマ深クテ自分ニ天理ハガフト知ルマ、ニアル様ニトノ御趣意ト見ル

事ニシテ外スヤイ下辛抱ヲ持テ居ル處ヲ人ガ云テ取易
ト云ハセヨフアル云物ハ此ニ様ノ人ハ知者ノ方ハ根入ガ淺
ク仁者ノ方ハ根入深キノ様ナラヌナリトモ年去テテ此
身カラ外天雷貴貧賤ヲ銘テ持前テ自由ニ引テ去ルコトヲ
處テハナラヌヤ 仁者安仁ヲ壯祖ノ錄ニ安仁者不知有仁如帶
之忘屢履之忘足トフ 賀孫ノ錄ニ恰似如今要ニ做ニ事信手做將
去。自是合道理更不待逐旋安排。如孟子說動容周旋中禮者盛德之至也。
トモ見仁者ノ上ハ與仁相忘ト云ルニ若何事モ自然ニスラヌヲ
ト造作ナクテキルガ安ノ字ノ持前ナシノ下ハナイ生知安行ハ安
ナクテ故注ニハ其仁トナリ本朝由我物由仁義待テ知者
ハ修業ノ眞最中テ始終ニ以ニナリヌイト心掛テモマダ我物ナラ
ズ於ノ字ヲ入レテ利於仁トアル 圃壯祖ノ錄不知有仁ト云フ
知入字太精密也所謂已欲立而立人ノ心ニ已欲立ソフシテ後
ト立人ト云ヤウニ已欲立ノト立人トノ間ニ少シモ思慮アツテ

而立人ナラバ知有仁ト云モノソレヲ不知有仁ト云カラハユフ
スルガ仁ジヤト云フテスルデナイミダシノ思慮ハナケレドモ
已欲立ノ心ト立人ノ心ト聊カハリノナイガ是不知有仁ナルベ
シ唯自然ニスラヌヲト造作ナクデキルガ安ノ字ノ持前トハソ
レニナガロハナケレドモ知ノ字ノ意味ハ説足ラザルカ由仁義
行ヲ引クハ絶妙ナレドモ詰リ知ノ字ハ欠分明何如々々
謝氏曰。仁者心無内外遠近精粗之間。非有所存而自不亡。非有所理而自
不亂。如自視而耳聽手持而足行也。 謝氏ノ説ニ仁者ト云ハ其心ガ
ツブ一理ニアツテ内ノ心外ノ事遠イノ近イノ精イノ粗イノソレハ
ドフコレハユフト云ソレソレノシキリ界ト云ハナク皆イキナリニ
自然ノ夫夫ノ道ガアリ 圃仁者心無内外云々ノ間ノ字心ノ通り事
ニ顯レ事ヲスル通り心モアルコトニテソコニ少シモ心ノ事ト一
枚ナラヌ處アレバ問アルト云コトナラン今夫夫ノシキリ界ト
云ハナク皆イキナリニ自然ト夫夫ノ道ガアルト云フ果シテソ

御ツモリカハキト分ラズ何如々々
氣ヲツケテ心ノウカトモヌ處ノアルデナクテ自然トナクナラズ一々筋ノ立ツ様ニ事ノ上ハスル處ガアルデナクテ自然ト埒モナク亂ル、様ニモナラズ其手際ニ造作ナク筋ノ立ツトナ物ニ譬ヘテイハフナラ此五尺ノカラダノ活キタ上デ日用ノ間目ニ視テ耳ハキ、手ハ物ヲ以テ足ハ行タイ處ヘアルイテユク通りジヤスラヌユク處何モ替ツタヘハナイ。爾耳目手足ノ譬上ノ二句ヲ承テ云ニ似タリ。今單ニ非有所理而自不亂ノ句計リテ云フカト疑ハシ何如何如知者謂之有所見則可。謂之有所得則未可。有所存斯不亡。有所理斯不亂。未能無意也。知者ハソレテ天理ノ上ニ見付タ處ガアルトイフハ隨分ヨイガソレテ手ニ入レタ所ガアルト云テハマダヨイト云ヘヌ心ノ上ハウツカリレテハナラヌツト氣ヲ付ケテウカトセヌ所ガアツテツコデナクナラズ事ノ上ハ筋ヲ立ネバナケント云テ筋ヲ立ル所ガアツテツコデ大ナシニ埒ナシニナラヌコフ云物故マダ是デハ

ナラヌガテコフシヤウト思フ心持ノナイト云ハデキヌジヤ
安仁則一。利仁則二。安仁者。非顔闕以上去。聖人爲不遠。不知此味也。諸子雖有卓越之才。謂之見道不惑則可。然未免於利之也。仁者ノ安仁ハ仁ト我ト界ハナク一ツ物知者ノ利仁ハ仁ト我ト別別デ二ツ物安仁ハ聖門デモ顔子闕子カラ上ノ聖人ノ場ヲ去ルトノ遠クハナイトスル人デナケレバ此安ノ字ノ味ハ味ハヘルトハナラヌジヤ其外ノ御弟子達ハズツト立越タ器量ハアルトテモソレテアレガ道ジヤトレツカリ見テドギマギセヌト云ハ隨分ヨイ乍去マダ仁ヲ我物ニセフト欲深ク立廻ル仲間チノガレンジヤ。語類ニ仁者洞然只是一箇心。所以無内外精粗遠近之間。又問無内外之間。是如何。曰。表裏如一。又問如何是遠近精粗之間。曰。他當初若更添高下顯微古今這樣字。也只是一理。トアリ既ニ仁者ト云カラ云テ見ヤウニフダンノトツトキノト云差別ハナイ筈ソコチ内注ニ無適而不然ト云タ物此謝說ヲ朱子ノ譽ラレテ上蔡尋常說有過當處。此却他人說不到。先生再三誦

安仁則一利仁則二之句。以爲解中未有及此者トアリ

○圍仁者ノ心無内外云々ト云フ語イカニモ仁者ヲマツハダカニ
シテ其心根ヲ引拔テカウシヤト云フ處ノスガマシキコソレノ
ミチラズ安仁ハ一利仁ハ二ト云フ是安仁利仁ノウマミチ喰タ
覺ノナケレバカフハ云レヌ故朱子殊ノ外ニ賞美セラレタコナ
ルベシ是意少シイロダシ○所引語類說精妙イハシ様ナシ此朱
子モ喰タ覺アルユヘカク説出サレタルナルベシ

○又問安仁者非顔閔以上不知此味。便是聖人之事乎。曰。是須知非顔
閔以上不知此味。到顔閔地位知得此味。猶未到安處也。ト見ユ心付ケ
テ見ルベキ處ナリ○此章約樂ニ處スルヲ云ガ主ナレバ仁者知者
ノ上モツコ迄カケテ云ベシ圍内無適而不然不易所守ト云テ非外
物所能奪ト云モソコナキツカリト云タモノ先儒ノ説ニソフハ説
カヌモアルナレドソレヲハ無理ナリ謝氏モ内外遠近云々ト仁者
ヲ云ヒ有所存斯不亡有所理斯不乱テ知者ヲ云ガヤツバリ其意ト

見ルソフ無クテハ本文ノ文義ガ第一ニスマヌ○圍仁者知者ヲ約
樂ニカケメト云フハ大謬高説ノ通り兩注外注顯然マギレナシ
鳴此ニ至テ覺悟スルコトガアル毎度文公先生ノ經書ヲ讀ムニ他ノ
淺キハ反淺ニ他ノ深キハ深キニカヘシ上ハスベリモセズ深入シテ
穿鑿ニモワラズシテ聖人ノ御主意ヲ心得ル様ニ御教ナサレタ
トアルガ已レガ學問ノ力ダケデドノ章ガ深イヤラドノ章ガ淺イ
ヤラ及ビモナイト思ワコト多年デアツタガ今思ヘバ文義ノ上テ多
分合點ガユクニヤト思ハルイカニアルベキ○圍淺處ニ鑿ツガ僕
ノ病敬聞教

癸丑秋九月初五腕稿

○子曰。惟仁者能好人。能惡人。

此章ハ心ガ丸テ天理ニアル人ハ好惡ノ上テ間違ヲシユニクテ仰ラ
レタル物ニ夫子ノ仰ラルニ人ニハ本カラ是ハヨシ是ハワルイト
知リ分ケテヨイハヨシシワルイハ惡ム心ハ生イ拔オテ居ルカヲ人

善イコトヲシタシテ見テハイカニモヨイト好ヤレト思ヒ人ハ悪ル
イコトヲシタシテ見テハイカニモ悪ルイト悪クラシク思フコトナ
ト云ハナイガ人ト生レタモノミシガミシハ間違ハヌ様ニ行カヌ
其中心ガ丸デ天理ニアル人バカリハ磨立タ鏡清ンダ水デ毛頭曇リ
濁リガ大イモテ故人ガ善イコトヲスレバイカニモヨイト自分ノ心ヘ
生寫シニウツリテ其人ヲ好マシク思フコトノデキ人ガ悪ルイコトヲス
レバイカニモウルト是モ心ニ生寫シニ寫ツテ其人ヲ悪クラシク
思フコトガ出来テ少シデモ間違フト云ハナイ
惟之爲言獨也。蓋無私心。然後好惡當於理。程子所謂得其公正是也。
惟ノ字ノ詞ガヲイヘバ千萬人ノ中ニ一人ノヨ、ロデ獨ト云コジ
ヤ大勢ノ中ニ仁者バカリト惟ノ字ヲ置クワケハ氣ニ付イタ生レ付
カラ云ト千差萬別テ事ノ善惡モハキト見ヘズ又見ヘタ處ガ本ヨリ
ズイタ人ニハタトヘ悪ルイコトガ有テモ好イト思ヒ又ハウルト知
テモ最負ソヨイト見タリ本ヨリ嫌ヒナ人ニハ假令好イコトガ有テ

モ悪ルイト思ヒ又ヨイト知テモ難辨チツカテ悪ルイトシテ見タリ
種々様々ナ細工ガ始ツテ本トウニハ一ツモ行カヌソレダカラ心ガ
丸デ天理ニ有テ自分勝手ノ了簡ト云ガ無地ナクソフ有テカラ好ム
モ悪クムモ好ミ悪クムノ筋ニ叶フテ少シデモ間違ハヌ夫レハ餘人
ハ叶ハヌ仁者バカリ伊川先生ノ申シテ置レタ人ノ前ヘ出シテ耻カ
シカラヌ心トキテウインデユガミハカイワザテ手ニ入ツタノダト
アルガソレシヤ 此ノ注ハ至極妙デ飽迄深ク御心ヲ用井ラレテ
學者ニ示サレタ難有ミガワカル學者ガ心サヘ付テ本氣ニ成テ見
レバ程子ノ公正ト云ハレタ二字デ此章ニハ澤山ナレドソフハ行
届カヌ物故無私心デ公ノ字ヲ解キ好惡當於理デ正ノ字ヲ解レ然
後デツナギテ付ケテ心ト事ト存主發用體用揃ヘテ云ノガ見ヘル
ソレハ語類デ見ルトヨク合點ガユク時舉ノ錄ニ程子只着箇公正
二字解。某恐人無理會。故以無私心解公字。好惡當於理解正字。有人好
惡當於理而未必無私心。有人無私心而好惡又未必當於理。惟仁者既

無私心而好惡又皆當于理也。トアリ。偶ノ錄ニモ今人多連着公正二字。其實公自是公。正自是正。這兩字相少不得。公是心裡公。正是好惡得來當理。苟公而不正則其好惡必不能皆當乎理。正而不公。則切々然於事物之間。求其是而心却不公。此兩字不可少一。トアリ。必竟公正ノ二字ヲ連着ハセマイトテ公ハ箇様正ハ箇様ト分ラレテ二ツ物ダカラ一ツガデキテモ一ツガデキヌモノモアルト云テ二ツ物ジヤト云テ人ニ承知サセル爲バツカリ實ノ處仁者ハ二ツ揃ヘテ出來ル語類南升ノ錄ニ程子之言。約而盡公者心之平也。正者理之得也。一言之中。體用備矣。或問ニモ載テアリ。是サヘ合點スレバ此章ハスムト云程ノト

游氏曰。好善而惡惡。天下之同情。然人每失其正者。心有所繫而不能自克也。惟仁者無私心。所以能好惡也。游氏ノ說ニ善イコナ好シテ惡ルイコナニクムノハ世間一同人ト生レタ者ツ變リナイ心ツレゾニ人ノ好惡スルタビニ好惡ノヨクヲ取外レテ大キキ間違ヲシテ居ルノ

ハ其人ノ心ニ氣ニ入タ處カラ惡ルイコモヨク思ヒ氣ニ入ラヌ處カラ善イコモアルヲ思フ様ナドヨニカ引カ、ル處ガアツテ心付イナ自身ト其了簡ヲ切テ棄ルコガデキヌカラシヤ大勢ノ中デ仁者ツツカリ身勝手ナ心ガ毛頭ナイカラ間違ナレニ好惡ガデキルヲカジヤ

癸丑秋九月小盡前一日

○子曰。我未見好仁者惡不仁者。無以尙之。惡不仁者。其爲仁矣。不使不仁者加乎其身上

夫子仰ヲル、ニ此方此年ニナルガマダ天理ノマ、ナル仁ヲスク人欲ハカリナ不仁ヲニクラレク思フ人此兩様ヲ見ヌナゼト云ニ天理ノマ、ナル仁ヲスク人ハ大學致知ノ修行デ仁ノ結好ナコナ知リ抜イテ居ル故是非非天理ノマ、ニアル様ニト寐ヲモ覺メテモ此ニ心ヲ用キテ我物ニナル様ニ心掛ルモノ故世間ハ廣イコダカラ仁ヨリモ一段結構ナ物ガ有テソレヲ出シタラバ仁ヲ差置テ其方ヲ

キガウナ物ナレドツツ中仁ヨリ最上ナ物ナイト見込居ル故
トノ様ヲ結構淨物ヲモツテ來テモ仁ノ上へ出ル物ハナク天理ニ反
イタ人欲ハカクナ不仁ヲニクランク思フ人ハ是モ同様致知ノ修行
ヲ通り抜ケタ人デ其平生仁ヲシテユク仕様ハ天理ニ反ムイタ人欲
ハカリナリヲ已レノ身へ外カラシムケサセヌ此二様何レモ格致ノ
關所ヲ通り抜ケ意ノ誠ニナリタ人デ好惡ノ上ガ自然ニユキ何レモ
德ヲ仕上ゲタ人デナクテハナラヌト故トント御覽ナサラヌワケ
夫子自言未見好仁者惡不仁者蓋好仁者眞知仁之可好故天下之物無
以加之惡不仁者眞知不仁之可惡故其所以爲仁者必能絕去不仁之事
而不使少有及於其身此皆成德之事故難得而見之也 夫子御自身
カラ仰ワル、此方マダ仁ヲスク人ナク見ヌオセナ
レバ仁ヲスク人ナクヤカヲ持前カラ仕上ゲタ人ニテ格致ノ關所
ヲ通り抜ケテ水火ヲ踏マレヌヲ心得テ居ル様ニホシマニ仁ノスク
ベキヲ知リ抜イテ居ル故世間ノ物トノ様ナ物デモソレヲ仁ノ上へ

載セル物ト云ハ頓トナイ不仁ヲニクム人ハ厲レイ持前カラ仕上ゲ
テユレモ格致ノ關所ヲ通り抜ケタ人デ水火通りニホシマニ不仁ノ
ニクムベキヲ知リ抜イテ居ル夫故其平生仁ヲシテユキ様ハキツト
不仁ナリヲ根ヲ切り葉ヲ切テ少シデモ己ノ身ニカ、ツテクルトノ
アル様ニハサセズ此二人ノ好惡スル處何レモ德ヲ仕上ゲタ自然ノ
ワザ事ト云チ心付ケテ見ルベシ好見タイ物ト思召テモガフ
云人ヲゴランナサルトノデキニクイイシヤ
好仁人ハ不仁ヲ惡マテ子ハナクレドモ其持前ムクヤカナ處カラ
仕上ゲタ人デ天理ノマ、ニアルノナイカニモ慕ヒ羨シテ首丈ハ
マツテ居ル處カラ不仁ノ邪魔ハ苦ニナラズ不仁ナリモ自ツト邪
魔ヲセヌ不仁ヲ惡クム人ハ勿論云迄モナク仁ヲ好ムナレド持前
ハゲシイ處カラ仕上ゲタ人デ不仁ハヤニクランシイ奴ハナイト惡
クム處カラ平生兎角不仁ノ間ガナ隙ガナ已レシ仁ヲスル邪魔ヲ
スルガウルサイ故ツトモ目セ付シ様ニスル方カラ云此三人共

好惡ノ上ハ知リ拔イテ居ル故今更ウシヌ骨ヲ折ル様ニナ
ナイ全ク前章ニ載セテアル利仁ノ場ヲ夫故無尙ト云ヒ不使加ト
云テ仁ト已レト一枚ニハナラヌ好惡ヲ分チガ寸分相違ナイ様ニユ
コトサレト表裏内外好惡が通り抜ケテ自然ニアル故成徳ト許サ
レタ物修行ガ届イテ守ル段迄漕付タレトマテマテ化スル場ヘハ
至ラヌ

有能一日用其力於仁矣乎。我未見力不足者。

前ノ様ニハ有リナガラ只今此ニ一朝思立テ已レノ精力ヲ仁ノ上ニ
用テ修行スルコトデキタ人ガアルナラバ思フ念力巖モ通スト云
カラシテハ此方マダカク迄ハマリ込テ精力ノ足ンテ出来ヌト云筋
ヲ心得ヌ

言好仁惡不仁者雖不可見。然或有入果能一旦奮然用力於仁。則我又未
見其力有不足者。蓋爲仁在己。欲之則是。而志之所至。氣必至焉。故仁雖難
能而至之亦易也。此一節ハ前ノ通りニ仁ヲスキ不仁ヲニクム人

ハ見ルコトハナラズトモ乍去モシカ一人間違モナク一朝ラルヒ立テ
キカシ氣ニナツテ已レガ精力ヲ仁ノ上ニ用ルコトデキルコトアル
ハ此方其上マダ已レノ精力ノ足ンテコギ付テラレシト云筋ヲ心
得ヌナセト云ニ仁ハ本已レノ心ガ天理ノマデアルヲ云ナレバ毛
頭外カラ連レテクルト云デハナイカラ仁ヲ心掛テ往クハ自分ノ
上ニアルコトデ他人ノセワチ頼ミハセヌ夫故仁ヲ得ヌイト心掛サヘ
スレバ其心ガ直クニ仁ノ場デソコガ自分ノ思込タ處ユヘ自分ノ思
込ノ届ク處ヘハ氣ハ元ヨリ思込次第ニ付テ廻ル物故是非其下知ニ
付テ届ク夫故仁ハデキニクイト申セドモ乍去思込次第其場ヘ漕付
ルノハ造作モナイヲ申スジヤ

蓋有之矣。我未之見也。

ソフハ申シナガラ大勢ノ中ニドフカシタラキカシ氣ニナツテヤル
積リデモ精力ノ甲斐ナク不足シテ先キ迄漕付ラレヌ人モアラフシ
ヤ乍去此方マダカク迄ヤル氣ニハマツテモ精力盡テ中途ヲタチ

少々人ヲ見ヌコシヤソレハ世間ニ誰モ本氣ニテツククテ遂ヤル程ノ思込ノ者ノナイ故サテモ残念ニシテ。蓋ハ二ノ足踏シテ耽ト定メヌコトバドフカシタラバト云様ナコ有之トハヤル氣ニナツテ已レノ精力ヲ用非テモ精力ノ甲斐ナク足ラヌ人ノアルヲサシテ云。蓋人之氣質不同。故疑亦容。有此昏弱之甚欲進而不能者。但我偶未之見耳。本文ノ通リニ申ス譯ハ前ノ様ニ申シタ處ガ人ノ氣ニ付ダ生レ付ハ千人ガ千色萬人ガ萬色デ一様ナラヌ夫故ドフカシタラバ大勢ノ中ニモシカ箇様ナ智モクラク力モ弱イノ最上デヤル氣ニ入シカ、ツテヤラフト思フテモ出來ヌ人ノアルベシ但此方不圖マデツウ云人ヲ見當ラヌバカリニシカトキメテ云レヌ。蓋不敢終以爲易。而又歎人之莫肯用力於仁也。前ノ様ニ申ス譯ハオシテ終始仁ニ至ルコトヲ造作モナイトササレズシテ其上世ノ人ノ心カラ思込シテ已レノ精力ヲ仁ノ上ヘイレテ修行スル人ノナキヲ歎

息ナサルノジヤ

此章言仁之成德雖難其人。然學者苟能實用其力。則亦無不可至之理。但用力而不至者。今亦未見其人焉。此夫子所以反覆而歎息之也。此一
章ハ仁ヲ仕上ダテ德ヲ已レニ持テ居ル者ハ世間ニ希ナコ故ソフ云
人ヲ見ルハ六ヶシイナレドモ乍去仁ハ本銘々ノ心ニ固有シテ居ル
物ユヘ今日修行ヲ心掛ル人モシモマシメニ已レノ力ヲ用非テ行ク
コトガ出來タナラハ仁ノ場ヘ漕付ラレント云筋モナイタマシカヲ用
非テモ漕付ラレデツクナツタ人ハ當時ニ於テモマダソソナ人ヲ
見アタラヌ必竟本氣ニ修行スル人ガナイ故ト知ルベシコトガ夫子
ノステ置レズ打返シ繰返シソレテ御嘆息ナサルツケヲ申スジヤ
此章講義比他諸篇爲太疏不悉。待異日之補正。

○又論學者朱子文集七十四

書不記。熟讀可記。義不精。細思可精。唯有志不立。直是無着力處。只如而今貪利祿而不貪道義。要作貴人而不要作好人。皆是志不立之病。直須反覆

思量究見病痛起處。勇猛奮躍不復作此等人。一躍々出見得聖賢所說千言萬語都無一事不是實語。方始立得此志。就此積累功夫。迤邐向上去大有事在。諸君勉旃。不是小事。

戊辰七月十三日先考嘗テ手録セル所ノ此一篇文字ヲ出シ機ニ示シテ曰此一篇須熟看是ヨリ先キ嘗テ此文ヲ畧解シテ公家ニ奉リ玉ヘシコ有リシカ今謹ンデ之ヲ録シテ以テ自ヲ戒メ且其垂教ノ意ヲ傳フト云

己卯五月二十一日機拜記

學談附錄 十二

示人

凡ソ人學バント欲セバ先ツ學ト云コトハ如何ナル事ト云コトヲ第一ニ知ルベキナリ論語開卷第一學而ノ章ノ集註ニ學之爲言效也。人性本善。而覺有先後。後覺者必效先覺之所爲。乃可以明善而復其初也。トアリ此ヲヨク合點スベシ學ノ字マナブト訓シテマナブト云ハマネブト云詞ニテマネナスルコト效フト云カ即チソレナリ然ラバナゼニマネスルト云コトガ必用デ何ノマネナスルコトツトイヘバ人ノ性ハ本來皆善デ古今トナク賢愚トナク人ト云程ノ者ハユユニ聊カ變リハナイ筈然ニ人ニハ氣質ノクルヒ人欲ノ邪魔ガアルユヘ誰モ誰モ皆スラスラト善ナリニハイカヌユヘ道理ヲ覺ルニ早イト遲イトガアルソコデアトカラ覺ル人ハ先キヘ覺ツタ人ノ知ツタ筋出來タ行チ手本ニシテソノマネチシテイツコデ多クノ道理ニ明カニナツテ本來ノ性善ヘ復ルコトガ出キルナリ手習セ手本ナシデハ

上ラヌ上ラヌノミカ字ニナラヌマシテ學問ハ手本ナシデハ上ラヌ
モノ上ラヌ計リデナイ本トウノ人ニハナレヌソコデ先覺者ヲ手本
ニセネバナラソコデマチスルト云コトガ必用デソレニハ是非先
覺者ヲ手本ニシテマチ子バナラヌ蓋學ハ本トウノ人間ニナルニテ
本トウノ人即チ先覺者ヲ手本ニシテソレチマチイツテヨクソレ
ニ似テソコ迄ユキツケバ善ニ明カニナツテ初ノ善ニ復ルコトが出
來テソコデ本トウノ人間ニナラレルソコガ學ノ成ト云モノ善ク學
ンデコレチ成セバ本トウノ人間ニナルナリ故ニ學ハ本トウノ人間
ニナルノ道デ本トウノ人ヲ手本ニシテ本トウノ人ニナルナリカフ
シタ譯ユヘ人間ハ是非學バチバナラヌ筈デ我所謂學ハ技藝小道ノ
學ニハ非ルナリ抑コノ學ハ何ノ爲デモナイ爲己ノ學デ即チ道學是
ナリ人能ク此ニ會シ得ルアラバ人ノ必ズソノ學バザル可カラズ
其當ニ學アベキ此ニ在テ彼ニ在ラザルヲ知シ我ニ一言有リ曰世ノ
學ニ志有ル人本トウノ人ト爲レ藝者ト爲ルナ

世ニハ學問スルト云テ隨分讀書ナドシテ居ル者ガアルガソレハ
何ノ爲ニ學ブノダト云ト彼ノ爲此ノ爲ト云テ人ノ學バザル可ヲ
ザルノ學ト云コトヲ知ラズ只自己ノ私用ニ供セントス只利ノ爲
ニスル者ニシテ爲己ト云コトヲ知ラヌ是レ斯學ノ罪人ナリ又一
種書ヲ讀ンデ只文字上訓詁ヲ事トシテソレチ學問ト心得テ居ル
ガアル是ハダタイ學問ノ主意ヲ知ラズシテホントウノ人ニナル
ト云思込ノナイ者ナリ是ハ實ニ知ザルノ致ス所ニシテ憐ムベキ
者ナリ或ハ罪人ニ果テ或ハ憐ムベキニ終ル是皆要スルニ學ハ如
何ナル事ト云チ知ラザルノ失ニ外ナラズ此他學チ口ニシテ終生
得ル所ナキ者滔々皆是ナリ學ノ義先ヅ講ゼザル可シヤ我今此ニ
之ヲ言フ所以ナリ

扱右ニ言フガ加ク學問ハ本トウノ人間ニナラフト云學問ニテ凡人
ヨリ進ンテ聖人ニ至ル所以ナリソレハ勿論ナル道理ノアルコトニ
相違ナイコトデトテモ我々ノ出來ルコトデナイト云テ引コムコト

デナイツレバト云テ是レハ人間一生ノ大事業デ中々容易ニイコト
トデハナイサレドナル筋有テスルコトデコナノ思込次第ナリ只人
ニ勸メラレタカラ一ツヤツテ見様カト云様ナコトデナルコトデハ
ナイ學ノ必ズ爲サザル可ラザルヲ知ツテ我レト志ヲシツカト立テ
テフミコンデカカラチバナラヌ世間ガアアダカラナント云テ脇ヲ
見合セルコトデナイワキヒヲ見ズニ信シテ通りチ一文字ニ進ムコ
トゾ此ニハ脱俗ノ見ト云ガ必^用要ナリ元來斯學ト云ガ我身ヲ本トウ
ノ人間ニスル爲ノ學問デ決シテ爲サザル可ラザルノ學ニテ些トモ
他人ニ關シタコトデナイ一味爲己ノ學ゾ果シテ爲己ノ學ト思込ダ
日ニハ世間何カ有ラン俗習何カアラン些トモ見合セル用ハナイ筈
ゾサレバ學ノ果シテ如何ナル者ト云コトヲタシカニ知り篤ク信ジ
テ已レノ爲ト一途ニ志シテ脇目フレネバソコガソノママ志立テ俗
ヲ脱シタト云者ソコニ少シデモ俗習ノ垢ガアレバソレダケ志ガ立
ヌト云者ナリ全體學ハ自分ノ事ヲ自分ガ爲ルノデ志ヲ立テ意ヲ決

シテ行クハモトヨリ我カラスルコトデ聊カモ他人カラスルコトデ
ナイ人能ク此ニ見ル有リテ其志ヲ立テ俗見ヲ脱却シテ奮躍勇往ス
ルアラバ人ニ過ル遠シコレデ學問ノ土臺ガ出來ヌト云者ゾ扱其學
問ノ土臺ハ右ニ云ガ如ク人頼ミハチラヌ者デ是非共自分ノ力デス
ルコトデソノ土臺ノスハラヌ中ハ木偶人ノ様ナ者デ活精神ガナイ
カラ聖賢ト雖ソレチドフセフト云コトモチラヌソコデ先ヅ第一ニ
自分ノ力デコノ土臺ヲツクヲチバナラヌソノ土臺ノ出來ヌ以上モ
勿論益々自身ノ力ヲ十分用ヰルコトダガソノ上ニ明師ヲ求メテコレ
ニ從ハチバナラヌソノ明師トハ即チ生キタ先覺ニテ之ニ親炙シテ
目ニ見耳ニ聞キ心ニ會シテ其所知所行一々之ヲ手本ニシテマテル
トゾ扱聖賢ノ教ハ布キテ方策ニ在リ志アリテ能ク學ベバ必シモ師
ニ從フニ限ラヌト云者モアラフガソレハ大キナ了見違ナリ古人親
炙ヲ貴ブト云コトヨクヨク考フベシ生キタ教ト云ハ下手ナ勘定ノ
外ナ者デ一語一字ノ間ニモ人ヲ開發振作スルノ妙^皆アル者デソノ

妙趣妙味ハ書物ヲ繰返シテ行々字々ノ墨痕ヲサガシテ見テモサウ
チウハカイテナイ者デソノ段ハ生キタ先覺即チ明師ノ有難イ處デ
學者ノ覺悟見到ハ多ク此間ニアルコトゾツレバ明師ヲ求メテ之ニ
從フハ學者ノ最大事トスル所ニテ師擇バザル可ラザルナリ今自分
ガ何處ゾベユカウト心ヲキメテ鞋ノ緒ヲシメテ踏出シタガマダソ
ノユキ道ヲ知ラソコデドフユクト人ニ問フニヨク知ツタ人ニ問
フト道ガヨク知レテ其志ス處ヘユカレルガ生マ知リノ人ニ問テユ
クトトシダ所ヘ迷ヒコンデ志ス所ヘハユカレズニシマフ學者ノ師
ヲ求ルモソレト同シコトデ善イ師ニツクト其學ヲ成シテ志ス所ヘ
ユキツカレルガヨフナイ師ニツクト一生マゴツイテ志ガアツテモ
ユキツク所ヘ得ユカズニシマフテ草木ト同シク朽死スルニ終ルツ
サレバ師ヲ擇ブト云ガ大事ノ事ゾナンデモ學ノ正シク目ノ明イタ
師ニツカチバ學問ハ成就セヌ學者志既ニ立ツテ又明師ヲ得テ爲己
ノ學ニ一ニシテ力メテ己マザレバ何ゾ學ノ成ラザルヲ憂ヘン苟ク

モ然ル能ハズシテ其學ノ成ラシコトヲ欲ストモ萬コノ理ナキナリ
可不審哉

人ノ學ヲ爲ス先ツ學ノ如何ナル者ト云フヲ知ラザレバ由テ學ニ
入ルナシ學ノ果シテ學バザル可ラザル者ニシテ己ム可ラザルコ
ケナシミジミト心ニ會得スル所有テ方ニ志ヲ立ツヲ得ベシ實ニ
會得スル所アレバ其志立タズニハ居ラレヌ志立ツト雖又明師ヲ
得テ其指導ニ隨ヒ其師傳ニヨルニ非レバ能ク其志ヲ達シテ其學
ヲ成スナシ既ニ學ノ義ヲ知り志ヲ立テ又明師ヲ得テ先覺ノ所爲
ニ效フテ力ム能ク如此ニシテ其學成ラザル者未ダ之レ有ラザル
ナリ世ノ學ヲ爲シテ成ル有ル能ハザル者ハ皆此ニ於テ闕ル所有
ル者ノミ以上語ル所ハモトヨリ其大要ヲ言フ者ニシテ其講學上
更ニ大ニ功夫ノ在ルアリ斯學ニ志ス者更ニ審カニスベキ所ナリ
戒怠

學ブ者隨分ヤル氣デガカツテモトモスレバ怠ト云奴ガツラヲ出シ

タガルコヤツ學者ノ大敵ナリコレガ一度ツラチ出シテソレチ打拂
 フコトガ出來ヌト今迄ノ骨折タコトチ皆ムダニシテノケテレマフ
 ツ鄙語ニ云百日ノ説法屁一ツナリ扱意ノ悪ルイ位ノコハ誰モ知テ
 居ルケレドモソレガ折々ツラチ出シテ來テソレニ克レヌト云ハ其
 故何ツヤ他ナシ只是志立タザルガ爲ノミ全體人間ハ血氣ノカラダ
 ナリ氣ニハモトサシ引キガアルソレユヘ氣ニ任セテソレナリケリ
 ニシテ置クト退屈ガ出テキテ大欠ビチシ始メル者ナリサラバ息モ
 當リ前ノ事デ苦シフナイカト云ト氣カライヘバ息モアリウチノ者
 ナレドモ理チ主トスル學問上カラハサウハ言ハセヌゾ蓋人ハ血氣
 ノカラダニハ違ナイガ其一身ノ主ト爲ツテ居ル者ハ理ナリ理ハ常
 ニ明カナ者デ目バタキハセヌゾノ理ニ息ト云トハ決シテナイ筈
 ソ氣ト云者ハソレト違イトカクイタツラ者デオカラ捨テ置クト我
 ママニナルソユデ其氣ヲ取締ツタイカネバナラヌ氣ヲ取シマル者
 ハ志ナリサレバ志ハ氣ノ帥トアリテ志ガ氣ノ大將デ氣ハ志ノ卒徒

ナリ其將帥タル志ハ理ナリニ向イテユク者デコレガ主トナツテ引
 廻シテユケバ氣ハ其大將ノ指揮ナリニツイテハタライテ例ノ横着
 ハナラヌサレバ人眞箇ニ志ヲ立得レバ自ラ意ハ出ヌ者只息ヲ制セ
 ントシテモコチニ主ガナクテハ一時制シタ様デモ又モ又モト意リ
 ガツラチ出シ出シシテ制スルニ勝ラレズハテハ人欲ノ世界ニナツ
 テシマフソレユヘナンデモ根カラ洗フテ立志カライカネバナラヌ
 志チシツカト立テテ常ニ氣ヲ取シメシテ油斷ナクイクトツ持其
 志無暴其氣ゾカフアレバ息ノツラチ出ススキマガナイガヒヨツト
 志ガタルムト其スキマヲ窺ツテ息ガ突テ出ル嚴明チ大將ガ再拜チ
 トルト士卒ガ皆精銳ニナルガソノ大將ガ少シトロイト節制が行ハ
 レズシテ士卒ガ手シ手ニ横着チスル様チ者デ軍ノ勝敗ノ機學ノ成
 否ノ分此ニ於テ決スルゾトカク常人ハ息ト中ヨシユヘイカヌ息ハ
 百邪ノ始メニシテ實ニ進學路上ノ大障碍ト知ルベシ歌ニ
 息の塵もつもれば山なしてけふも麓に行きなやむ哉

恐ルベシ戒ムベシソノ大障礙ヲ打破ツテ向上シ去ルニ立志カラナ
リ又歌ニ

さして行く心のしめの一筋に絶ずば倦まじひなの長路も
學者用力處ソレ此ニ在リ夫レ立志モ我ニ在リ怠モ我ニ在リ唯其我
ニ在リ故ニ我爲サント欲スレバ以テ爲スヲ得ベシ我爲サザラント
欲セバ以テ爲サザルヲ得ベシ學者此間ニ於テ其當爲ト不當爲トヲ
明辨シテ之ヲ決行スルヲ要スルニ在ルノミ理ヲ主トシテ志ヲ立ル
ハ是レ當爲底ニシテ徒ニ氣ニ流ルルハ不當爲底ナリ此明辨決行ス
ベキ所ナリ

必竟スルニ怠ノ字ハ心ニ從フ文字ニテ心ノ沙汰ナリ人ニツノケ
程デモ心ニタルミガアレバスグニ怠ナリ何モ行爲ニ見ハルルヲ
待テ後ニ怠ト云ニ非ズ其行爲ニ見ハルルヲ待テ後始メテ氣ノツ
ク様ナコトデハ早ヤ十分怠ニ流レ込ニテ居ルノデ間ニ合ハズ話
ナリサレバ學者ハチタイニ志ヲ立テ常ニ氣ヲ取シメ取シメテ

ソノ一念一寸タルミカカル所ハ殊ニソレト氣ヲツケテ取シメテ
行クガ大事ナリ

書感

心者人之神明所以具衆理而應萬事者也ト孟子集註ニアルナント大
切ナ者デハナイカ扱此心ハ聖賢ノ心ヲ云カト云ニソフデナイ古今
聖愚誰デモ此通ナリ吾人デモソレニハモレヌ扱世間ノ衆人ヲ見渡
シタ處ガソレ程ノ神明ヲ待テ居乍ラ中々サフトハ見ヘントント心
ガ眞ツクラガリデ五月闇クラハ山ノ郭公ト云塩梅デ何ガ何ヤラ
サツパリ見ヘヌ者ガ多イソレハドフシダト云ト本心ハ神明ナ
レドモ既ニ此身アレバ氣質人欲ト云者ガアツテソレニ邪魔セラレ
テ學問デソレヲ開クト知ラヌ故ヅ人ニハドフモ氣質ノクルヒガ
アツテソレダケニ又人欲ト云ガアル扱ソノ欲ト云者ハ人ニ在テ極
メテ力ノ強イ恐ロシイ者デ衆人多クハ生涯此欲ニ奉公シテアクセ
クト立廻リ果テハ之レガ爲ニハ二ツナイ一命ヲモ捨兼ヌ何モ其欲

ト云ガソレ程力アル者ト云デハナイガ人ガ迷ヒコンデムセフニ逆
上シテ然ル者ナリカク迷惑シタムセウニ逆止シテ首メケト云ヒタ
イガソコ所デハナイ昔或軍ニ何トヤラ云小兵ノ男ガ堀ノ中ヘ飛込
ダレバ水ガテヘンチ越タト云コトガアルガ小兵所カ六尺ノ大男子
ガ欲ノ中ヘ丸デ陷溺シテ居ルソレガ爲ニ神明ガクランデシマフテ
本來ノ明光ヲ發スルコトガナラヌノナリ扱ソレナレバ人々ガ欲ト云
者ハ立派ナ者ト思ヒコンデ居ルノカト云ヘバサフデハナイ欲ハ御
坐敷ヘハ出セヌ者ト云コトハモトヨリ承知シテ居ルナリソレハイ
クラ迷ヒコンダト云テモ流石ニ本心ノ明ノ終ニ己ム能ハザル所ナ
リ扱其欲ニ克ツニハ何物ヲ以テセン世間ニハ欲ヲ以テ欲ニ克ント
スル者モアルケレドモソレハ五兵衛八兵衛デダメナ話ナリ欲ニ克
ツニハ理デ克ツヨリ外ハナイ學者ハ物ニ即イテ其理ヲ窮ムルト云
ガ第一ノ修行デソコニ骨ヲ折テ理ガ明ラカニナツテクレバソレ丈
心モ明ラカニナツテクルゾコノ功夫ガ積モリ積モリテ心ノ明カニ

ナツテクル程迷ノ雲霧晴渡リテキテ欲ナント云者ハナシデモナイ
タツイモナイ者ト云ガ明カニ見ヘテキテ前日陷溺シテ奉公シテ居
タノガ今更笑止千萬ニ思ハルル筈ナリサフ迷ガ晴レルト晴レル程
又心ガ明カニナツテキテ本來ノ神明ニ復ルコトガナルナリ扱ソノ欲
ト云ニモ色々アルケレドモ大抵ハ皆皮肉上淺淺ノ事ノミ曰富曰貴
曰譽曰食色ナント云類デ其物チ一々裸ニシテ見ルト皆タツイモナ
イ物ナリ金持ニナツテ金ヲウナラシテ一生其番人チシタレバトテ
ソレガナンダスサマシイケンマクデ人チ見下シテ威張テ見タレバ
トテソレガナンダ世ニ人ニ譽ラレタトテソレガナンダ少々口アタ
リガイイノ目ウツリガイイノト云タ所ガソレガナンダミンナ我身
ノ外ノ物デ迷ヘバコソナレソコチズット一トノシノシテ神明ノ眼
ガラソレチマツ裸ニシテ見レバ皆輕々タル者デ我身心ニ關シタコ
トデナイソレヨリハ學ンデ此理ヲ窮メ我本心ヲ明カニシ之ヲ日用
實事ニ行フテ心ノ神明ヲ全クシ具ヘテ道理ヲ盡シ己レノ本分ニ負

カザルヲ要スルガ大事ナリ併ソレハ言フベクシテ行フ可ラザルコト云者モ有フカソレハ頭マデヤル氣ノナイ者ノ言ヒクガニ過ギヌ衆人生涯欲ニ奉公シテ之ガ爲ニハカケガヘノナイ一命迄ヲモ打捨テ欲ヲ得様ト求メルデハナイカソレ丈ノ心力ヲ斯學ニ用非テ決シテ得ラレヌト云コトハナイ筈元來求メテ得ラレヌコトデナイ求メテ得ラレル筈デ求メルニナラヌト云筈ハナイ然ニ求メテ必ず得ラレル筈デナイ者ヲ一所懸命ニ求メテ得ラレル筈ノ者ニソリ返ルガ分ラヌ只力ヲ用非ザルヲ病ムゾ其學ノ方ハモトヨリ一言ノ盡スベキニ非ズ更ニ仔細ニ講求スベシ兎角人身上不可不爲ノ大事有テ之ヲ爲スコトヲ知ラズ却テ徒ラニ身外ノ欲ニ區々勞擾シテ皮肉上ノ微快ヲ求メント欲ス何ゾ其思ハザルヤ

温知餘筆附錄九

勢海一滴 九

太公賛

幡々一老。遇合有時。釣餌無魚。卜兆非彰。涼彼西伯。開斯周基。牧野之誓。三軍決疑。營丘之封。百世可知。曰敬曰義。爲王者師。惟翰惟畧。出將家奇。遺風餘烈。念茲在茲。

三宅誠齋先生

武侯賛

略包王霸。交全水魚。三代之後。君獨渠々。火德向燔。殘燼呵噓。出師二表。天地炳如。其德淡泊。其心安舒。雖率三軍。如在艸廬。

廣瀨蒙齋先生

蒙齋先生畫像賛

行已介然而人不忌。待人温然而人不狎。其德玉潤。其文燁々。三世經帷。啓沃有勞。督學掌鐸。作成可法。

片山恒齋先生

題神農像

嗟々聖神。成務開物。脫天折厄。躋仁壽域。天覆維仁。地載維德。萬億斯年。

南合果堂先生

永違典則。

關羽贊

秋山實堂先生

同牀而寢。兄弟恩親。侍立終日。君臣義醇。白馬報遇。老瞞呈眞。七軍覆沒。漢賊逡巡。英風凜々。千歲猶新。

自題肖像

岩崎些齋翁

五十四年。所學何事。何思何慮。唯義之視。盡忠報國。死而後已。劍一人事。至理亦寓。一用一舍。斷然不疑。彼此兩忘。惟我獨尊。

右舍從自題肖像圖。天保十年己亥孟春。

舍從ハ翁ノ名ナリ翁嘗テ立教館學頭タリ又念首座流ノ劍法ニ達セリ故ニ文中劍法ノ事ニ及ベリ嘗テ聞ク翁劍理ニ達ク發明スル所アリ筆記スル所ノ書往々此文ニ言フ所ト相發スル者アリト猶其行事ノ大畧ハ本書卷之一前脩録ノ部ニ見ヘタリ參看スベシ

○蒙齋先生ハ尤文章ニ長シ玉ヘシトハ遍ク人ノ知ル所ナルガ晩年

ニ至リ中風ヲ患ヒラレシカバ諸交友ノ人々深ク之ヲ案ジラレシニ付病中一文ヲ書シテ諸友ニ示シ玉ヘル者文集中心ニ見ヘタリ今特ニ之ヲ此ニ錄シテ後人ヲシテ其文辭ノ如何ヲ考ヘシム

題仲遷所寄石川瀑圖奉呈翠關致仕大夫

傳云。冬日飲湯。夏日飲水。隨天地寒涼之異。物各有所宜焉。於君子所好書圖類。亦須有與時所宜也。予昨於某侯之所。觀風雪夜歸之圖。而忘炎曦之在簷外。又觀此圖。乃覺午景俄歛。涼飈生座。颼颼之聲。搖松栢之巔。勝數服之清涼散。故今書中挿以呈之。不知大夫披覽之時。亦能我得癩涼於此展閱否。

予自去年得中風疾。文思退縮。故人信友爲予患之。屢有欲看予近作者。大夫亦辱知遇。蓋亦有此心。因錄呈遣之。題跋文字之小品。雖不足觀人之盛衰。然其文字貴有風流韻致。亦實有足觀之者。文政九年五月俗祭菅神之日。

蒙齋書之於八丁埴東溪肥亭內。時車馬喧填過窓外。窺之。爲藤堂

侯大學頭。藩與桑名鄰。方以文學成士。與衛之盛可敬云。

先生ガ中風ノ疾ヲ得玉ヘシハ文政八年ノトニシテ其十二年ニ至リ
没セラレタリ此文ハ九年トアレハ疾作ルノ明年ニシテ五十九歳ノ
五月ナリ蓋當時諸交友ヘ文ヲ送ラレシコアリ今此ニ掲載スル所ハ
其東里翠關隱大夫ニ呈セラレシ者ナリ其本書今機ガ筐中ニ秘藏セ
リ其筆跡ハ復タ先生ノ平日ニ非ズト雖其文ヲ讀ムニ至リテハ未ダ
其文思ノ退縮ト行文ノ艱難トヲ見ザル者ノ如ク然リ先生病中嘗テ
同大夫ニ寄セラレタル書中ニ此疾ヲ得不申候ハ天下無敵ト揮筆
可仕候處誠ニ天命是非モ無ク御坐候トアルモ今思合サル、ニナン
○先考ノヨミ玉ヘル數多ノ歌ノ中ヨリ聊カ此ニ抄録ス

惜分陰

時の間もあたに過すなつく息のかへり來ぬ世と知るやしらすや

無聲無臭

よそにのみきゝやわたらむ音もなくかもなき天のそのことわりを

義之興從

名の爲ときけはものうし人のたゝかくありてよき道にしたかへ

戀友

もろともに昔をしたふ友もかな秋の夜すから語り明さむ

述懐のこゝろを

園の梅の折しりかほにふり積る雪にまかはぬ匂ひもかな
分つべきことわり知らぬ愚かさを老ての後にわふるはかなさ

歳暮

西に入る日影もをしや六十あまりふたゝひは來ぬけふの暮方
忘れてもあたに月日をすこさしと暮行く年に身をかへり見む
悔るさていかでかへむ年月をあたに過せし身のたごたりを
ましてしはし學の窓にふりつゝもる雪にそたとれとしの暮かた
つかの間もとしこを思ふ行く年の名こりつきせぬ老の心に
けふよりと思ひ入る日の淺ければ又いたつらに年そくれぬる

春雪

人心多すくもあるかこの春のふるかこ見ゆてきめる淡雪
題しらす

明暮にいかで忘れむ枝折せし花の奥ある見よしの山

松波龜理ノ事ヲ記ス

昔者守國神公ノ治ヲ爲シ玉ヘシ時賢ヲ舉ゲオヲ育ヒ一藩ノ臣庶
ヲ作興シ玉ヘシカバ文武ノ士濟々トシテ輩出シ一技一藝ノ徒モ亦
皆其器ニ隨ヒテ叙用セラレタリ是ニ於テ松波龜理ナル者畫ヲ善ク
スルヲ以テ擢テラレテ繪圖師トハナリ又龜理性澹泊寡欲唯畫ヲ好
ミ酒ヲ嗜ミ一家ノ生計ヲ事トセズ是ヲ以テ家甚貧シケレドモ畧意
ニ加ヘズ一日皆スリ之レヲ召サル辭スルニ疾ヲ以テス然ニ使者屢
々至リ之レヲ促ガス是ニ於テ龜理使者ニ私シテ曰小臣實ニ疾ナシ
但頃者衣服ヲ典シ妻ノ衣服ヲ着用ス是ヲ以テ殿ニ上ル能ハザルノ
ミト使者反リテカクト申セシカバヤガテ再ヒ使者ヲシテ衣服ヲ齎

ラサシメテ召レシカバ乃ケコレヲ服シテ殿ニ上リ旨ヲ奉シテ畫ヲ
作り畫キ畢リソノ衣袖ヲ以テ筆ヲ拭ヒ夷然トシテソノ賜ヲ所ノ新
衣ナルヲ忘レタル者ノ如シ白河某寺ノ僧嘗テ蟠龍ヲ堂ノ天井ニ
繪ガ、ント欲シ之レヲ龜理ニ屬セシガ其酒ヲ飲マザレハ筆ヲ執ラ
ズト聞シカバ酒肴ヲ設ケ之レヲ請延セシニ龜理至リテ放飲大醜シ
頽然トシテ曰今日我大ニ醉ヘリ復タ筆ヲ執ル能ハス請フ辭セント
テ醉脚蹣跚トシテ家ニ歸リ又其明日僧復タ酒食ヲ具ヘテ之レヲ請
フ龜理至リ又醉フテ畫ヲ爲サズ僧憮然トシテ爲カン所ヲ知ラズ龜
理將ニ歸ラントレテ寺丁ニ私シテ曰酒ヲ飲ンデ魚ヲ得ズ我意殊ニ
快足セズ魚ハ寺法ノ禁ズル所ナルベキモ和尚必ズ我畫ヲ得ント欲
セバ汝爲ニ善ク之レヲ計レ魚ハ小ナリト雖妨ナシト言テ歸リ又寺
丁此由ヲ僧ニ告シカバ僧モ釋然トシテ悟リソノ明日巨魚ヲ購ヒ更
ニ盛饌ヲ設ケテ請シカバ龜理復タ至リ豪飲時ヲ移シ爛醉淋漓タリ
僧復タ畫ノ成ラザルヲ懼ル稍久クシテ龜理徐カニ醉眼ヲ開キ起テ

畫筵ニ上リ袂ヲ攘ゲ筆ヲ握リ縱橫揮洒咄嗟ノ間一ノ大蟠龍ヲ成ス
精妙神ニ迫リ鱗角動カント欲ス殆ト醉漢ノ技倆ニ非ルナリ僧大ヒ
ニ喜ビ觀ル者皆歎服ス龜瑠ノ女小泉某ニ適ク一日歸リテ親ニ觀ヘ
將ニ還ラントス一物ノ携フベキナシ龜瑠乃チ畫一葉ヲ爲リ女ニ與
ヘテ曰汝是レヲ持テ某割烹店ニ到レ必ズ生魚ヲ得ベシト女其言
ノ如クセシニ果シテ生魚ヲ得携ヘテ夫家ニ歸ル蓋白河ノ地山近ク
シテ海遠シ人皆生魚ヲ以テ珍トナセリ女人ニ語ツテ曰阿爺ノ畫能
ク生魚ヲ致ス奇ナリト謂フベシソノ割烹店ニ至ルヤ店主拜シテ之
レヲ受ケ慇懃ニ生魚ヲ致ス事尤奇ナリト其畫ノ人ニ重ンゼラル
ト此ノ如シ龜瑠通稱林右衛門其畫尤遠磨ニ長ズト云男女ノ子各一
男某女ハ即チ小泉氏ニ適ク者ナリ某ノ子チ林太夫ト云林太夫男ア
リ林三郎ト云亦畫ヲ善クシ曾祖ノ遺風アリ惜ムベシ蚤ク没ス林太
夫ノ妻ハ高島士成ノ從姑ナリ故ニ我コレヲ士成ニ聞クト云夫レ人
奇ナル者其事亦奇ニシテ其筆モ亦奇ナリ龜瑠奇質有リ其技ヲ以テ

守國 保國ノ二公ニ事ヘ幸ニ明時ニ遭逢シテ以テ其奇ヲ逞スルヲ
得タリ亦奇男子ナル哉抑亦當日 公家才ヲ育ヒ人ヲ用ルノ盛之レ
ヲシテ然ラシムル者ナリ

明治二十七年十二月

秋山機記

此文嘗テ高島士成ノ談ヲ聞又其求ニ應シテ記スル所ニシテ本ト
漢文ナリシヲ今遍ク人ノ讀易カランガ爲ニコレヲ譯記スルト此
ノ如シ夫レ松波氏ノ事モトヨリ尋常繩墨ノ外ニ在ル者ニシテ一
々以テ法則トスベキ者ニ非ルナリ然リト雖其一種脫俗ノ意味氣
象ニ至テハ超然トシテ大ニ衆人ニ過ル者アリ之ヲ今人ニ求メン
ト欲スルニ蓋難キ者アリ而シテ今ノ當年ヲ距ル日月未ダ久キニ
非ズ然ニ郷人之ヲ知ル者少シ予幸ニ其詳ヲ聞クヲ得 公家長チ
採リ才ヲ錄スルノ美モトヨリ以テ窺フベク松波氏奇氣善畫ノ跡
亦以テ見ルベシ事皆以テ後世ニ傳ルニ足ル夫レ繪畫ハ一小技ノ
ミ而シテ當年ノ事此ノ如シ況マ其コレヨリ大ナル者チヤ其盛推

テ知ル可キナリ今舊稿ヲ閲スルニヨツテ感ズル所アリ故ニコレ
ヲ此ニ録シテ異聞ヲ分ツ亦勢海ノ一滴ニ非ルハナキナリ
明治三十七年七月
機又記

温知餘筆卷之十二

温知會第十回席上秋山先生談話 明治三十七年六月十五日

今日御話シスルコトハ矢張學術ノコトニツキテ申スノデアリマス
ガ但シ今日ハ又今日ノ感ズル所ニツキテ御話ナスルヤウニ致シマ
ス採昔カラシテ誰モ言フコトデ人ハ萬物ノ靈デアルトイフ何故サ
ウ言フカトイヒマスソレハ人間ニハ此人倫ノ道トイフモノガア
ルソレデ之ヲ萬物ノ中デモ最尊キモノトスル譯デアリマス扱人ト
イフモノハ必ズ其人倫ノ道ヲ具ヘテ居ル所ノモノデ人ト道トハ一
枚ノモノトナリテ居テ人ノ外ニ道ガアルデナク道ノ外ニ人ガアル
デナイカラシテ人ト言ヘバ必ズ人倫ノ道ノアルモノデアルサレバ
道ガアツテ人デアリマスダカラ人ニ尊ブ所ハ人倫ノ道デアリマ
ス扱此國トイフモノハ此多クノ人ノ集リテ此國ヲ成セル所ノモノ
デ人ノ外ニ國トイフモノアルデナシ國ノ外ニ人トイフモノアルデ
ナシツマリハナレ物デナイ夫故人ニ尊ブ所ハ人倫ノ道ニシテ國ニ

尊ム所モ亦人倫ノ道ニ外ナラヌ所ノモノデアルト知ルベシ
ソコデ先ヅ此天地ノ間ヲ見渡シテ所ガ此世界ニ在ル所ノ國トイフ
モノ其數多イナレドモ天下萬國ノ中ニテ我國ヨリ尊キ所ノ國ハチ
イトイツテヨイソレハ何故ゾトイフト我國ハ人倫ノ道ガ正シフア
ルカラデアアル扱國トイフモノガアレバ多クノ人ノ寄り集リテ居ル
所ノモノデア其ノ中ニハ上トシテ上ニ立テ給フ所ノ君アリ臣トシテ
下ニ立ツトコロノモノガア●上タル所ノ君ニ於テハ上タルノ道ヲ
以テ其ノ國中ノ臣民ヲ能ク教ヘ能ク養ヒ仁愛ヲ施シテユカレマス
又下タル所ノモノハ其上ヲバ捧グ戴キテ之ニ服シ其忠ヲ盡シテ事
ヘテユクトイフヤウニシマシテ上ハ仁愛ヲ以テ其下ニ仕向ケ下ハ
忠誠ヲ盡シテ上ニ事フ斯ノ如クシテソコデ上下ノ分トイフモノガ
定マリ上下相親ンデマ井リソレデ其國ヲ成シテマ井ル所ノモノデ
アル此國トイフモノガ立テ居ルトキハ差當リ君臣ノ大義ガ明カ
デナケレバ其國ヲ成シテマ井ルコトガ出來ヌモノデアリマス扱凡

ヘテ廣ク天下ニ國トイフ所ノ形ヲ成シテ居ル所ノモノハ何處ノ國
デアラフトモ君臣上下ノ立テ居ヌ國トイフモノハナイ若シソレ
ガナケレバ一日モ此國ヲ成シテ居ルコトガ出來ヌナレドモ古今多
クノ國々ナナガメテ見ルニ其君臣上下ノ分ガナイデハナイアルケ
レドモ之ヲ永久ニ保ツコトガ出來ヌ或ハ數世ニシテ替ハリ或ハ數
年ニシテ革マルトイフ様ナコトガ出來テクル甚シキニ至リテハ國
ヲ奪ヒ君ヲ弑ストイフ様ナ大變ヲ生ズルコトニ立テ至リ天下ノ乱
反覆シテ極リナキニ立テ至ルコト往々其例ヲ見ルコトデアルスノ
如キコトニ至ルノハ何故ゾトイフニ人倫ノ道ガ正シク明カデナイ
カラデアルト思ハレルマア斯ノ如キ者ガ世ニ多イトコロガ獨リ我
國ニ至リテハ大ニ之ト異ナル所ガアツテ上古聖神此ノ世ニ出デマ
シ此我神州ヲ關キ給ヒシヨリ世々ノ君ガ御位ヲ長ヘニ相繼ギテ上
ニ君トシ臨ミ給ヒ此天下ノ臣民ヲ愛シ養ヒ給フ又此國中ノ臣民モ
我ガ遠キ祖先ヨリ世々其天恩ノ下ニ生シ來リ自身未生ノ前ヨリ限

リナキ天恩ニ沐浴シテ居ルトイフ斯ノ如キ國ノ姿デアアルカラシテ
臣民タル所ノモノハ能ク己ノ心ヲ盡シ力ヲ盡シテ我ガ身ヲ致シ忠
ヲ盡シテ上ニ事ヘ國ヲ守ルコトヲ忘レヌ古來斯ノ如クデアリマシ
テ此處ガ他國ニ卓絶シテ他國ノ夢ニダモ見ルコトガ出來ヌ所デア
リマスソレデアアルカラ他國ニハ君臣上下ノアルトイフモノ、之ヲ
永世ニ保ツコトガ出來ズ遂ニ冠ト履トガ顛倒スルトイフコトニナ
ツテ大亂ノ生ズルコトデアアル處ガ獨リ我國ハ萬世一系ノ大君ヲ戴
キ臣民一心ニ事ヘマツレル國ニテソコガ他國ト異ナリテ獨リ萬國
ニ卓絶シテ尊シトスル所以デアアル前ニ言フ通り我國ハ人倫明カニ
君臣ノ大義ガ立テ居ルカラ如此ナル譯デアリマス此ノ我國ノ卓
絶セル風トイフモノハ之ヲ古ニ徵シ之ヲ將來ニ考ヘテ萬世替ルコ
トナキ尊キ國ナルコトハ固ク信ジテ疑ハザル所デアリマス
先ツ汎ク論シテ右ノ通りナモノデアアルトコロガ今日斯ノ如ク外征
ノ師起リテ我ガ將士ノ王師ニ從フ所ノモノニ於テハ果シテ如何ナ

ル有様ゾトイフニ現在今日ノ實事ニ吾人ノ見聞スル通りノ次第デ
將士一致シテ我身ヲ國ニ捧ゲテ身命ヲ顧ミズ生死ヲ度外ニ措キ國
ヲ爲ニ海ニ陸ニ勇戰奮闘シテ屢々大功ヲ奏スルコト斯ク如シ其實
ニ壯絶ナルコト古人ノ所謂視死如歸從容就死トイフ有様デ是ヲ以
テ大ニ國威ヲ天下ニ振ヒ多クノ國ヲシテ感嘆シテ其風ヲ望ミテ恐
レシムルトイフ旺シナルコトニ立テ至ツタ此ノ如ク特ニ我國ノ士
風旺シナル所以如何ニト言ハレソレハ外ノ仔細デハナイ乃ハ今前
ニ言フ所ノ本來我國ハ人倫ノ道正シク明カニシテ君臣ノ大義確然
トシテ立テ居ル國デ其ノ中ニ生レ出ル人民デアアルカラ其ノ忠勇
壯烈ナルコト此ノ如ク他國ト異ナル所ノ有ルヲケデアアル蓋其ノ君
臣ノ大義ノカタキ所カラシテ人々唯ダ國アルヲ知リテ家アルヲ忘
レ君アルヲ知リテ身アルヲ知ラズ故ニ其進ム所敵ヲシトイフ有様
ニナツテクルノデアアルソレニツキ過日モ外征ノ話シニ及ンダコト
ガアリマシテ我國ノ將士ノ忠勇ナルコトハ他國ニスグレテ格別デ

アルトイフ話シテ左ル人ニナシマシタニツキ私ノ其時言ヒマシタ
ニハソレハ我國ノ人間ハ他國人ニ比シテ本來人ノ性ガ違フノダト
イフダラ成程トイヒマシタソレニツキテ尙一步ヲ進メテソレハ元
來國ノ性ガ違フノダトイヒマシタソレハ一時ノ話デナカシイ言ヒ
分ノ様デアリマスガ前ニ段々言ヒマス通りテ言ハバ我國ハ特ニ國
ノ性ガ違フノデアアル其性ノ違フ國ノ中ニ生レ出ル人間ナレバ其人
ノ性モ他國ノ人ノ性ニ違フ故他國ノ人ノナシ得ザル所モ我國人ハ
ヨクナシ得ルワケデアリマス扱コレガ今日ニ始マリシコトテナイ
昔カラ我東方義勇ノ風トハ等シク世ノ稱スル所デアアル成程昔モ今
モ其通り我國人倫ノ明カナル君臣ノ大義立サテ特ニ尊キコト今日
實事ニ照シテコレガ實證タルコト昭々ナリ
扱右言フ所ノ我國義勇ノ風ハ何處カラ出ルトイフト先少其ノ義勇
ナル美風ノ其骨子トナル所ノモノヲ吟味セネバナラヌソハ何ゾト
イフト即君臣ノ大義トイフモノユアリマス其君臣ノ大義トイフモ

ガレキント立テ居ラソレサ骨トシテ其勇ヲ行クテモ非ルコトデ
アルサレハ其義勇ノ風ガ最モスグレ美トスル所ヲケデアアル其
君臣ノ大義トイフモノガ何デアアルカトイフト即人倫ノ道デアアルノ
道ガ明カニ正シイカラ君臣ノ大義ガレキント立テ居ルノデアアル之
ヲ要スルニ此人倫ノ道トイフモノガ明カニ正シイトイフガトント
ノ本デアアル我國ガ多クノ國ニ卓絶シテ居ルト云ワケモ此ニアルシ
テ見ルト人倫ノ國ニ關係スルコトハ實ニ重大ナルコトト思ハレル
シテ見ルト我國ノ人倫ノ道ノ明カナル所ハ素ヨリ立派ナモノデア
ルガ尙此上進ミテ人倫ノ道ヲ講究シテ益々之ヲ正シク明カニシテ
マ非ルトイフコトガ最モ今日ノ必要トスル所デアラウト思ハレマ
スソレニツキテハ此ニ聊人倫トイフコトニツキテ一言御話セン
扱人倫ト申セバ今更改メテ言フデモナイガ凡ベテ人間ハ此人トイ
フ所ノ體ガアレバ其身ニツキテ是非人倫トイフモノガ自然ニアル
其ハ知レタコトナガヲ讀ミ立ツレバ父子有親君臣有義夫婦有別長

幼有序朋友有信于人此身アレハ必ズ此父子君臣夫婦長幼朋友ノ五ツガアルコノ五ツガアレバソノマ、スグニ親義別序信ノ則ガアルコレガコレヲヘタモノデナイ自然ト具ハツテ有ル所ノモノデアル五ツアルユヘ五倫トイヒ是ヲ以テ人ヲ教フルユエ之ヲ五教トイフ教トイフモノハ廣キモノナレドモ其要ノ歸スル所ハ此五教ニ外ナラヌ其學ブトイフハ即チ此五教ヲ學ブコトデコレガトントノ人間ノ大根本ナリデアアル其學ノ方法ニ至リテハ委細聖賢ニ説ニ具ハツテアリテ學者ノ一々講究セホバチラヌ所デアアル扱其人倫ノ教ヲ學ブトイフガ別シテ今日ノ學ノ大事ニテ其學ハ他デナイ斯ノ道學即チ是ナリ斯學ハ段々申ス通りノワケデ人間ニ離ルベカラザル所デズツテ所謂道也者不可須臾離也ト云フ其道ヲ學フ所ヲ學問デアリ人ノ必ズ學バホバチラヌ所ノ學デアアル扱先ヅ今日汎ク學トイハル種々ズル様ニレドモ多クノ夫々ノ技藝ノ學トイフニ至テハ數多イコトヲアリテ人間ニ我ニ身ヲ以テ悉ク

得ヘキニテチタ其衆技ヲ學トハハ人各擇ル所チ盡ル申ノ人ハ此技ヲ擇ルニ志ヲ養ハ彼ニ藝ヲ學ブキチサコトニナルト其自ガ唯斯道學ハ人間ヲ離ルベカラザル學チレバコレヲ擇ルノトウレト云フトノ出来者チハ人皆必ズ其以テ學シ其藝ヲ修メテ又譯ノモノヲチラカレハ斯學ヲ進ムニ隨フテ其倫ガ益々明カニチル筈チ今日斯學ヲ學ビテ之ヲ明カニシテマ非ルコトガ二分チレバ前ニ言フ所ノ君臣ノ大義モ一分明カニチリテクルモノチ斯學チ修ムル力ニ隨ヒテ益々此君臣ノ大義ガ明カニ立チテマ非ルモノデアル夫故前ニ言フ通り我國ハ君臣ノ大義ガ明カナル所カラシテ特ニ尊キワケデアアルガ尙益々進ンデ斯學ヲ明カニセバ其大義益々明カニナリテ事ノ有ル無キ又常ノ時ト變ノ時トニ關カハラズ此大義常ニ天下ニ明カナルベシ大義常ニ明カニナレバ上下同心闔國一致シテ臣民タルモノ益々上ニ忠ヲ盡シ身ヲ致シ内ハ國家ヲ守リ外ハ外侮ヲ禦ギ益々永ク遠ク此美風ヲ盛ニシ我國威チ天下ニ發揚シテユ

クコトガ立派ニ出来テクル斯ノ如ク我國ノ人ハ前キ
ヘル如ク義勇ノ風ハ特ニ卓絶シテ居ル是レ天性ニ稟ケ得テ其美ヲ
モツテ居ル其上斯學ノ力ヲ以テ人倫ノ道君臣ノ大義ヲ明ニセバ愈
々益々此國ノ尊嚴ヲ萬世ニ保ケテ長ヘニ天下ニ冠絶スルコトが出
來ル今日ノ上ハ前ニ言ヒシ通り義勇ノ美風ハ明カニ立テ居ルダ
ガ人倫ノ學ハ未ダ大ニ進ミシトハ今日ノ有様ニテハ言ハレナイソ
コデ現在ニ安ンゼバ此上益々人倫ノ美風ハ進ミシトハ言ハレナイソ

クハ、
加
其
大
明
早
川

此席上ノ証ニ充
早川

